

第4章 調査の成果とまとめ

東宮遺跡では、これまでに例がないほど良好な遺存状況で7カ所の屋敷跡、畑等が検出されている。そのため、多くの方々に専門的な見地から指導、助言を頂き、遺跡の理解を深め調査にも活かしてきた。ここでは、遺構・建築部材編に関わる自然科学分析成果及び専門家による被葬者の様相等についてを、第4章「調査の成果とまとめ」として掲載する。これ以外の自然科学分析成果及びまとめ等については、遺物とともに次年度刊行予定の遺物編の中で掲載する。

2号建物、13号建物では、埋設された桶が検出された。2号建物のように多くの桶を埋設した特異な出土例もあり、桶がどの様に使われていたのかには疑問も残る。そこで、(株)パレオ・ラボに、桶内に残る土壌から寄生虫の分析を委託した。結果、2号建物に埋設された8基の桶のうち、人に寄生する回虫卵及び鞭虫卵が検出できたものが6基あることが確認できた。そのうちの3基以外は寄生虫卵の数が少ないことも分かったが、これは天明泥流により、試料中に多量の砂礫が混入したためとも考えられる。また、桶上には板があり、2カ所、計4枚の板(「二本桶」と考えられる渡し板)は中央付近でコの字状に割られていた。この付近の1・4号桶からは人に寄生する寄生虫卵が確認でき、便槽と寄生虫卵数との相関関係が確認できたものと考えている。

出土した墓坑からは人骨が出土した。共存する渡来銭から、中世或いは寛永通寶が広く流通する以前の近世初頭までに帰属する墓坑と考えている。東宮遺跡では中世以前の遺構及び遺物が希薄で、当時の様相を知る上でも、被葬者の性別、死亡年齢については重要な基礎資料と考えている。

これらの分析成果等については、遺構との関連とともに本文の中でも詳述している。参照して頂きたい。

1 東宮遺跡の寄生虫卵

1. はじめに

長野原町川原畑東宮地内に所在する東宮遺跡は、吾妻川左岸の河岸段丘上に立地している。この東宮遺跡においてハツ場ダム建設工事に伴い発掘調査が行われ、天明三年(1783年)の浅間山噴火による泥流に埋もれた屋敷跡・畑・石垣などが検出されている。そのうち2号建物の内部に90～120cmの桶が8個埋設されているのが認められ、この桶の使用目的として近隣地域の民俗例から「ならしだめ(人糞尿と蚕の糞を混合して作った肥料を備蓄しておくための桶)」の可能性が高いと考えられている。検出された桶がこの「ならしだめ」とすると桶内に人糞が混入していると考えられ、その人糞中にはヒトに寄生した寄生虫の卵が混入している可能性が推測される。こうしたことから桶を埋積している土壌について寄生虫卵分析を行い、人糞の有無について検討した。

2. 試料と分析方法

試料は2号建物より検出された桶8個と13号建物の桶1個の計9個の桶底面より採取された土壌試料である。各試料について、試料1(2号建物1号桶)は有機質土やレキ混じりの黒色砂、試料2(2号建物2号桶)も有機質土やレキ混じりの黒褐色砂、試料3(2号建物3号桶)および試料4(2号建物4号桶)も有機質土やレキ混じりの黒褐色砂である。試料5(2号建物5号桶)は植物遺体が密集した黒褐色有機質土である。試料6(2号建物6号桶)、試料7(2号建物7号桶)、試料8(2号建物8号桶)は有機質土やレキ混じりの黒色砂で、砂が多く混入している。試料9(13号建物1号桶)は黒褐色の有

第4章 調査の成果とまとめ

機質土が若干混じる砂レキである。これら9試料について以下の手順にしたがって寄生虫卵分析を行った。

体積を計測した試料に10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体や小レキなどを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎）を行う。この残渣に適容量のグリセリンを加え容量を測定した後保存用とした。検鏡は使用容量を計測したプレバートを作製し、全面にわたり行った。

3. 分析結果

観察の結果、2号建物の6試料より回虫卵と鞭虫卵の2分類群の寄生虫卵が検出され（表1）、図1にその分布を示した。以下に示す個数は試料1cc中の寄生虫卵個数である。

最も多く検出されたのは2号建物の4号桶の298個で、すべてが回虫卵であった。次いで多いのは同建物の1号桶の242個（回虫卵183個、鞭虫卵59個）、3号桶の回虫卵160個であった。その他、6号桶、7号桶、8号桶から若干の回虫卵が検出されている。一方、13号建物の1号桶から寄生虫卵は検出されなかった。

4. 糞便の混入について

上記のように2号建物の6試料において寄生虫卵が観察された。ここで寄生虫卵個数について示すと、試料1cc中に1,000個以上の寄生虫卵があれば糞便の可能性があると考えられている（金原1997）。東宮遺跡においてはこの1,000個を越える試料は無く、金原（1997）に従えば分析試料が糞便である可能性は低いと考えられる。しかしながら試料5を除く8試料においては砂やレキが多く混入して

いることから、分析試料中の糞便混入密度はかなり低くなっている可能性が十分考えられ、それが要因で単位体積当たりの寄生虫卵数が少なくなっていると思われる。こうしたことから少なくとも寄生虫卵が検出された6個の桶については糞便が混入している可能性はあると推察されよう。

寄生虫卵が認められなかった試料5についてはその試料の大半が植物遺体（種類不明）であったことに起因していると思われる。また、試料9においては有機質土（糞便？）の混入量がかなり低く、それが要因ではないかと思われる。一方、試料2は寄生虫卵が認められた他試料と同様の土相とみられるが寄生虫卵は得られず、その要因について現時点では不明である。

観察された回虫は人類寄生虫の最も普通のもので、鞭虫も世界に広く分布しており（中村ほか、1994）、両分類群ともヒトに寄生する寄生虫である。なお、回虫卵は野菜や土壌に接触した手先から、鞭虫卵は野菜や塵埃とともに経口的に摂取される（中村ほか、1994）。

引用文献

- 金原正明（1997）自然科学的研究からみたトイレ文化。トイレの考古学。大田区立郷土博物館編。197-216。
- 中村敬夫・佐藤淳夫・荒木恒治・辻守康（1994）医学要点双書10 寄生虫病学 第2版。203p。金芳堂。

表1 試料1cc中の寄生虫卵個数

遺構		試料 No.	全寄生虫卵	回虫卵	鞭虫卵
2号建物	1号桶	1	242	183	59
	2号桶	2	0	0	0
	3号桶	3	160	160	0
	4号桶	4	298	298	0
	5号桶	5	0	0	0
	6号桶	6	38	38	0
	7号桶	7	9	9	0
	8号桶	8	15	15	0
13号建物	1号桶	9	0	0	0

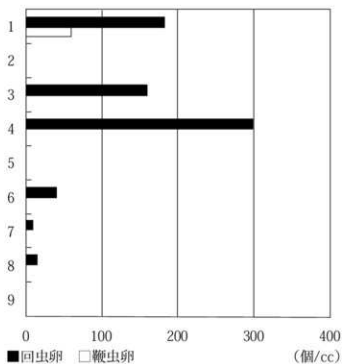
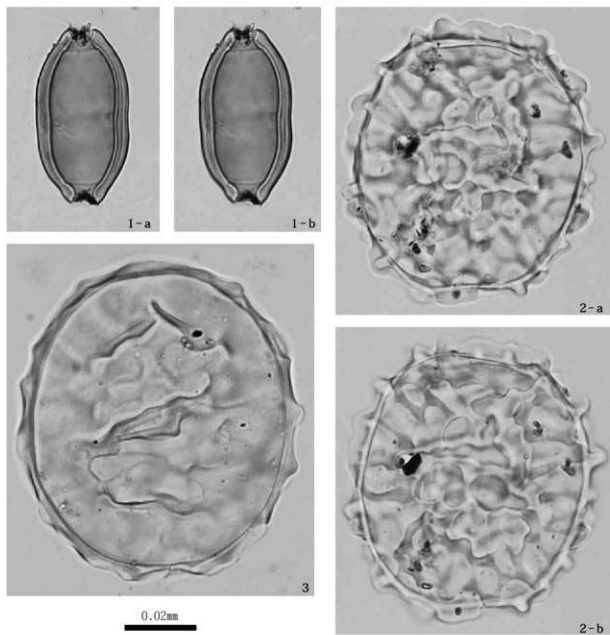


図1 東宮遺跡の寄生虫卵分布図

第4章 調査の成果とまとめ



図版 東宮道跡2号建物の寄生虫卵

- 1：鞭虫卵 PLC.SS 4780 試料1 (1号桶)
- 2：回虫卵 (受精卵) PLC.SS 4781 試料3 (3号桶)
- 3：回虫卵 (未受精卵) PLC.SS 4782 試料4 (4号桶)

2 東宮遺跡出土人骨

はじめに

東宮遺跡は、群馬県長野野町に所在する。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成19(2007)年10月～12月及び平成20(2008)年4月～12月まで実施された。

本遺跡の59区1号土坑より、中世の人骨が検出されたので以下に報告する。人骨は、クリーニング後、観察・写真撮影・計測を行った。なお、出土歯の計測方法は、藤田の方法に従った(藤田, 1949)。

1. 人骨の出土状況

人骨は、土坑底部から検出されたために、土坑の詳細な規模は不明である。直径約70cmの円形あるいは隅丸方形土坑であると推定される。検出時の深さは、約70cmである。

2. 人骨の出土部位

人骨の残存状態は非常に悪く、わずかに遊離歯の歯冠部のみ検出されている。

3. 被葬者の埋葬状態

本被葬者は、約40歳代～50歳代の成人女性であると推定されている。土坑の規模は、直径約70cmであるので、被葬者は座葬か屈葬で埋葬されたと推定される。

4. 副葬品

副葬品は、中世の銭貨3点が検出されている。

5. 被葬者の個体数

出土遊離歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

6. 被葬者の性別

出土遊離歯の歯冠計測値は比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

7. 被葬者の死亡年齢

出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が面状に露出する程度のマルチンの3度の状態である。したがって、被葬者の死亡年齢は約40歳代～50歳代であると推定される。

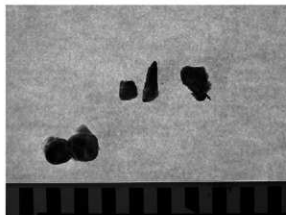


写真1 東宮遺跡59区1号土坑出土人骨

表1 東宮遺跡出土中世人骨出土永久歯歯冠計測値及び比較表

歯種	計測項目	59区1号		中世時代人*		江戸時代人*		現代人**		
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀	
上顎	P2	MD	—	6.0	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
	BL	—	8.5	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23	
C	MD	6.2	—	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68	
	BL	7.4	—	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50	
下顎	P1	MD	6.8	—	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
	BL	7.5	—	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77	
M2	MD	—	10.7	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89	
	BL	—	10.2	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20	
M3	MD	9.5	—	9.5	—	—	—	10.96	10.65	
	BL	9.6	9.3	—	—	—	—	10.28	10.02	

注1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。

注2. 歯種は、C(犬歯)・P1(第1小臼歯)・P2(第2小臼歯)・M2(第2大臼歯)・M3(第3大臼歯)を意味する。

注3. 計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・BL(歯冠側舌径)を意味する。

注4. 「※」は、MATSUMURA(1995)より引用。なお、MATSUMURA(1995)には、第3大臼歯のデータは無い。

注5. 「**」は、植田(1959)より引用。

まとめ

東宮遺跡の59区1号土坑から、中世の約40歳代～50歳代の女性1個体が出土した。被葬者は、座葬か屈葬で埋葬されたと推定される。出土歯には、古病理は認められなかった。

引用文献

- 植田恒太郎 1949 歯の計測基準について、「人類学雑誌」, 61: 1-6
 植田和良 1959 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」, 67: 151-163
 Matsumura, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, *National Science Museum Monographs No.9*, National Science Museum, Tokyo

遺物観察表

遺物観察表（建築部材・木製品）

図版番号	図版番号	出土位置	種類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹種	年輪幅 (本/3cm)
				長さ	幅×厚さ					
15504	1建1	1建	遣方小杭	34.0	4.0×3.4	心去材	無	角材。右側面から斜めに加工され地部が欠る。	スギ	4
15504	1建2	1建	遣方小杭	30.0	2.8×3.3	心去材	無	角材。右側面から斜めに加工され地部が欠る。	スギ	12
15504	1建3	1建	遣方小杭	29.2	3.8×2.0	心去材	無	角材。右側面から斜めに加工され地部が欠る。	スギ	17
15504	1建4	1建	遣方小杭	27.6	4.6×3.3	心去材	無	打割り材。右側面から斜めに加工され地部が欠る。	スギ	3
15504	1建5	1建	遣方小杭	28.8	4.6×2.7	心去材	無	打割り材。右側面から斜めに加工され地部が欠る。	スギ	5
15504	1建6	1建	遣方小杭	41.1	4.4×3.4	心去材	無	角材。表と右側面から斜めに加工され地部が欠る。	スギ	12
15504	1建7	1建	遣方小杭	37.9	4.2×3.2	心去材	無	角材。右側面と裏面から斜めに加工され地部が欠る。	スギ	7
15604	1建8	1建	遣方小杭	36.7	4.9×3.6	心去材	無	角材。表の左側面寄りの角が削り取られる。右側面と裏面から斜めに加工され地部が欠る。	スギ	11
15604	1建9	1建	遣方小杭	29.1	3.3×2.5	心去材	無	角材。右側面から斜めに加工され地部が欠る。	スギ	9
15604	1建10	1建	遣方小杭	34.5	3.0×2.8	心去材	無	角材。右側面から斜めに加工され地部が欠る。	クリ	6
15704	1建12	1建	北懸土台	379.0	23.0×15.0	心持材	無	表・左側面・右側面には成形時のヨキによるものと思われるきめ細かい斜行面。裏面にもヨキによるものと思われる粗い加工面有り。表には柱が接合すると考えられる深さ15cmの小穴3ヵ所。土壁付材（間渡し竹）が接合すると考えられる深さ2cmの小穴6ヵ所有り。左側面には7ヵ所角材が打ち込まれ、側面の駒が接合し、4ヵ所釘により固定される。表の左側面寄りに1ヵ所欠込有り。天地とも継手は目違い入りの平切り継ぎ（継木の形状は継ぎぎに類似）。側板の天寄りに表から左側面へ貫通した穴有り。裏面には2ヵ所礎石の当たりに対応した凹みが施される。表の上半部は裏出入口に相当し、表面が摩耗している。	クリ	-
15804	1建13	1建	北懸土台	393.0	16.0×15.0	心持材	無	表・左側面・右側面には成形時のヨキによるものと思われるきめ細かい斜行面。裏面にもヨキによるものと思われる粗い加工面有り。表には柱が接合すると考えられる深さ8cmの小穴、土壁付材（間渡し竹）が接合すると考えられる深さ1.5cmの小穴有り。天地の継手は目違い入りの平切り継ぎ（継木の形状は継ぎぎに類似）。右側面地寄りに左懸形の仕口で土台が接合する。裏には2ヵ所礎石の当たりに対応した凹み施される。	クリ	-
12004	1建14	1建	北懸土台（短）	91.0	13.5×14.0	心持材	無	表に成形時のヨキによるものと思われる加工面明確に残るが、裏面・左側面・右側面とも同様の成形と考えられる。表に土壁付材（間渡し竹）が接合すると考えられる深さ1.5cmの小穴有り。天地の仕口は平納で方形の駒が施される。地部の仕口は継ぎ形。	クリ	-
15904	1建15	1建	北懸土台	489.0	17.0×16.0	心持材	無	表は平納だが加工面不明。左側面・右側面・裏面には刃長17cm以上のヨキによるものと思われる成形時の直積有り。表には柱が接合すると考えられる駒が3ヵ所。左側面には短い土台の駒が天部には縦掛状に、側面には土台の駒が大入状に接合していた。裏面には天地寄りに礎石の当たりに対応した凹み施される。	クリ	-
16004	1建16	1建	北懸土台	(139.0) × 18.0 × 15.0		心持材	無	成形時の加工面は不明。表及び地部は縦板により欠損。天部の仕口は平納で方形の駒が施され土台に接合する。表には柱が接合すると考えられる駒が有り。右側面から右側面には貫通する駒が施され、右側面には土台の平駒の縦掛状に接合する。	クリ	-
16004	1建17	1建	床の間土台	(141.0) × 17.0 × 13.0		心持材	無	左側面には成形時のヨキによるものと思われる加工面有り。表及び地部は縦板により欠損。天部の仕口は平納で方形の駒が施され土台に接合する。	クリ	-
16104	1建18	1建	西懸土台	456.0	19.0 × 15.0	心持材	無	表・左側面・右側面には成形時のヨキによるものと思われるきめ細かい斜行の加工面。裏面にもヨキによるものと思われる粗い加工面有り。表には柱が接合すると考えられる深さ8cmの小穴、土壁付材（間渡し竹）が接合すると考えられる深さ1.5cmの小穴有り。天部の仕口は平納で方形の駒が施され、縦掛状に西懸土台に接合する。裏には5ヵ所礎石の当たりに対応した凹み施される。裏には3ヵ所礎石の当たりに対応した凹み施される。	クリ	-
16204	1建19	1建	南懸土台	(994.0) × 27.0 × 16.0		心持材	無	2本の土台が目違い入り継ぎにより接合している。どちらの部材も表・左側面・右側面には成形時のヨキによるものと思われるきめ細かい斜行の加工面。裏面にもヨキによるものと思われる粗い加工面有り。表には柱が接合すると考えられる深さ8cmの小穴、土壁付材（間渡し竹）が接合すると考えられる深さ1.5cmの小穴有り。天部の仕口は平納で方形の駒が施され、縦掛状に西懸土台に接合する。裏には5ヵ所礎石の当たりに対応した凹み施される。地部は縦板により欠損。2本の土台の接合部裏面は建物表出入口部に相当し、開口部に相当する部分は土台の摩耗が著しい。また、右側面（建物内側）には、7ヵ所小さな角材が打ち込まれ、戸の溝と考えられる角材を十字状に加工した部材が駒穴で接合している。溝の地部寄りに戸止めの角材が打ち込まれ、また、出入口中央部には、側面から欠込が施された角材が釘2ヵ所固定されている。	クリ	-

遺物観察表

図版番号	図載番号	出土位置	種 類	計測値 (cm) 長さ×幅×厚さ	木取り	転用の 有無	成形、調整の特徴など	樹 種	年輪幅 (本/3cm)
163図	1建20	1建1床	束	32.0×13.6×13.2	心持材	有	礎石上に直置きされ、天部の駒が1建4南大引西木口の駒穴に接合していた。左側面・右側面には小駒穴状の小穴(深さ1.7cm)各1カ所施されるがどちらも未使用。地部(底面)は1建21同様、礎石と密着させるように中央部がやや凹んでいる。刃長約15mmのノミ痕多数有り、工具・工法とも類似する。裏面は角材に製材されており、丸太面が見える。表の縦方向の角は面取りが施される。	クリ	4
163図	1建21	1建2床	束	36.0×13.3×13.4	心持材	有	礎石上に直置きされ、左側面上部の欠込に大引(1建43・44)が接合する。表から裏面に駒穴が貫通し、表・裏面には小駒穴状の小穴(深さ約1.8cm)が各1カ所施されるが、どちらも未使用。地部(底面)はやや丸みを帯びた礎石に密着させるように、中央部がやや凹んでいる。底面には刃長約15mmのノミ痕多数有り、成形時の加工痕は見えないが、角材の縦方向の角は全て面取りが施される。	クリ	4
164図	1建22	1建2床	束	30.8×23.5×16.5	心持材	有	2床の地面に直置きされていた。表の天部寄りをヨキかチョウナにより削り取り、天部がやや凹みなるように加工している。表は束の北面。	マツ属 椎 崖 崖 重 重 木	4
164図	1建23	1建3床	束(代用)	32.8×14.4×14.1	心持材	無	1建7北大引を補助的に保持していた。	-	8
165図	1建24	1建3床	束	38.0×13.9×13.5	心持材	無	地面に直置きされ、天部の駒が1建100南大引西木口の駒穴に接合していた。表・左側面・裏面には親利な刃物の痕跡多数有り。表・右側面・裏面には成形時のヨキかチョウナの痕跡有り。天部の駒は副使用により作出される。裏面には縦方向に1条の縦筋有り。地部(底面)に、礎石に密着させるような痕跡は見られない。	スズ	4
165図	1建25	1建3床	束(代用)	30.7×14.0×7.4	心持材	有	1建A-3礎石上に積み重ねられた4枚の板材・角材(下から1建25・26・27の順)の1枚で、束の代用として1建100南大引を保持する。左側面及び裏面の天部寄りには、僅かな欠込が施される。表・裏面・右側面には親利な刃物の痕跡多数有り、作業台として使用された角材からの転用であろう。	スズ	4
165図	1建26	1建3床	束(代用)	13.4×8.8×2.0	心材	無	1建A-3礎石上に積み重ねられた4枚の板材・角材(下から1建25・26・27の順)の1枚で、束の代用として使用。	スズ	4
166図	1建27	1建3床	束(代用)	56.4×12.3×2.8	心材	有	1建A-3礎石上に積み重ねられた4枚の板材・角材(下から1建25・26・27の順)の1枚で、束の代用として1建100南大引を保持する。地木は横に加工され、また、表の地部寄りにには僅かに欠込が施される。	マツ属 椎 崖 崖 重 重 木	4
166図	1建28	1建4床	束	24.4×12.2×12.2	心持材	無	礎石に直置きされ、大引を支える束。天部には駒穴が作出される。地部(底面)は僅かに中央部がやや凹んでいる。左側面には成形時のヨキかチョウナの痕跡有り。	クリ	4
166図	1建29	1建4床	束	14.3×10.3×10.1	心持材	無	礎石に直置きされ、大引を支える束。地部(底面)は中央部が凹んでいる。	クリ	4
166図	1建30	1建5床	束	(25.7)×12.2×12.3	心持材	無	礎石上に直置きされ、大引を保持していたと考えられるが、天部は腐蝕により欠損して先細り。本来の形状や仕口の正確さを定めていない。表・左側面・右側面・裏面には成形時のヨキかチョウナの痕跡有り。角材の縦方向の4つの角はやや凹みに面取りが施される。地部(底面)は中央部が約1cm凹んでいる。	クリ	4
167図	1建31	1建馬屋	縦立柱	(299.5)×36.5×21.0	心持材	無	1建馬屋6号ピットに掛けかけ合ったまま遺存。断面四角形の部材。天部寄り表面が厚い。右及び左側面中央付近に、刃物の駒穴各2カ所有り。地部寄りに、右側面から左側面に貫通する長方形の駒穴有り。馬屋の馬格枠や仕切りを受けた部材材。	クリ	-
168図	1建32	1建1床	床板	276.0×12.0×3.0	板目材	無	木炭を上面に使用。表には成形時の副による加工痕、裏面・左側面・右側面にはチョウナによる加工痕有り。表の天地寄りに各1条の墨有り。表天部寄りに貫通する釘痕2カ所有り。	スズ	-
168図	1建33	1建1床	床板	277.0×12.0×3.0	板目材	無	木炭を上面に使用。裏面・左側面・右側面には成形時のチョウナによる加工痕あり。表は平滑だが加工痕不明。表に2条の墨有り。表天部寄りに貫通する釘痕2カ所有り。	-	-
168図	1建34	1建1床	床板	275.0×12.0×3.0	板目材	無	表・左側面・右側面・裏面とも成形時の副による加工痕有り。表に3条の墨有り。表から裏面へ貫通する釘痕2カ所有り。	スズ	-
168図	1建35	1建1床	床板	275.0×12.0×3.0	板目材	無	木炭を上面に使用。裏面には成形時の副による加工痕、左側面・右側面にはチョウナによる加工痕有り。表は平滑だが加工痕不明。表に4条の墨有り。表天部寄りに裏面へ貫通する釘痕1カ所有り。	スズ	-
170図	1建36	1建1床	床板	275.0×12.0×3.0	板目材	無	木炭を上面に使用。表・裏面とも成形時の副による加工痕あり。表に3条の墨有り。表天部寄りに裏面へ貫通する釘痕1カ所有り。	スズ	-
170図	1建37	1建1床	床板	275.0×12.0×3.0	板目材	無	木炭を上面に使用。表・裏面とも成形時の副による加工痕あり。表に3条の墨有り。表から裏面へ貫通する釘痕2カ所有り。	スズ	-

遺物観察表

図版番号	記載番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹 種	半輪幅 (本/3cm)
				長さ	幅×厚さ					
171図	1建38	1建1床	大引	(125.0)	×5.0×13.5	心去材	有	成形時の加工面は不明。天部は欠損する。地部には2段の欠けが施される。右側面に掛け1カ所、裏面に納穴1カ所施されるが未使用。	マツ属 複重管束亜属	-
171図	1建39	1建1床	根太	(76.0)	×7.0×6.0	心去材	無	1建39と40は同一個体。1建40の地部の納穴、大引へ嵌合すると考えられる。表・右側面・裏面には成形時の跡による加工痕、左側面にはチョウナによる加工痕有り。	マツ属 複重管束亜属	-
171図	1建40	1建1床	根太	(77.0)	×7.0×6.0	心去材	無	1建39と40は同一個体。1建40の地部の納穴、大引へ嵌合すると考えられる。表・右側面・裏面には成形時の跡による加工痕、左側面にはチョウナによる加工痕有り。表地部寄りに釘痕1カ所有り。	マツ属 複重管束亜属	-
172図	1建41	1建1床	大引	(262.0)	×11.2×14.2	心持材	有	右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。表・左側面は平滑だが加工痕不明。天部は腐蝕により欠損。地部には納けが作られていたものと考えられるが欠損する。表と右側面との境界部には幅1.5cm×深さ2cmの板切りが施される。(約13cmのノミ使用)。左側面の納穴には2床の大引が嵌合するが、裏面の納穴は未使用。	マツ属 複重管束亜属	-
173図	1建42	1建1・4床境隅	大引 (根太掛)	(166.0)	×12.0×18.0	心持材	無	天部は腐蝕により欠損。他の部分も腐蝕や欠損が深い。左側面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕、右側面にはヨキかチョウナによる加工痕と鋸の加工痕が混在する。右側面には根太差し口と考えられる納穴3カ所有り。左側面には差し口掛け口は不明だが2カ所施され、1カ所には1条の墨有り。	マツ属 複重管束亜属	-
174図	1建43	1建2床	大引 (根太掛)	(230.0)	×3.0×13.0	板目材	無	1建43と44は同一個体。表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天部に作出された納穴は1床大引の納穴に嵌合する。地部は欠損。表には根太の掛け口が3カ所施される。表の釘痕2カ所は使用状況不明だが、左側面地部の釘痕は1建2の束に固定されていた。	スギ	-
174図	1建44	1建2床	大引 (根太掛)	(107.0)	×3.0×12.0	板目材	無	1建43と44は同一個体。右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕不明。天部は腐蝕により欠損。地部に納等の仕は見られない。	スギ	-
174図	1建45	1建2床	根太	(78.0)	×6.0×6.5	心去材	無	表・左側面・裏にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。右側面と天部は腐蝕により欠損。天部に多数の釘痕有り。地部の仕立は磨掛け。	-	-
174図	1建46	1建2床	根太	(67.0)	×9.0×6.0	心去材	無	成形時の加工痕不明。天部は腐蝕により欠損。表に多数の釘痕有り。地部の仕立は磨掛け。	マツ属 複重管束亜属	-
175図	1建47	1建3床	床板	62.0	×21.0×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表・裏面とも平滑だが成形時の加工痕不明。	マツ属 複重管束亜属	-
175図	1建48	1建3床	床板	61.0	×18.0×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表・裏面とも平滑で成形時の加工痕不明だが、鋸による成形の可能性高い。	クリ	-
175図	1建49	1建3床	床板	67.0	×26.0×1.5	板目材	無	木表を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。裏面は平滑だが成形時の加工痕不明。	マツ属 複重管束亜属	-
175図	1建50	1建3床	床板	67.0	×28.0×1.5	板目材	無	木表を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。裏は平滑だが加工痕不明。裏面天・地寄りに大引及び根太への当たりの痕跡有り。	マツ属 複重管束亜属	-
175図	1建51	1建3床	床板	(113.0)	×13.0×1.5	板目材	無	木表を上面に使用。表の釘痕は根太及び大引へ対応し固定されたものである。天部は腐蝕により欠損。	マツ属 複重管束亜属	-
176図	1建52	1建3床	床板	154.0	×21.0×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表の釘痕の位置に対応し、裏面には根太への当たりの痕跡4カ所有り。表・裏面とも平滑だが、成形時の加工痕不明。	クリ	-
176図	1建53	1建3床	床板	154.0	×19.0×1.5	板目材	無	木表を上面に使用。表の釘痕の位置に対応し、裏面には根太への当たりの痕跡4カ所有り。表・裏面とも平滑だが、成形時の加工痕不明。	クリ	-
177図	1建54	1建3床	床板	179.0	×31.0×1.5	板目材	無	木表を上面に使用。表・裏面とも鋸による成形時の加工痕有り。表の釘痕の位置に対応し、裏面には根太への当たりの痕跡3カ所有り。	マツ属 複重管束亜属	-
178図	1建55	1建3床	床板	(96.0)	×29.0×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表・裏面とも鋸による成形時の加工痕有り。天部は欠損。	マツ属 複重管束亜属	-
178図	1建56	1建3床	床板	(107.0)	×22.0×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。天部は欠損。	クリ	-
178図	1建57	1建3床	床板	(115.0)	×24.0×1.5	板目材	無	木表を上面に使用。表・裏面とも平滑で鋸による成形と考えられる。表の釘痕の位置に対応し、裏面には根太への当たりの痕跡2カ所有り。天部は腐蝕により欠損。	マツ属 複重管束亜属	-
178図	1建58	1建3床	床板	(99.0)	×27.0×1.5	板目材	無	木表を上面に使用。表・裏面とも平滑だが成形時の加工痕不明。地部は腐蝕により欠損。	クリ	-
179図	1建59	1建3床	床板	(81.0)	×21.0×1.5	板目材	無	木表を上面に使用。裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。表は平滑だが成形時の加工痕不明。天部は腐蝕により欠損。	マツ属 複重管束亜属	-

遺物観察表

図記番号	記載番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹 種	年輪幅 (本/3cm)	
				長さ×幅×厚さ							
1790	1建60	1建3床	床板	87.0	×18.0	×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。裏面は平滑だが加工痕不明。	マツ属 複 雑 管 束 垂 風	-
1790	1建61	1建3床	床板	87.0	×25.0	×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。裏面は平滑だが加工痕不明。	マツ属 複 雑 管 束 垂 風	-
1790	1建62	1建3床	床板	86.0	×30.0	×1.5	板目材	無	木裏を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。裏面は平滑だが加工痕不明。	マツ属 複 雑 管 束 垂 風	-
1790	1建63	1建3床	床板	86.0	×26.0	×1.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。裏面は平滑だが加工痕不明。	マツ属 複 雑 管 束 垂 風	-
1800	1建64	1建3床	床板	159.0	×19.0	×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表・裏面とも平滑だが加工痕不明。	クリ	-
1800	1建65	1建3床	床板	159.0	×14.0	×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表は鋸による成形と考えられる。裏面は平滑だが加工痕不明。裏面には根太への当たりの痕跡4カ所有り。	マツ属 複 雑 管 束 垂 風	-
1810	1建66	1建3床	床板	159.0	×22.0	×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表は鋸による成形と考えられる。裏面は平滑だが加工痕不明。表の釘痕の位置に対応し(地部を除く)、裏面には根太への当たりの痕跡3カ所有り。	クリ	-
1810	1建67	1建3床	床板	161.0	×31.0	×2.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕、裏面にはヨキカチョウナによる粗い加工痕有り。	マツ属 複 雑 管 束 垂 風	-
1820	1建68	1建3床	床板	89.0	×26.0	×1.5	板目材	無	木裏を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕、裏面にはヨキカチョウナによる粗い加工痕有り。	マツ属 複 雑 管 束 垂 風	-
1820	1建69	1建3床	床板	89.0	×25.0	×1.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表・裏面とも平滑だが加工痕不明。	マツ属 複 雑 管 束 垂 風	-
1820	1建70	1建3床	床板	89.0	×25.0	×2.0	板目材	無	木表を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。裏面は平滑だが加工痕不明。表にクルミの種実の平載と思われるものが押しつけられた痕跡有り。	マツ属 複 雑 管 束 垂 風	-
1830	1建71	1建3床	床板	179.0	×27.0	×1.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表・裏面とも鋸による成形時の加工痕有り。表の釘痕の位置に対応し、裏面には根太への当たりの痕跡3カ所有り。	スズ	-
1840	1建72	1建3床	床板	178.0	×27.0	×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表・裏面とも鋸による成形時の加工痕有り。表の釘痕の位置に対応し、裏面には根太への当たりの痕跡3カ所有り。	スズ	-
1850	1建73	1建3床	床板	171.0	×25.0	×1.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。裏面はヨキカチョウナによる成形時の加工痕極めて明瞭。	スズ	-
1860	1建74	1建3床	床板	171.0	×27.0	×1.5	板目材	無	木裏を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。裏面はヨキカチョウナによる成形時の加工痕極めて明瞭。	スズ	-
187-1880	1建75	1建3床	大引	432.0	×30.0	×23.0	心持材	有	角が面取りされ断面八角形状の部材。表・左側面・右側面・裏面とも、成形時のヨキカチョウナによるきめ細かい斜行の加工痕極めて明瞭。表には板決りが施される。右側面中央部の掛け口には大引が籠形の仕口により接合。また、右側面の天・地部の駒(竹)には大引の駒が接合する(地部には大引状)。左側面中央部と裏面地部寄りの駒は未使用。 3床並置に伴い、1建75の大引の南側延長部材として使用。表・左側面・右側面・裏面ともヨキカチョウナによる成形時の加工痕有り。表には板決りが施され、床板を固定したと考えられる釘痕有り。左側面には2カ所釘打穴が施され、天部寄りには釘が遺存し、地部寄りには釘痕が遺存する。	マツ属 複 雑 管 束 垂 風	-
189-1900	1建77	1建3床	大引	400.0	×24.0	×21.0	心持材	有	角が面取りされ断面八角形状の部材。表・左側面・右側面・裏面とも、成形時のヨキカチョウナによるきめ細かい斜行の加工痕極めて明瞭。左側面の根太の掛け口は全て使用。掛け口を他部との駒の切込みが6-7カ所有り。一方、左側面の土壁付材(間設し竹)が接合すると考えられる小駒7及び2カ所の駒穴や右側面の1カ所の欠込は未使用。天部の仕口は込穴穴が施された平駒。地部の仕口は込穴穴2カ所施された平駒。	マツ属 複 雑 管 束 垂 風	-
1900	1建78	1建3床	根太	209.0	×13.0	×9.0	心持材	無	丸太面(樹皮面)が一部に遺存し、断面八角形状の部材。表・左側面・右側面・裏面ともヨキカチョウナによる成形時の加工痕有り。表はヨキカチョウナによるきめ細かい斜行の加工痕明瞭。天部の仕口は左側面・右側面・裏面からのそぎ。地部の仕口は懸掛け。	-	-
1910	1建79	1建3床	根太	212.0	×14.0	×13.5	心持材	有	表・左側面・右側面・裏面ともヨキカチョウナによる成形と考えられるが加工痕は不明瞭。天部寄りの駒穴・欠込は全て未使用。天・地とも仕口は懸掛けであるが、地部の駒には溝状の切込みが施される。右側面の掛け口には3号隅張の木の駒が接合する。	クワ属	-

遺物観察表

図版番号	記載番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹 種	年輪幅 (本/3cm)
				長さ×幅×厚さ						
192	1建80	1建3床	根太	79.0	×8.0×7.5	心去材	無	表には鋸による成形時の加工痕、左側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工前跡。天地とも仕口は裏面からのぞぎ。	マツ属 複重管束属	-
192	1建81	1建3床	根太	81.0	×9.0×7.0	心持材	無	左側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天・地とも仕口は裏面からのぞぎ。	マツ属 複重管束属	-
192	1建82	1建3床	根太母 (四ノ葉 杉)	151.0	×13.0×14.0	心持材	有	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形と考えられるが加工痕は不明瞭。右側面の掛け口には根太が挿合。土壁付材 (間渡し竹) が挿合すると考えられる小穴及びび2か所の駒穴は未使用。天・地に作出された駒は懸掛け状に根太に挿合する。	クリ	-
193	1建83	1建3床	根太	216.0	×14.0×14.0	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形と考えられるが、加工痕不明瞭。天・地とも仕口は蟻形駒。左側面の掛け口には3号鋼釘の突の本杓が挿合する。	クリ	-
194	1建84	1建3床	根太	209.0	×16.0×8.0	心去材	無	表には鋸による成形時の加工痕、左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の削い加工痕有り。天・地の仕口は両側面・裏面からのぞぎ。地部の仕口は駒。	マツ属 複重管束属	-
195	1建85	1建3床	根太	206.0	×14.0×7.0	心去材	無	表には鋸による成形時の加工痕、左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の削い加工痕有り。天・地とも仕口は蟻形駒。地部には刃長18mmのノミにより釘打穴が割られ、釘痕有り。	マツ属 複重管束属	-
196	1建86	1建3床	大引	376.0	×21.0×22.5	心持材	有	表には成形時のヨキかチョウナによるきめ細かい削りの加工痕、左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の削い加工痕有り。天部の仕口は蟻形駒。地部の仕口は駒。左側面・右側面には根太の掛け口等多数施されるが、未使用も有り。	クリ	-
197	1建87	1建3床	根太	(162.5)	×12.0×7.0	心持材	無	表には成形時のヨキかチョウナによるきめ細かい加工痕有るが、他面は丸面が遺存する。天・地とも仕口は両側面・裏面からのぞぎ。地部には刃長18mmのノミにより多角形状の釘打穴が割られ、釘痕有り。	スギ	-
198	1建88	1建3床	根太	(173.0)	×8.0×8.0	心持材	無	表・右側面・裏面には成形時のヨキかチョウナによるきめ細かい削りの加工痕。左側面には鋸による成形時の加工前跡。天・地とも仕口は裏面からのぞぎ。	マツ属 複重管束属	-
198	1建89	1建3床	根太	(66.0)	×9.0×5.5	心去材	無	表・右側面・裏面には成形時のヨキかチョウナによるきめ細かい削りの加工痕有り。天部の仕口は裏面からのぞぎ。地部は欠損。	マツ属 複重管束属	-
199	1建90	1建3床	根太	169.0	×16.0×9.0	心持材	有	表には鋸による成形時の加工痕有り。左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形と考えられるが加工痕不明瞭。天・地とも仕口は両側面・裏面からのぞぎ。天部等に施された掛け口は未使用。	マツ属 複重管束属	-
200	1建91	1建3床	根太	176.0	×17.5×9.0	心去材	無	表には鋸による成形時の加工痕有り。左側面・右側面・裏面はヨキかチョウナによる成形と考えられるが加工痕不明瞭。天・地とも仕口は両側面・裏面からのぞぎ。	マツ属 複重管束属	-
201	1建92	1建3床	根太	178.0	×18.0×11.0	心去材	無	表には鋸による成形時の加工痕有り。左側面・右側面・裏面はヨキかチョウナによる成形と考えられるが加工痕不明瞭。天・地とも仕口は蟻形駒。	マツ属 複重管束属	-
201	1建93	1建3床	楔	15.8	×3.8×2.0	心去材	無	1建75と94との接合部に打ち込まれていた楔。角材の表が加工され地部が突る。	コナラ属 コナラ節	11
202	1建94	1建3床	大引	(384.0)	×28.5×21.0	心持材	有	角が面取りされ断面八角形状の部材。表・左側面・右側面・裏面とも、成形時のヨキかチョウナによるきめ細かい削りの加工痕極めて明確。左側面・右側面の土壁付材 (間渡し竹) が挿合すると考えられる小穴及び駒穴、欠込は未使用。天・地とも仕口は込込穴が各2か所施された平駒。天部の駒は大引へ挿合するが、込込穴は未使用。	マツ属 複重管束属	-
203	1建95	1建3床	根太	69.0	×5.5×5.0	心去材	無	右側面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天・地とも仕口は蟻形駒。天・地とも仕口部分の表の段差は床板に対応する板決りに相当。	マツ属 複重管束属	-
203	1建96	1建3床	根太	57.5	×4.2×3.5	心去材	無	表の中央部及び天部等部には2か所 上面に敷かれた床板の当たりの面跡有り。また地部等部には1か所床板を固定したと考えられる釘痕有り。左側面には成形時のヨキかチョウナの加工痕有り。	マツ属 複重管束属	4
203	1建97	1建3床	根太	63.0	×8.0×5.0	心去材	無	左側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天・地とも仕口は蟻形駒。天・地とも仕口部分の表の段差は床板に対応する板決りに相当。	マツ属 複重管束属	-
203	1建98	1建3床	根太	65.0	×7.0×4.0	心去材	無	左側面には鋸による成形時の加工痕有り。他面は平駒だが加工痕不明。天・地とも仕口は蟻形駒。天・地とも仕口部分の表の段差は床板に対応する板決りに相当。	マツ属 複重管束属	-
204	1建99	1建3床	根太	66.0	×5.0×3.0	心去材	無	左側面には鋸による成形時の加工痕有り。他面は平駒だが加工痕不明。天・地とも仕口は蟻形駒。天・地とも仕口部分の表の段差は床板に対応する板決りに相当。	マツ属 複重管束属	-
204	1建100	1建3床	大引	(355.0)	×13.5×15.0	心持材	有	角が面取りされ断面八角形状の部材。表・左側面・右側面・裏面とも、成形時のヨキかチョウナによる加工痕有り。右側面の根太の掛け口は全て使用されるが、左側面の方形の駒穴は未使用。	マツ属 複重管束属	-

遺物観察表

図版番号	図載番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		転用の有無	成 形、調整の特徴など	樹 種	平均輪 (本/3cm)
				長さ×幅×厚さ	木取り				
205図	1建101	1建4床	床板	(100.0) × 27.0 × 1.5	板目材	無	木葉を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。天部は腐蝕により欠損。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
205図	1建102	1建4床	床板	(92.0) × 29.0 × 1.0	板目材	無	木葉を上面に使用。表・裏面とも鋸による成形時の加工痕有り。天部は腐蝕により欠損。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
206図	1建104	1建4床	床板	(94.0) × 19.0 × 1.5	板目材	無	木葉を上面に使用。裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。表は平研だが成形時の加工痕不明。地部は腐蝕により欠損。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
206図	1建105	1建4床	根太	(56.9) × 8.9 × 9.1	心材材	無	地部は腐蝕により欠損する。左側面にはヨキかチョウナの成形と考えられる。	マツ属 複 雑管束亜 属	4
206図	1建106	1建4床	根太	(147.0) × 9.0 × 9.0	心材材	有?	表には鋸による成形時の加工痕。左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天部の仕口は枿。右側面天部寄りの欠込は未使用。左側面の掛け仕口には有縁の木の枿が接合する。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
207図	1建107	1建4床	根太	154.0 × 9.0 × 9.5	心材材	無	左側面には鋸による成形時の加工痕。右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天部の仕口は枿。地部の仕口は隠掛け。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
207図	1建108	1建4床	根太	153.0 × 11.0 × 9.0	心材材	無	表には成形時のヨキかチョウナによるきめ細かい削りの加工痕。左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の粗い加工痕有り。完全な角材には成形されず、丸太や樹皮が部分的に遺存。天部の仕口は枿。地部の仕口は隠掛け。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
208図	1建109	1建4床	根太	(23.6) × 10.5 × 9.5	心材材	無	地部は腐蝕により欠損する。表に2ヵ所釘痕有り。枿は鋸により作出した痕跡有り。	マツ属 複 雑管束亜 属	4
208図	1建110	1建4床	根太	(47.6) × 9.5 × 9.4	心材材	有	地部は腐蝕により欠損する。左側面に1ヵ所釘痕有り。転用材か。裏面には成形時のヨキかチョウナの加工痕有り。	マツ属 複 雑管束亜 属	4
208図	1建111	1建4床	根太	(32.6) × 9.5 × 10.1	心材材	無	地部は腐蝕により欠損。天部の仕口は枿。枿の根元には鋸による切込みの痕跡有り。表には床板を固定したと考えられる釘痕有り。	マツ属 複 雑管束亜 属	4
208図	1建112	1建4・5床	大引	(392.0) × 22.0 × 26.0	心材材	有	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。基本的には角材に成形されるが一部には丸太面遺存。天部の仕口は小組枿。裏面枿の一部にはこの大引を保持した束の当たりの痕跡有り。しかし、接合する束には枿は作出されておらず、枿は未使用である。中央部から地部にかけては腐蝕により漸次欠損する。	クリ	-
210図	1建113	1建4床	根太枿	132.0 × 5.0 × 12.0	心材材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天・地とも仕口は隠掛け。左側面・右側面の掛け仕口には根太が接合。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
211図	1建114	1建5床	床板	(146.0) × 25.0 × 1.0	板目材	無	木葉を上面に使用。表・裏面とも鋸による成形時の加工痕有り。裏面には根太の当たりの痕跡3ヵ所有り。天部は腐蝕により欠損。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
211図	1建115	1建5床	床板	(140.0) × 30.0 × 1.5	板目材	無	木葉を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。地部は腐蝕により欠損。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
212図	1建116	1建5床	床板	180.0 × 31.0 × 2.0	板目材	無	木葉を上面に使用。表・裏面とも鋸による成形時の加工痕有り。裏面には根太の当たりの痕跡4ヵ所有り。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
213図	1建117	1建5床	床板	181.0 × 30.0 × 1.0	板目材	無	木葉を上面に使用。裏面には鋸による成形時の加工痕有り。裏面には根太の当たりの痕跡4ヵ所有り。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
214図	1建118	1建5床	床板	180.0 × 30.0 × 1.0	板目材	無	木葉を上面に使用。表・裏面とも鋸による成形時の加工痕有り。裏面には根太の当たりの痕跡5ヵ所有り。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
215図	1建119	1建5床	根太	(144.0) × 10.0 × 8.5	心材材	有	表にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。裏面には丸太面遺存する。天部の仕口は枿。地部は腐蝕により欠損。表の釘穴(釘痕有り)及び裏面の欠込は未使用。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
215図	1建120	1建5床	根太	(193.0) × 8.0 × 10.0	心材材	有	表には成形時のヨキかチョウナによるきめ細かい削りの加工痕有り。左側面には鋸による成形時の加工痕有り。地部の仕口は隠掛け。天部の仕口は枿。裏面には欠込が施されるが未使用。天部は腐蝕により欠損。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
216図	1建121	1建5床	根太	220.0 × 16.0 × 8.5	心材材	無	表は成形時のヨキかチョウナによるきめ細かい削りの加工痕。左側面・右側面・裏面は同工具による粗い加工痕明確。地部の仕口は枿。天部の仕口は隠掛け。	マツ属 複 雑管束亜 属	-
217図	1建122	1建5床	根太	(197.0) × 12.0 × 8.5	心材材	無	表には鋸による成形時の加工痕。左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる粗い加工痕有り。天・地とも腐蝕による欠損のため仕口は不明。	マツ属 複 雑管束亜 属	-

遺物観察表

図版番号	掲載番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹 種	年輪幅 (本/3cm)	
				長さ×幅×厚さ							
218図	1建123	1建5床	根太	220.0	×12.0	×10.0	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り(表はきめ細かい斜行の加工形跡)。天部の仕口は納。地部の仕口は縦掛け。地部寄りに刃長19mmのノミによる釘打穴施されるが、釘痕無し。	マツ属 榎 椎 曲 直 管 東 垂 属	-
219図	1建124	1建5床	根太	219.0	×12.0	×11.0	心持材	有	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り(表はきめ細かい斜行の加工形跡)。天部の仕口は納。地部の仕口は縦掛け。裏面に施された穴は本使用。	マツ属 榎 椎 曲 直 管 東 垂 属	-
220図	1建125	1建5床	根太	(126.0)	×8.0	×10.0	心去材	有	表・左側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕、右側面には縦による加工痕有り。右側面には刃長約20mmのノミにより施された釘打穴に釘が打ち込まれた状態で落存。左側面には縦による切込み2条有り。地部は腐蝕により欠損。	マツ属 榎 椎 曲 直 管 東 垂 属	-
220図	1建126	1建6床	根太	(119.0)	×9.0	×14.0	心持材	有	左側面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕、右側面には縦による成形時の加工痕有り。天部の仕口は納だが、左側面を表として使用した際の懸掛けの仕口の配列と考えられる。地部は腐蝕により欠損。	マツ属 榎 椎 曲 直 管 東 垂 属	-
221図	1建127	1建6床	根太	(185.0)	×11.0	×11.5	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天部の仕口は納。地部は腐蝕により欠損。	マツ属 榎 椎 曲 直 管 東 垂 属	-
221図	1建128	1建1施設	板	69.0	×29.0	×2.0	板目材	無	1施設内に有り。収納物か。表は縦。裏面はヨキかチョウナによる成形と考えられるが加工痕不明瞭。釘痕有り。	マツ属 榎 椎 曲 直 管 東 垂 属	-
222図	1建129	1建1施設	作業板?	(50.7)	×15.4	×1.1	板目材	無	1施設内に有り。収納物か。表・裏面とも説利な刃跡無数に有り。地部寄りは欠損する。	スズギ	8
222図	1建130	1建1施設	作業台	27.8	×11.1	×6.8	心去材	無	1施設内に有り。収納物か。表には説利な刃物の痕跡多数有り。作業台として使用されたものである。裏面にも同様の痕跡僅かに有り。左側面に成形時の縦の加工痕有り。	クリ	15
222図	1建131	1建1施設	角材	31.4	×18.4	×16.0	心持材	無	1施設設置面に据えられた角材。	スズギ	4
222図	1建132	1建1施設	作業台	79.0	×24.0	×15.0	心持材	無	1施設内に有り。収納物か。表・左側面には説利な刃物の痕跡多数有り。裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天部は斜めに加工され先端がやや鋭る。	クリ	-
223図	1建133	1建1施設	側板	82.0	×25.0	×2.0	板目材	有	表・裏面には縦による成形時の加工痕有り。釘痕は未使用と考えられる。	マツ属 榎 椎 曲 直 管 東 垂 属	-
223図	1建134	1建2施設	床板?	46.9	×(12.1)	×1.7	板目材	有	2施設床下に敷設された集水用の上面を覆っていた。右側面は欠損。表に説利な刃物の痕跡多数有り。未用か。	スズギ	4
224図	1建135	1建2施設	床板?	(57.4)	×20.0	×5.0	板目材	無	2施設床面に敷かれた板。地部腐蝕により欠損。	トチノキ	4
224図	1建136	1建2施設	床板?	77.0	×(19.0)	×1.0	板目材	無	木表を上面に使用。表・裏面とも縦による成形時の加工痕有り。土台レベルより低い位置に据えられており、床板かどうかは不確定。	マツ属 榎 椎 曲 直 管 東 垂 属	-
224図	1建137	1建2施設	集水用	75.0	×30.0	×20.0	心持材	無	内部はチョウナかノミにより斜りに削られて成形されている。左側面・右側面・裏面の内面取りされる。天部には排水用の竹管との接合部の凹部が刻まれる。	コナラ 属 コナラ 節	-
224図	1建138	1建2施設	土台	(75.0)	×15.0	×13.0	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形と考えられるが加工痕不明瞭。表には壁板が接合したと考えられる小穴(溝)が施される。天・地とも仕口は納形。天部は欠損する。	-	-
225図	1建139	1建2施設	土台	(187.0)	×15.0	×13.0	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。表には天部寄りに物が施され、壁板が接合したと考えられる小穴(溝)が施される。右側面には土台の横形物が接合する掛け口が施される。地部は腐蝕により欠損。	クリ	-
225図	1建140	1建3施設	土台	183.7	×15.5	×15.7	心持材	無	表・右側面は腐蝕が進行しているが、左側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天部の仕口は方形の納穴(柱が嵌るか)が施された平端で土台に接合する。一方、地部は納管が挿入された痕跡は確認できない。地部右側面に施された2ヶ所の掛け口には根太が接合する。表の釘、納穴と右側面天部寄りの穴込(掛け口)の使用状況は不明。	-	-
226図	1建141	1建3施設	根太	95.0	×10.0	×7.0	心去材	有	左側面に溝と納穴施されるが未使用。溝は両端を帯びて傾斜している。左側面の釘痕も使用状況不明。天・地とも仕口は両側面・裏面からのぞぎ。成形時の加工痕は腐蝕により不明。	ヒノキ属	-
226図	1建142	1建3施設	土台	129.7	×16.0	×15.7	心持材	無	右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。他面は腐蝕により加工痕不明。左側面天部寄りに右側面へ貫通する納穴が施され、土台の納が懸掛け状に接合する。表には柱が接合すると考えられる納穴有り。地部の仕口は方形の穴が施された平端で土台へ接合する。	-	-

図版番号	図版番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹 種	年輪幅 (本/3cm)
				長さ	×幅×厚さ					
227図	1建143	1建3通敷	土台	(147.0) × 14.0 × 14.5	心持材	無	左側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。他面は腐蝕により加工痕不明。左側面天部寄りには右側面へ貫通する駒穴が施され、土台の駒穴鑿掛け状に接合する。左側面に施された2ヵ所の駒穴には根太が接合。地部寄りには左側面から右側面へ貫通する駒穴が施されていたと考えられる。地部は腐蝕により欠損。	-	-	
227図	1建144	1建馬屋西2棟	幅板	82.0 × 81.0 × 3.5	板目材	無	表は底板下面か。表は底板4枚中2枚にヨキかチョウナによる成形時の加工痕。2枚に断による加工痕有り。裏面は成形時の加工痕不明。接合には間釘(竹釘)使用。	クリ	-	
228図	1建145	1建馬屋西1棟	幅板	72.0 × 14.0 × 2.5	板目材	無	表・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天部は馬屋から糞塚を導くために6~7cm切り取られ、中央部にV字状の溝が施される。表地部寄りにはタガの当たりの痕跡有り。	クリ	-	
228図	1建146	1建馬屋西1棟	幅板	81.0 × 80.0 × 3.5	板目材	無	表は底板下面か。表の隅部部分の角が面取りされる。表は底板4枚ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。裏面は成形時の加工痕不明。接合には間釘(竹釘)使用。	クリ	-	
228図	1建147	1建馬屋南棟	幅板	85.0 × 12.0 × 2.0	板目材	無	表・裏面は平滑だが成形時の加工痕は不明。表にタガの当たりの痕跡あり。	マツ属 榎 椎 栗 栗 栗	-	
228図	1建148	1建馬屋南棟	幅板	85.0 × 11.0 × 3.0	板目材	無	表・裏面は平滑だが成形時の加工痕は不明。天部には2施設(風呂)の竹管が接合する欠込が施される。表にはタガの当たりの痕跡有り。	マツ属 榎 椎 栗 栗 栗	-	
228図	1建149	1建馬屋南棟	幅板	87.0 × 86.0 × 3.5	板目材	無	底板上面・下面は不明。表は底板5枚中1枚にヨキかチョウナによる成形時の加工痕。4枚に断による加工痕有り。裏面は各板とも表の加工具と同様の痕跡有り。接合には間釘(竹釘)使用。	マツ属 榎 椎 栗 栗 栗	-	
230図	1建150	1建馬屋	側梁	104.0 × 35.0 × 25.0	心持材	無	左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。内部はチョウナカノミにより削り取ったと考えられる成形時の加工痕有り。左側面・右側面とも天・地寄りの後縁の下半部は面取りされているため破線で図示した。	マツ属 榎 椎 栗 栗 栗	-	
230図	1建151	1建馬屋	側梁	101.0 × 36.0 × 24.0	心持材	無	左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。内部はチョウナカノミにより削り取ったと考えられる成形時の加工痕有り。左側面・右側面とも天・地寄りの後縁の下半部は面取りされているため破線で図示した。	マツ属 榎 椎 栗 栗 栗	-	
232図	1建154	1建2唐白	支柱	90.0 × 44.0 × 35.0	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面とも平滑だが成形時の加工痕は腐蝕により確認できない。内材は断面八角形に成形され、表から裏面にかけては、頂部がやや丸味をもち山形に高い欠込(溝)が施される。天部には軸棒の受けのような凹みが2ヵ所施される。地部は平坦である。	マツ属 榎 椎 栗 栗 栗	-	
233図	1建155	1建室	蓋板	185.0 × 28.0 × 3.0	板目材	無	木菓を上面に使用。表は断による成形時の加工痕。裏面にはヨキかチョウナによる成形時の駒・加工痕有り。表の釘痕2ヵ所は裏面まで貫通し下面の根太の位置に相当するため、板蓋は根太に釘により固定されていたと考えられる。表地部寄りには3ヵ所穿孔有り。右側面にはV字の刻みがほぼ等間隔に6ヵ所有り。右側面は腐蝕が進行しているが、同様の刻み1ヵ所確認できる。また右側面には丸味を帯びた欠込が2ヵ所施され、隣接して敷設された1建156と欠込の形状・位置ともほぼ一致する。	クリ	-	
233図	1建156	1建室	蓋板	185.0 × 30.0 × 3.0	板目材	無	木菓を上面に使用。表は断による成形時の加工痕。裏面にはヨキかチョウナによる成形時の駒・加工痕有り。表の釘痕2ヵ所は裏面まで貫通し下面の根太の位置に相当するため、板蓋は根太に釘により固定されていたと考えられる。左側面・右側面ともV字の刻みがほぼ等間隔に6ヵ所有り。右側面には丸味を帯びた欠込が2ヵ所施され、隣接して敷設された1建155と欠込の形状・位置ともほぼ一致する。	クリ	-	
234図	1建157	1建室	蓋板	185.0 × 31.0 × 3.0	板目材	無	木菓を上面に使用。表は断による成形時の加工痕不明。裏面にはヨキかチョウナによる成形時の駒・加工痕有り。表の釘痕1ヵ所は裏面まで貫通し下面の根太の位置に相当するため、板蓋は根太に釘により固定されていたと考えられる。左側面・右側面ともV字の刻みがほぼ等間隔に6ヵ所有り。表には不整形ではあるが長方形の穿孔1ヵ所有り。	クリ	-	
235図	1建158	1建室	蓋板	185.0 × 30.0 × 3.0	板目材	無	木菓を上面に使用。表は断による成形時の加工痕。裏面にはヨキかチョウナによる成形時の駒・加工痕有り。裏面では釘長17~18cmの加工痕が確認できたため、工具はヨキが使用された可能性が高い。表の釘痕4ヵ所は裏面まで貫通し下面の根太の位置に相当するため、板蓋は根太に釘により固定されていたと考えられる。左側面・右側面ともV字の刻みがほぼ等間隔に6ヵ所有り。	クリ	-	

遺物観察表

図版番号	図版番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取りの有無	転用の有無	成 形、調整の特徴など	樹 種	年輪幅 (本/3cm)
				長さ×幅×厚さ						
	236図	1建159	1建室	北側木枠	232.0×20.0×14.0	心材材	有	表・左側面・右側面・裏面とも成形にはヨキかチョウナが使用されたと考えられるが加工痕不明。表から裏面にかけては貫通した納穴3ヵ所施されるが角材が充填されている。表には角材が釘5ヵ所により固定されている。左側面には根太が接合していた深さ5～8cmの納穴4ヵ所施されるが、未使用の深さ3cmの納穴1ヵ所有り。裏面には貫通しない深さ約6cmの納穴と深さ約3cmの納穴各1ヵ所施されるが未使用。天部の仕口は表・裏面が浅く、左側面・右側面が深い欠込となり、左側面から西側木枠の納穴が接合する。地部の納穴には左側面から東側木枠の小根太が接合する。	クリ	-
	237図	1建160	1建室	西側木枠	(137.0)×14.0×13.0	心材材	有	表・左側面・右側面・裏面とも成形にはヨキかチョウナが使用されたと考えられるが加工痕不明。左側面・右側面・裏面に施された7ヵ所の納穴は全て未使用（裏面の納穴は深さ1～3.5cm）。天・地とも仕口は欠貫するが、平納と考えられ北側木枠・南側木枠の欠込に接合。	クリ	-
	238図	1建161	1建室	根太	(125.0)×5.0×10.0	心材材	有	表・左側面・右側面・裏面とも平滑だが成形時の加工痕不明。天・地とも仕口は懸掛け状の納穴で木枠の差し口へ接合する。側面には貫通する納穴2ヵ所施されるが未使用。	クリ	-
	238図	1建162	1建室	根太	(126.0)×14.0×5.5	心材材	無	表は平滑だが成形時の加工痕不明。左側面・右側面はやや凹凸が有るが加工痕不明。裏面は打割面。天部の仕口は両側面・裏面からのぞき。地部の仕口は複雑な仕上げの納。天・地とも木枠の差し口へ接合。	クリ	-
	239図	1建163	1建室	根太	(123.0)×14.0×6.0	心材材	無	表は平滑だが成形時の加工痕不明。天部の仕口は両側面・裏面からのぞき。地部の仕口は納。天・地とも木枠の差し口へ接合。	クリ	-
	239図	1建164	1建室	根太	126.0×5.0×9.0	心材材	有	表・左側面・右側面・裏面は平滑だが成形時の加工痕不明。天・地とも仕口は懸掛け状の納穴で木枠の差し口に接合。側面に貫通する納穴は未使用。	クリ	-
	240図	1建165	1建室	東側木枠	146.0×15.0×15.0	心材材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天部の仕口は小根太。地部の仕口は平納。天部とも西側木枠・南側木枠の納穴に接合。	クリ	-
	241図	1建166	1建室	南側木枠	233.0×13.0×13.0	心材材	有	表・左側面・右側面・裏面とも成形にはヨキかチョウナが使用されたと考えられるが加工痕不明。表には天部に深い欠込が施されるが未使用。また、表地部寄りには納穴が施されていたが角材が充填され未使用であった。右側面から左側面にかけは天部寄りに小根太に対応するような納穴。地部寄りには納穴が施され、西側木枠・東側木枠の納穴が接合する。右側面の4ヵ所の差し口には根太が接合。裏面の並列した小納穴及び溝状の凹みは未使用。	クリ	-
	242図	1建167	1建 流し場	木枠	62.0×16.0×7.0	心材材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。月長は12～13cmの加工痕確認できるためヨキの可能性有り。表には魚状の凹凸。裏面には鋭利な刃物の痕跡有り。	スギ	-
	242図	2建1	2建 1施設	板	(122.0)×22.0×1.0	板目材	無	使用状況不明。表は鋸による成形と考えられる。裏面は加工痕不明。	スギ	-
	243図	2建2	2建 1施設	柱	(294.0)×16.5×15.0	心材材	無	表が東を向いて建物北西隅に建てられていたと考えられる。表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時のきめ細かな削りの加工痕有るが圓錐により不明瞭。表から裏面にかけては納（貫通しない部分有り）2ヵ所施され、中央2ヵ所の納穴には部材の一部が接合した状態である。また、貫通しない部分の深さは約7cmである。表・下平には土壁付材（間壁・竹）が接合すると考えられる小納穴有り。左側面から右側面にかけると表と同様の納穴2ヵ所施され、天部寄りには板材が接合していた。左側面上平には小納穴有り。下平には施されないことから、覆の存在とも関連し、開口部（出入口）に相当する可能性有り。天・地の仕口は一部欠損するが納である。	スギノマツ 属 榎 類 葉 面 葉 類	-
	244図	2建3	2建 1施設	板	(129.0)×13.0×3.0	板目材	無	使用状況不明。表は鋸による成形時の加工痕、左側面・右側面・裏面はヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。	マツノ属 榎 類 葉 面 葉 類	-
	244図	2建4	2建	蓋板 (二本納)	162.0×25.0×2.5	板目材	無	使槽（埋設納）の蓋板（いわゆる「二本納」と考えられる。木裏を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。裏面には榎ノ目縁との当たりと考えられる痕跡有り。	マツノ属 榎 類 葉 面 葉 類	-
	245図	2建5	2建	蓋板 (二本納)	161.0×25.0×2.5	板目材	無	使槽（埋設納）の蓋板（いわゆる「二本納」と考えられる。木裏を上面に使用。表には鋸による成形時の加工痕有り。裏面には埋設納ノ目縁の当たりと考えられる痕跡有り。	マツノ属 榎 類 葉 面 葉 類	-
	245図	2建6	2建	蓋板	164.0×14.0×2.5	板目材	無	木裏を上面に使用。表・裏面とも鋸による成形時の加工痕有り。	マツノ属 榎 類 葉 面 葉 類	-
	246図	2建7	2建	蓋板	164.0×25.0×2.5	板目材	無	木裏を上面に使用。表・裏面とも鋸による成形時の加工痕有り。	マツノ属 榎 類 葉 面 葉 類	-

遺物観察表

図版番号	掲載番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹 種	半輪幅 (本/3cm)	
				長さ×幅×厚さ							
246図	2建8	2建	蓋板	167.0	×25.0	×2.5	板目材	無	木表を上面に使用。表には彫による成形時の加工痕有り。	マツ属 複重葉東亜属	-
246図	2建9	2建	蓋板	155.0	×22.0	×2.5	板目材	無	木表を上面に使用。表は彫、裏面はヨキかチョウナによる成形と考えられるが加工痕不明。裏面には埋設樋口跡の当たりと考えられる痕跡有り。	マツ属 複重葉東亜属	-
247図	2建10	2建	蓋板	155.0	×24.0	×2.5	板目材	無	木表を上面に使用。表は彫、裏面はヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。	マツ属 複重葉東亜属	-
247図	2建11	2建	蓋板 (二本横)	(80.0)	×35.0	×3.5	板目材	有	使槽(埋設樋)の蓋板(いわゆる「二本横」)と考えられるが樋の底板等の転用か。左側面・右側面に間釘(竹釘)痕各1カ所有り。地部の径から推測すると直径130～140cmである。木表を上面に使用。天部は腐蝕により欠損。	マツ属 複重葉東亜属	-
247図	2建12	2建	蓋板 (二本横)	(68.0)	×33.0	×3.0	板目材	有	使槽(埋設樋)の蓋板(いわゆる「二本横」)と考えられるが樋の底板等の転用か。左側面・右側面に間釘(竹釘)痕各1カ所有り。天部の径から推測すると直径130～140cmである。裏面には埋設樋口跡の当たりと考えられる痕跡有り。天部は腐蝕により欠損。	マツ属 複重葉東亜属	-
248図	2建13	2建	北横土台	(348.0)	×16.5	×16.5	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形と考えられるが加工痕不明。表には柱が接合する小駒(間渡し竹)が接合すると考えられる小駒穴有り。地部寄りには2カ所礎石の当たりの凹み施される。天・地とも腐蝕により欠損。	クリ	-
248図	2建14	2建	西横土台	289.0	×15.0	×13.5	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形と考えられるが加工痕不明。表には柱が接合すると考えられる駒穴3カ所、下平には土壁骨材(間渡し竹)が接合すると考えられる小駒穴有り。地部には右側面から左側面へ貫通する駒穴施され、南横土台の平駒が接合。裏面には礎石の当たりの凹み施される。	クリ	-
250図	2建15	2建	南横土台	(374.0)	×16.5	×19.5	心持材	無	表・左側面・右側面の成形にはヨキかチョウナが使用されていると考えられるが、裏面はほぼ丸面が遺存する。天部の径には方形の駒穴が施された平駒で西側土台の駒穴へ接合。表には柱が接合すると考えられる駒穴有り。地部は腐蝕により欠損。	クリ	-
251図	2建16	2建1橋	橋側板	(68.0)	×21.0	×2.5	板目材	無	成形時の加工痕不明。天・地とも腐蝕により欠損。	クリ	-
251図	2建17	2建1橋	橋底板	99.0	×97.0	×4.0	板目材	無	表は底板下面か。表・裏面は全て彫による成形と考えられる。接合には間釘(竹釘)が使用され、1カ所を削いで各2本ずつ打ち込まれる。	クリ	-
252図	2建18	2建2橋	橋側板	90.0	×12.5	×3.0	板目材	無	成形時の加工痕不明。地部寄りにタガの当たりの痕跡有り。	クリ	-
252図	2建19	2建2橋	橋底板	98.0	×97.0	×4.0	板目材	無	底板上面・下面は不明。表・裏面は全て彫による成形時の加工痕有り。接合には間釘(竹釘)が使用され、2カ所を削いで各2本ずつ打ち込まれる。	クリ	-
253図	2建20	2建3橋	橋側板	90.0	×14.0	×2.0	板目材	無	成形時の加工痕不明。天部の両面削りされる。地部寄りにタガの当たりの痕跡有り。	クリ	-
253図	2建21	2建3橋	橋底板	100.0	×98.0	×4.0	板目材	無	表は底板下面か。表は4枚中2枚に彫による成形時の加工痕、1枚にヨキかチョウナによる加工痕有り。裏面は4枚とも彫による成形時の加工痕有り。接合には間釘(竹釘)が使用され、1カ所を削いで各2本ずつ打ち込まれる。	クリ	-
254図	2建22	2建4橋	橋側板	90.0	×21.0	×2.5	板目材	無	成形時の加工痕不明。地部寄りにタガの当たりの痕跡有り。	クリ	-
254図	2建23	2建4橋	橋底板	98.0	×97.0	×3.5	板目材	無	表は底板下面か。表は4枚中3枚に彫による成形時の加工痕、1枚にヨキかチョウナによる加工痕有り。裏面は4枚とも彫による成形時の加工痕有り。接合には間釘(竹釘)が使用され、2カ所を削いで各2本ずつ打ち込まれる。	クリ	-
255図	2建24	2建5橋	橋側板	(80.0)	×14.0	×1.5	板目材	無	成形時の加工痕不明。地部寄りにタガの当たりの痕跡有り。天部腐蝕により欠損。	マツ属 複重葉東亜属	-
255図	2建25	2建5橋	橋底板	90.0	×89.0	×4.0	板目材	無	表は底板下面か。表は4枚中2枚に彫による成形時の加工痕、2枚にヨキかチョウナによる加工痕有り。裏面は4枚とも彫による成形時の加工痕有り。接合には間釘(竹釘)が使用される。	マツ属 複重葉東亜属	-
256図	2建26	2建6橋	橋側板	89.0	×12.5	×2.5	板目材	無	成形時の加工痕不明。地部寄りにタガの当たりの痕跡有り。	マツ属 複重葉東亜属	-
256図	2建27	2建6橋	橋底板	90.0	×89.0	×3.5	板目材	無	表は底板下面か。表は4枚中2枚に彫による成形時の加工痕、2枚にヨキかチョウナによる加工痕有り。裏面は4枚とも彫による成形時の加工痕有り。接合には間釘(竹釘)が使用される。	マツ属 複重葉東亜属	-

遺物観察表

図版番号	掲載番号	出土位置	種類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹種	年輪幅 (本/3cm)	
				長さ	幅×厚さ						
257図	2建28	2建7 8輪	桶側板	88.0	×15.0	×2.0	板目材	無	成形時の加工痕不明。地部寄りにタガの当たりの痕跡有り。	マツ属 複重管束	-
257図	2建29	2建7 8輪	桶底板	84.0	×83.0	×3.5	板目材	無	表は底板下面か。表は4枚中1枚に副による成形時の加工痕、1枚にヨキかチョウナによる加工痕有り(他2枚は副による成形と考えられる)。裏面は4釘とも副による成形時の加工痕有り。接合には間釘(竹釘)が使用される。	マツ属 複重管束	-
258図	2建30	2建8 8輪	桶側板	86.0	×15.0	×2.0	板目材	無	成形時の加工痕不明。地部寄りにタガの当たりの痕跡有り。	マツ属 複重管束	-
258図	2建31	2建8 8輪	桶底板	84.0	×82.0	×3.0	板目材	無	表は底板上面か。表は4枚とも副による成形と考えられる。裏面は成形時の加工痕不明。接合には間釘(竹釘)が使用される。	マツ属 複重管束	-
259図	4建1	4建	床板	(146.0)	×26.0	×1.5	板目材	無	木裏を上面に使用。表には副による成形時の加工痕有り。裏面は加工痕不明。天部は腐蝕により欠損。	-	-
259図	4建2	4建	床板	145.0	×26.0	×1.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表には副による成形時の加工痕有り。裏面は副による成形と考えられる。	マツ属 複重管束	-
260図	4建3	4建	敷居	(106.0)	×13.0	×5.0	心材材	有	4建30の柱の右側面(北側面)の駒穴に接合していた可能性高い。表には2本溝と溝にかかった駒穴、裏面には3本溝が施される。地部の仕は副並しである。	クリ	-
260図	4建4	4建	床板	(183.0)	×26.0	×2.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表・裏面とも副による成形時の加工痕有り。地部は腐蝕により欠損。	マツ属 複重管束	-
261図	4建5	4建	床板	(176.0)	×26.0	×1.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表・裏面とも副による成形時の加工痕有り。裏面には表の釘眼に対応した位置に根太の当たりの痕跡2ヵ所有り。地部は腐蝕により欠損。	マツ属 複重管束	-
261図	4建6	4建	床板	(155.0)	×27.0	×2.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表・裏面とも副による成形時の加工痕有り。地部は腐蝕により欠損。	マツ属 複重管束	-
262図	4建7	4建	床板	(91.0)	×27.0	×2.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表には副による成形時の加工痕有り。裏面は平滑だが加工痕不明。天部は腐蝕により欠損。	マツ属 複重管束	-
262図	4建8	4建	北側土台	552.0	×15.0	×14.0	心材材	有	土台としての使用状況不明。表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形と考えられるが加工痕不明確。表には土壁竹材(間渡し竹)が接合すると考えられる小駒穴や駒穴が施されるが未使用。地部よりには左側面から右側面へ貫通する駒穴施されるが未使用。	クリ	-
263図	4建9	4建	北側土台	600.0	×16.0	×15.0	心材材	有	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。裏面は丸太面が残る。表には土壁竹材(間渡し竹)が接合すると考えられる小駒穴や駒穴が施される。そのうち3ヵ所の駒穴には柱が接合していたがその他の駒穴は未使用。また土壁の一部も遺存していたが小駒穴が全て使用されていたかは不明。右側面から左側面へ貫通する駒穴施されるが未使用。天部の仕は平軸で西側土台の駒穴へ接合。	カツマツ	-
264図	4建10	4建	西側土台	379.5	×14.5	×15.0	心材材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形と考えられるが加工痕不明確。年輪幅が確認できる稀少な部材。込枠も打ち込まれる。表の駒穴2ヵ所は貫通しない。天部寄りには右側面から左側面へ貫通する駒穴が施される。右側面に施される台形状の欠込は未使用か。地部の仕は平軸で腰掛け状に南側土台へ接合。	クリ	-
265図	4建11	4建	根太	(208.0)	×13.0	×7.0	心材材	無	表は腐蝕が進行し加工痕不明。左側面・右側面・裏面はヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。表天部寄りには刃長1.8cmのノミによる五角形状の釘穴が施され釘痕が遺存。天部の仕は裏面からのそぎ。地部は腐蝕により欠損するが仕口は裏面からのそぎと考えられる。	クリ	-
266図	4建12	4建	根太	189.0	×14.0	×7.0	心材材	有	裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。他面は腐蝕により加工痕不明。継手状の3ヵ所の欠込は未使用。天・地とも仕口は腰掛け。表天部寄りには刃長1.8cmのノミによる釘穴施され釘痕が遺存。	クリ	-
267図	4建13	4建	根太	(190.0)	×13.0	×6.0	心材材	有	表・左側面・右側面・裏面とも平滑だが成形時の加工痕不明。表から裏面へ貫通する駒穴3ヵ所施されるが未使用。天・地とも知納が施されるが未使用。表天部寄りには刃長1.8cmのノミによる釘穴施され釘痕が遺存。	クリ	-
268図	4建14	4建	根太	(168.0)	×13.0	×7.0	心材材	有	表は腐蝕が進行し加工痕不明。左側面・右側面・裏面はヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天・地とも仕口は駒であるが使用状況は不明。転用の可能性高い。	クリ	-

遺物観察表

図版番号	掲載番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹 種	年輪幅 (本/3cm)
				長さ	×幅×厚さ					
268図	4建15	4建	根太	267.0	×13.5×7.0	心去材	無	表にはヨキかチョウナによる成形時のきめ細かい釘の加工痕有り。左側面・右側面にはヨキかチョウナによる粗い加工痕有り。裏面は丸太面が遺存。表天部寄りに釘打穴が施され釘が遺存。天部の仕口は裏面からのそぎ。地部の仕口は腰掛け(裏面の仕口のそぎの部分も有り)で釘が貫通。	-	-
269図	4建16	4建	根太	184.0	×11.0×10.0	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天部の仕口は腰掛け。地部の仕口は表・天・地寄りに対長約2cmのノミによる釘打穴が施され釘が遺存。	クリ	-
269図	4建17	4建	根太	(78.0)	×11.0×8.0	心持材	有	表・左側面・右側面・裏面とも成形時の加工痕不明。左側面・裏面の欠込は未使用。表天部寄りに釘打穴が施され釘痕有り。地部は縦断により欠損。	マツ属 榎 椎管束 重	-
270図	4建18	4建	根太	(188.0)	×14.0×6.5	心持材	有	表・左側面・右側面・裏面とも縦断の進行により成形時の加工痕不明。踵手状の3ヵ所の欠込は未使用。天部の仕口は腰掛け。地部は縦断により欠損。	クリ	-
270図	4建19	4建	根太 (根太跡)	90.0	×14.0×6.0	心持材	有	表にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。他面は平滑だが加工痕不明。天・地とも仕口は腰掛け。左側面の2ヵ所の掛けのうちの1ヵ所は根太が接合し釘が遺存。もう1ヵ所は未使用。	モミ属	-
271図	4建20	4建	根太	(161.0)	×11.0×10.0	心持材	無	表・右側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天部の仕口は表・裏面からのそぎ。大引(力)・木部材・4建16の根太の順に重なって接合し釘により固定されている。右側面の掛けには根太が接合。地部は縦断により欠損。	マツ属 榎 椎管束 重	-
272図	4建21	4建	根太	(165.0)	×11.0×10.0	心持材	無	表は平滑だが成形時の加工痕不明。左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる加工痕有り。地部の仕口は腰掛けだが釘打穴が施され釘痕有り。天部は縦断により欠損。	マツ属 榎 椎管束 重	-
272図	4建22	4建	根太	182.0	×12.0×8.0	心去材	無	表・左側面・右側面・裏面とも平滑だが成形時の加工痕不明。天部の仕口は表・裏面からのそぎ。地部の仕口は腰掛けで釘打穴が施され釘が遺存。	クリ	-
273図	4建23	4建	根太	(170.0)	×12.0×6.0	心持材	有	表は平滑だが成形時の加工痕不明。左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる加工痕不明。天部の仕口は腰掛けだが使用状況不明。左側面に施された5ヵ所の小穴には未使用。	マツ属 泡 椎管束 重	-
273図	4建24	4建	根太	(189.0)	×11.0×8.0	心去材	無	表・左側面・右側面・裏面とも平滑だが成形時の加工痕不明。表天部寄りに釘打穴が施され釘痕有り。地部の仕口は腰掛けか。	クリ	-
274図	4建25	4建	根太	(126.0)	×9.0×8.0	心持材	無	表・右側面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。左側面・裏面は腰掛けが残る丸太面。天・地とも縦断により欠損。	マツ属 榎 椎管束 重	-
274図	4建26	4建	南側土台	595.0	×20.0×17.5	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り(対長最大12cm確認)。完全な木材には成形されず。断面八角形状の部分や丸太面が遺存する部分有り。表には柱が接合したと考えられる駒穴3ヵ所。地部寄りには東側土台が接合する欠込が施される。右側面から左側面へ貫通する駒穴には西側土台の駒が腰掛け状に接合する。	カラマツ	-
275図	4建27	4建	南側土台	384.0	×14.0×14.0	心持材	有	土台としての使用状況不明。表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形と考えられる加工痕不明。表地部寄りには裏面へ貫通する駒穴及び小駒穴2ヵ所。長さ1.5cmの溝が施される。中央部から天部寄りには裏面へ貫通する駒穴2ヵ所有り。左側面から右側面へ貫通する駒穴2ヵ所及び長さ5cmの駒穴1ヵ所施される。左側面地部寄りにも長さ1cmの溝有り。全ての仕口の使用状況不明。	スズ	-
275図	4建28	4建	大引	(222.0)	×12.0×9.0	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。地部の仕口は裏面からのそぎで釘打穴が施され釘が遺存。天部は縦断により欠損。表に丸ノミと思われる使用痕が所有り。	スズ	-
276図	4建29	4建 南東側	礎板	33.6	×31.9×8.4	心去材	有	4建南東側の土台を保持していた礎板と考えられる。表に丸ノミと思われる使用痕が所有り。	ケヤキ	4
276図	4建30	4建 1施設	柱	(141.0)	×12.0×12.0	心持材	無	表は東側を向いて立てられていたと考えられる。右側面地部寄りの駒穴には4建3の敷居が接合していた可能性が高い。表・左側面・右側面・裏面とも縦断により成形時の加工痕不明。地部は大引(力)中央部の2ヵ所の駒穴に接合の可能性有り。左側面・裏面に施された駒穴等使用状況不明。天部は縦断により欠損。	スズ	-
276図	4建31	4建 1施設	板裏の押さえ木	23.9	×3.8×2.8	心去材	無	表天部寄りに上方から斜めに打ち込まれた釘痕1ヵ所有り。	マツ属 榎 椎管束 重	4
277図	5建1	5建2床	床の脚?	180.0	×29.0×16.0	心持材	無	床の間の床材か。表・右側面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。対長最大13cm確認できることからヨキの可能性有り。	スズ	-

遺物観察表

探検番号	埋蔵番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹 種	年輪幅 (本/3cm)
				長さ	幅×厚さ					
2789	5建2	5建2床	床の間?	182.0	×30.0×14.0	心持材	無	床の間の床材か。表・右側面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。刃長最大17cm確認できるところからヨキの可能性高い。刃長には副による成形時の加工痕有り。左側面は丸太面。	スギ	-
2790	5建3	5建2床	敷居	102.0	×12.0×6.5	心持材	無	裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。地部の仕口は納だが使用状況不明。溝は丸味を帯びて摩耗しているが左側の方が著しい(左深さ1.0cm・右深さ0.5cm)。	スギ	-
2790	5建4	5建2床	床板	185.0	×29.0×1.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表・裏面とも副による成形時の加工痕有り。	マツ属 榎 菅 東 栗	-
2800	5建5	5建2床	床板	(141.0)	×30.0×1.0	板目材	無	木裏を上面に使用。表・裏面とも副による成形時の加工痕有り。天部は腐蝕により欠損。	マツ属 榎 菅 東 栗	-
2800	5建6	5建土間入口	土台(敷居)	261.0	×12.0×7.5	心持材	無	土間入口の地面に直接入れられていた。戸板が連結し使用されていたかは不明。左側面に欠込有り。天・地とも仕口は納だが使用状況不明。溝は2条とも深さ1cm。成形時の加工痕不明。	マツ属 榎 菅 東 栗	-
2810	5建7	5建1床	根太	174.0	×12.0×10.0	心持材	有	裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。タイコ状に成形されている。天・地とも仕口は裏面からのぞぎ(天部はやや納状に加工される)。裏面の欠込は未使用。	マツ属 榎 菅 東 栗	-
2810	5建8	5建1床	根太	(167.0)	×8.0×7.0	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天・地とも仕口は表・裏・両側面からのぞぎ。	スギ	-
2820	5建9	5建1床	根太	170.5	×6.0×7.3	心持材	有	表・左側面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。裏面・右側面は打割面。表面の小物や、左側面の半月状の欠込、右側面の掛け口は全て未使用。天・地とも仕口は裏面からのぞぎ。	-	-
2830	5建10	5建1床	根太	(357.0)	×9.0×6.0	心持材	無	表・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。地部寄りにはタイコ状に成形されるが天部寄りには丸太材に近い。天・地とも仕口は両側面・裏面からのぞぎ。	スギ	-
2830	5建11	5建1床	根太	(166.0)	×13.0×10.0	心持材	有	表・左側面・右側面・裏面とも腐蝕の進行により加工痕不明。天・地とも仕口は隠掛けと考えられる。左側面の掛け口は腐蝕により原形を止めないが、圓形榎木材が接合していたと考えられる。右側面の掛け口2か所は未使用。	クリ	-
2840	5建12	5建1床	根太	173.0	×8.0×10.0	心持材	有	表・左側面・右側面・裏面とも腐蝕の進行により加工痕不明。天部の仕口は隠掛け。地部の仕口は納。右側面の掛け口には圓形榎木材が接合していたと考えられる。表・左側面・右側面・地部寄りの欠込等は全て未使用。	クリ	-
2840	5建13	5建1床	根太	169.0	×12.0×5.0	心去材	有	敷居からの転用材。左側面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天・地とも仕口は平納。	マツ属 榎 菅 東 栗	-
2850	5建14	5建1床	根太	168.5	×8.0×6.5	心持材	無	左側面・右側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。断面は六角形状に成形される。表は平滑だが加工痕不明。天・地とも仕口は両側面・裏面からのぞぎ。	-	-
2860	5建15	5建	大引	(363.0)	×21.5×17.3	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の削り加工痕有り。左側面・右側面の掛け口(副により切込みが施された後、ノミにより成形)には全て根太が接合。天部の仕口は納で隠立柱の納りに接合。地部も同様の仕口と考えられる。天・地とも裏面からぞぎで物が作出される形状に特徴有り。	マツ属 榎 菅 東 栗	-
2870	5建16	5建1床	大引	(362.0)	×18.0×18.0	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の削り加工痕有り。部材は断面八角形に成形され、一部に丸太面遺存。左側面・右側面の掛け口(副により切込みが施された後、ノミにより成形)には全て根太が接合。天部の仕口は納で隠立柱の納りに接合。地部の仕口は隠掛けで大引の掛け口に接合。	マツ属 榎 菅 東 栗	-
2880	5建17	5建1床	大引	188.0	×13.0×14.0	心持材	無	裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。他面は腐蝕の進行により加工痕不明。天・地の仕口は納で隠立柱の納りに接合。左側面の掛け口3か所には根太が接合。	クリ	-
2880	5建18	5建1床	大引	(139.0)	×16.0×13.5	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形と考えられるが腐蝕の進行により加工痕不明。天部の仕口は納で隠立柱の納りに接合。地部の仕口は腐蝕により不明瞭だが地部寄りの裏面からは隠立柱の納りが接合する。左側面の掛け口13か所には根太が接合。	マツ属 榎 菅 東 栗	-
2890	5建19	5建1床	大引	244.0	×17.0×16.0	心持材	無	腐蝕の進行著しく成形時の加工痕不明。表に2ヶ所納り施されるが使用状況不明。左側面の欠込には隠立柱が接合。右側面の欠込には大引が接合。天・地の仕口及び裏面の欠込も使用状況不明。	マツ属 榎 菅 東 栗	-
2900	5建20	5建2床	根太	170.0	×11.0×10.0	心持材	無	表はヨキかチョウナによる面取りの成形が施されるが他面はほぼ丸太面。地部の仕口は納で大引に接合。天部の仕口は腐蝕により不明。	クリ	-

遺物観察表

図版番号	図載番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹 種	年輪幅 (本/3cm)
				長さ	幅×厚さ					
290図	5建21	5建2床	根太	165.0	9.0×8.0	心去材	無	表には鋸による成形時の加工痕有り。左側面・右側面・裏面は打割面。天・地の仕口は裏面からのそぎ。地部の仕口は早や撃掛け状のそぎ。	スズ	-
291図	5建22	5建2床	大引	179.0	10.0×10.0	心持材	有	左側面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天・地とも仕口は枿。天・地の枿は独立柱の枿穴へ嵌合すると考えられる。左側面の枿穴は全て未使用。	クリ	-
291図	5建23	5建2床	根太	170.0	9.0×8.0	心去材	無	表・右側面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。左側面・裏面は打割面。天部の仕口は裏面からのそぎ(右側面に欠込有り)。地部は両側面・裏面からのそぎ。	スズ	-
292図	5建24	5建2床	根太	169.0	10.0×7.0	心持材	有	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形と考えられる。天・地とも仕口は両側面・裏面からのそぎ。左側面の掛け口には根太が接合。裏面の欠込は未使用。	クリ	-
292図	5建25	5建2床	根太	169.0	9.0×8.0	心去材	無	表にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。右側面は丸太面。左側面は打割面。右側面の掛け口には根太が接合。掛け口は右側面から斜めに鋸による切込みが施され、溝で成形された痕跡著。	スズ	-
293図	5建26	5建2床	根太	(141.0)	10.0×5.0	心去材	無	表には鋸による成形時の加工痕有り。左側面・右側面・裏面は基本的に打割面。天・地とも仕口は両側面・裏面からのそぎ(天部は欠削)。	スズ	-
293図	5建27	5建2床	根太	(166.0)	7.0×7.0	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。部材は断面八角形状に成形。天・地とも仕口は裏面からのそぎ。	クリ	-
294図	5建28	5建2床	大引	(251.0)	12.0×12.0	心持材	無	腐蝕の進行著しく成形時の加工痕不明。右側面の掛け口6ヶ所には根太が接合。天・地とも仕口は裏面より不明。	コナラ 属 コナラ	-
295図	5建29	5建2床	大引?	(159.0)	11.0×9.0	心持材	有	使用状況不明。裏面のみヨキかチョウナにより面取りされ後面はほぼ丸太面。天部は腐蝕により欠削。地部の仕口は撃掛け。表・左側面・右側面・裏面に施される釘打穴及び欠込は全て未使用。	クリ	-
296図	5建30	5建2床	大引	(352.0)	20.0×19.5	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の粗い加工痕有り。両側面の掛け口には根太が接合。天・地とも仕口は枿で独立柱の枿穴に嵌合していたと考えられる。	マツ属 榎 椎属 榎	-
297図	5建31	5建3床	根太	(167.0)	10.0×6.0	心持材	有	表・左側面・右側面は丸太面。裏面は打割面。天・地に仕口は施されない。表・右側面に施された枿穴及び欠込は全て未使用。	クリ	-
297図	5建32	5建3床	根太	(143.5)	12.3×7.0	心持材	有	表・左側面・右側面は丸太面。裏面は打割面。天・地に仕口は施されない。表に施された半月状の欠込4ヶ所は全て未使用。	-	-
298図	5建33	5建3床	根太	167.0	10.0×6.0	心持材	有	表は打割面。天・地に仕口は施されない。裏面・左側面・右側面は丸太面。裏面に施された半月状の欠込4ヶ所、左側面の掛け口2ヶ所は全て未使用。	コナラ 属 コナラ	-
299図	5建34	5建3床	根太	(167.0)	13.0×12.0	心持材	有	表・左側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。右側面は丸太面。天部には枿が作られた痕跡有り。地部は腐蝕により欠削。表・裏面の同位置に施された2ヶ所の釘打穴(釘痕無し)及び左側面の半月状の欠込は全て未使用。	クリ	-
300図	5建35	5建3床	大引	(222.0)	16.0×9.0	心持材	有	表・左側面・右側面は丸太面。裏面は打割面。天・地に仕口は施されない。表・右側面に施された枿穴及び裏面の欠込は全て未使用。	クリ	-
300図	5建36	5建3床	大引	(237.0)	14.0×10.0	心持材	有	5建35と形状・加工が類似するため転用以前は同一部材か。表・左側面・右側面は丸太面。裏面は打割面。地部には枿が作られた痕跡有り。表・右側面に施された枿穴及び裏面の欠込は全て未使用。	クリ	-
301図	5建37	5建4床	根太	172.0	9.0×6.5	心持材	無	表にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。後面は丸太面。天部の仕口は腐蝕により不明。地部の仕口はそぎと考えられる。	-	-
301図	5建38	5建4床	根太	171.0	9.0×8.0	心持材	有	表にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。後面は丸太面。天部の仕口は撃掛け。地部の仕口は表からのそぎ。表の小枿穴2ヶ所及び釘打穴1ヶ所、裏面の半月状の欠込3ヶ所は全て未使用。	クリ	-
302図	5建39	5建4床	大引	(188.0)	12.0×7.5	心持材	有	表は打割面。裏面・左側面・右側面は丸太面。天部の長枿は独立柱の枿穴(掛け口?)に接合。裏面地部寄りの枿穴には独立柱の枿が接合。表の欠込3ヶ所には根太が接合。地部は腐蝕により欠削。	クリ	-
303図	5建40	5建4床	大引	161.0	13.0×8.0	心持材	無	表・左側面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。右側面は打割面。天・地とも仕口は枿だが使用状況不明。表の掛け口3ヶ所には根太が接合。	クリ	-
303図	5建41	5建4床	大引	(134.0)	8.0×11.5	心持材	無	左側面・裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。表は打割面。地部の仕口は左側面からそがれ枿となる。天部は腐蝕により欠削。	クリ	-
304図	5建42	5建2床	土台	101.0	15.0×17.0	心持材	有	表・左側面に無数の線状の殺肉による使用痕有り。	クリ	-

遺物観察表

図版番号	掲載番号	出土位置	種類	計測値 (cm)		転用の有無	成り、調整の特徴など	樹種 (木/3cm)	年輪幅 (本/3cm)
				長さ×幅×厚さ	木取り				
305図	5建43	5建2床	土台	181.0	×14.0	×6.0	心材材 有 表はタイコ状にヨキかチョウナによる面取りが施される。裏面は打削面。天部の仕上の柵は未使用。	クリ	-
305図	5建44	5建2床	土台	95.0	×12.5	×9.0	心材材 有 表は丸・地帯りをヨキかチョウナにより面取りされる。表の釘打穴2か所（釘痕無し）及び左側の納穴（掛け口）は全て未使用。	クリ	-
306図	5建45	5建3床	土台	114.0	×12.0	×8.0	心材材 有 表は打削面。左側面・右側面・裏面は丸太面（裏面は一部タイコ状に面取り）。右側面・裏面に施された納穴及び掛け口は全て未使用。	クリ	-
306図	5建46	5建3床	土台	75.0	×10.0	×5.0	心材材 有 表・右側面はヨキかチョウナによる成りと考えられる。左側面・裏面は丸太面。表の欠込及び裏面の釘打穴は未使用。	クリ	-
307図	5建47	5建3床	土台	187.0	×18.0	×16.0	心材材 有 表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成りと考えられる。左側面・裏面には深さ2～3cmの納穴6か所施されるが全て未使用。表のやや丸味を帯びた欠込も未使用。	クリ	-
308図	5建48	5建3床	土台	159.0	×13.0	×8.0	心材材 有 表は打削面。左側面・右側面・裏面は丸太面。右側面・裏面の欠込及び釘打穴（釘痕無し）は全て未使用。	クリ	-
309図	5建49	5建4床	土台	152.0	×15.0	×11.0	心材材 有 表は打削面。裏面はタイコ状に面取りされる。右側面の半円状の欠込3か所及び裏面の釘打穴2か所（釘痕無し）は全て未使用。釘打穴は四角形状と六角形状各1か所施され興味深い。	クリ	-
310図	5建50	5建4床	土台	168.0	×18.0	×9.0	心材材 有 裏面の納穴2か所及び左側面の土壁骨竹（圓笠竹）が接合すると考えられる小納穴4か所は全て未使用。	クリ	-
311図	5建51	5建4床	板杭	(43.5)	×11.8	×3.9	板目材 無 4床と土間の境界部の地面に立てられていた板杭。表は丸太面が残存。地帯は斜めに加工され先が尖る。天部は砥鉋により欠削。	クリ	4
311図	5建52	5建1床	擬立柱 (東)	53.0	×14.8	×16.9	心材材 有 深さ15cm程度地面に埋設され大引を保持していた。右側面は一部丸太面が残る。表と裏面には方形の深さ約2cmの納穴が施されるが未使用。天部の柵は砥鉋により削る。	クリ	5
311図	5建53	5建1床	柱(東)	(35.6)	×11.7	×12.6	心材材 無 礎石上に直置されていた。建物上部まで延びる柱か否かは、天部が砥鉋により失われており、大引との接合関係とともに不明。	マツ属 榎 椎 菅 東 垂 属	8
312図	5建54	5建1床	柱(東)	(44.0)	×16.1	×13.0	心材材 無 礎石上に直置されていた。建物上部まで延びる柱か否かは、天部が砥鉋により失われており、大引との接合関係とともに不明。表のみ面取りされ、他面は丸太面が残存。	マツ属 榎 椎 菅 東 垂 属	8
312図	5建55	5建1床	擬立柱 (東)	(82.0)	×13.0	×7.5	心材材 無 断面は打削面。他面は丸太面。地帯（底部）は平坦。天部は砥鉋により欠削。	クリ	-
312図	5建56	5建1床	擬立柱 (東)	(38.0)	×16.3	×15.3	心材材 有 深さ30cm程度地面に埋設され、左側面から右側面にかけて施された欠込に5建19の大引が接合していた。一方、表から裏面へ掛ける欠込は使用されていなかった。天部に作出された納穴の2つの突起は砥鉋により先削りして欠削するため、柱状に上部へ延長するの、床面レベルで止まるのかは不明である。角材の縦方向の4つの角は楕円に面取りが施される。	マツ属 榎 椎 菅 東 垂 属	6
313図	5建57	5建2床	擬立柱 (東)	(75.0)	×20.0	×19.0	心材材 無 樹皮が付いた丸太材。地帯（底部）は2方向から加工されている（伐採時のまま）。天部は砥鉋の大引により不確定であるが、納穴の掛け口が施され大引の納穴接合。	クリ	-
313図	5建58	5建2床	擬立柱	(126.0)	×19.0	×18.5	心材材 無 地帯（底部）はほぼ平坦。根入部はヨキかチョウナにより断面八角形状に面取りされる。柱部は断面四角形状に成形され（右側面が基準）。右側面（東側）の納穴には大引の納穴接合すると考えられる。	クリ	-
314図	5建59	5建前庭	擬立柱	80.0	×12.5	×10.0	心材材 無 表は面取りされ平坦。他面は丸太面。天部には納穴が作出されるが使用状況不明。地帯は表・裏面の2方向からやや細く毛が削る。	クリ	-
314図	5建60	5建前庭	擬立柱	(115.0)	×16.5	×17.5	心材材 無 地帯へ向かって表・左側面・右側面・裏面からややせがれるが底部は平坦。根入部はヨキかチョウナにより断面八角形状に面取りされる。柱部は断面四角形状に成形される（右側面が基準）。天部は砥鉋により欠削。	クリ	-
314図	5建61	5建前庭	擬立柱	(86.0)	×16.0	×16.0	心材材 無 地帯（底部）はほぼ平坦。根入部は裏面は丸太面。表・左側面・右側面はヨキかチョウナにより断面八角形状に面取りされる。柱部は断面四角形状に成形される（右側面が基準）。天部は砥鉋により欠削。	クリ	-
315図	5建62	5建1床	擬立柱	(84.0)	×18.5	×18.5	心材材 無 地帯（底部）はほぼ平坦。根入部はヨキかチョウナにより断面八角形状に成形される。柱部は断面四角形状に成形される（表が基準か）。表（南側）・裏面（北側）に施された納穴の2つは掛け口に大引の納穴が接合。天部は砥鉋により欠削。	クリ	-
315図	5建63	5建2床	擬立柱 (東)	57.2	×10.6	×10.0	心材材 有 深さ30cm程度地面に埋設されていた。丸太材だが部分的にヨキかチョウナにより面取りされ、断面八角形状に成形される。表から右側面にかけて欠込施されるが未使用。天部は砥鉋によりやや削る。	クリ	16

遺物観察表

図版番号	記載番号	出土位置	種類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹種	年輪幅 (本/3cm)
				長さ	幅×厚さ					
315図	5 5264	5 建1 床	圓立柱	(89.0) × 18.0 × 18.0	心持材	無	地部(底部)に向かって3~4方向からややそがれるが、底部はほぼ平坦。根入部はヨキかチョウナにより断面八角形状に成形される。柱部は断面四角形状に成形され(表が基準)、表に施された駒穴には大引の駒が接合、天部は縦線により欠損。	クリ	-	
316図	5 5265	5 建1 床	圓立柱	(105.0) × 17.0 × 15.0	心持材	無	地部(底部)へ向かって大きく2方向から斜めにそがれ底部は平坦ではない。伐採時の痕跡か。根入部はヨキかチョウナにより断面八角形状に成形される。柱部は断面四角形状に成形され(表が基準)、表に施された駒穴には大引の駒が接合、天部は縦線により欠損。	クリ	-	
316図	5 5266	5 建1・2 床境	圓立柱	(108.0) × 19.0 × 17.0	心持材	無	地部(底部)へ向かって大きく2方向から斜めにそがれ底部は平坦ではない。伐採時の痕跡か。根入部は裏面は丸太面、表・左側面・右側面はヨキかチョウナにより断面八角形状に成形される。柱部は断面四角形状に成形され(表が基準)、表に施された駒穴には大引の駒が接合、天部は縦線により欠損。	クリ	-	
317図	5 5267	5 建2 床	圓立柱	(136.0) × 18.0 × 20.0	心持材	無	地部(底部)へ向かって大きく3方向から斜めにそがれ底部は平坦ではない。伐採時の痕跡か。根入部はヨキかチョウナにより断面八角形状に僅かに面取りされ成形される。柱部は断面四角形状に成形され(表が基準)、表に施された駒穴には大引の駒が接合、天部は縦線により欠損。	クリ	-	
318図	5 5268	5 建2 床	圓立柱	(141.0) × 19.0 × 19.0	心持材	無	地部(底部)へ向かって4~5方向から斜めにややそがれるが底部は平坦。根入部はヨキかチョウナにより断面八角形状に僅かに面取りされ成形される。柱部は断面四角形状に成形され(表か右側面が基準)、右側面(東側)に施された駒穴には大引の駒が接合、天部は左側面(西側)が逆流の寄力により大きく裂けている。その上部は縦線により欠損。	クリ	-	
318図	5 5269	5 建4 床	圓立柱(東)	70.0 × 11.0 × 2.5	板目材	無	表は樹皮が残る丸太面で天部寄りにはヨキかチョウナにより面取りされる。裏面は打割面。	スギ	-	
318図	5 5270	5 建4 床	圓立柱(東?)	45.1 × 10.6 × 7.8	心持材	有	深さ20cm程度地面に埋設され大引を保持していた。表は丸太面。裏は打割り面。表・右側面に深さ約2cmの方形の駒穴及び欠込が施されるが未使用。天部の駒は大引裏面の駒穴に接合。地部は左側面・右側面から斜めに加工され先が尖る。	クリ	11	
319図	5 5271	5 建4 床	圓立柱(東)	39.5 × 6.0 × 9.1	心持材	有	地面に打込まれ、4本の根太を支えていた。表・裏面・右側面・左側面に複雑な欠込が施されるが未使用。表・右側面から斜めに加工され地部が尖る。左側面は打割面。	クリ	7	
319図	5 5272	5 建4 床	圓立柱(東?)	34.5 × 15.0 × 13.0	心持材	有	深さ20cm程度地面に埋設され、大引を保持していた。柱部は断面八角形状に面取りされ成形される。天部には欠込が施される。	マツ 属 榎 東 亜 属	4	
319図	5 5273	5 建1 床	土台固定杭?	19.0 × 4.1 × 4.1	心持材	無	土台の北側の地面に打ち込まれ土台を固定していたと考えられる。樹皮が残る丸太材。右側面から斜めに加工され地部が尖る。天部木口は荒れて年輪は確認できない。	コナラ 属 コナラ 節	-	
319図	5 5274	5 建1 床	板杭	41.5 × 7.6 × 2.8	板目材	無	礎石層に埋設されていた板杭。表は丸太面、裏面は打割面。	マツ 属 榎 東 亜 属	4	
320図	5 5275	5 建前庭	木杭	(70.0) × 6.0 × 7.0	心持材	無	地部は4方向からそがれ先が尖る。天部は欠損。	クリ	-	
320図	5 5276	5 建2 床	土台固定杭	32.0 × 4.3 × 4.2	心去材	無	土台の北側の地面に打ち込まれ土台を固定していた。表から右側面にかけては打割面。表と右側面から斜めに加工され地部が尖る。	クリ	7	
320図	5 5277	5 建2 床	土台固定杭	29.5 × 6.0 × 2.5	心去材	有	土台の西側の地面に打ち込まれ土台を固定していた。表は丸太面。表天部寄りに鋭利な方隅の痕跡多数有り。転用材か?	クリ	5	
320図	5 5278	5 建前庭	側架橋	68.0 × 23.5 × 14.0	心持材	無	原位置にはないと考えられる。内部はチョウナかノミにより削り貫いたと考えられる成形時の加工面有り。左側面・右側面とも天・地寄りの縁部の下半部は面取りされる。	-	-	
320図	5 5279	5 建馬屋・土間境	杭	38.0 × 6.0 × 5.9	心持材	無	馬屋西側の土間に打ち込まれていた。樹皮が残る丸太材。表・裏面・右側面・左側面から斜めに加工され地部は尖る。	カエデ 属	-	
321図	5 5280	5 建馬屋	土台	(233.0) × 13.0 × 13.0	心持材	有	表・左側面・右側面には駒穴・欠込・釘打穴(釘痕無し)等施されるが未使用。天部の仕口は駒だが使用状況不明。地面にも駒穴が作出された痕跡有りが使用状況不明。	クリ	-	
322図	5 5281	5 建1 施設	斜杭	42.7 × 9.2 × 5.5	心持材	無	表が西側を向き、東側へ傾斜した状態で下平方地面に埋設されていた。表は丸太面、右側面と左側面はヨキかチョウナによる成形。裏面は打割面。表・右側面・左側面から斜めにそがれ天部はややゆる。	クリ	6	
322図	5 5282	5 建1 施設	斜杭	39.9 × 9.4 × 7.1	心去材	無	表が東側を向き、西側へ傾斜した状態で下平方地面に埋設されていた。表から右側面にかけては丸太面。裏面と左側面は打割面。表・裏面・右側面・左側面から斜めにそがれ天部はややゆる。	クリ	5	

遺物観察表

図版番号	掲載番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹 種	年輪幅 (本/3cm)
				長さ×幅×厚さ	心材					
322図	5建83	5建 1施設	板杭	(44.1) × 11.8 × 1.5	板目材	無	地面に大平が埋設され、埋設された斜材の底部を地中で受けていた板材。	マツ属複種 管束重層	8	
322図	5建84	5建 1施設	杭	43.0 × 5.4 × 4.0	心持材	無	施設西側の地面に打ち込まれた杭。丸太材。表・裏面・右側面・左側面から加工された部分が実る。	クリ	4	
322図	5建85	5建 1施設	斜材	42.5 × 9.6 × 7.0	心去材	無	表が東側を向き、西側へ傾斜した状態で下半が地面に埋設されていた。表は丸太面、右側面と左側面はヨキかチョウナによる成形。表・裏面・右側面・左側面から斜めにそがれ天部はややゆる。	クリ	5	
324図	6建1	6建	圓立柱	242.0 × 16.0 × 16.0	心持材	無	根元部は丸太面。地面(底部)は平用。柱部はヨキかチョウナにより断面四角形状に成形される。表・右側面に各3ヵ所深さ1.8～2.5cmの方形の駒穴施されるが使用状況不明。	クリ	-	
324図	6建2	6建	柱	(180.5) × 16.0 × 15.0	心持材	無	ヨキかチョウナにより角が面取りされて断面八角形状に成形される。右側面から左側面へ貫通する駒穴は貫通するような部材が接合していた。地面の仕上がりは駒穴が使用状況不明。天部は欠損する。	-	-	
325図	10建1	10建	東側土台?	(276.0) × 23.0 × 16.0	心持材	無	表・左側面・右側面・裏面ともヨキかチョウナによる成形時の加工痕有り。天部の仕上がりは金輪敷き。榫手部分には榫手材の一部が欠けて接合し、連絡も打ち込まれた状態で遺存。左側面には大戸が連結する数段状の部材を固定する小角材が2ヵ所所施材で接合。その2ヵ所同様の部材が接合したと考えられる掛け口有り。表には2ヵ所柱が接合したと考えられる駒穴有り。地面は腐蝕により欠損。	カラマツ	-	
326図	10建2	10建	敷居	(213.0) × 10.0 × 4.0	心去材	無	10建1の土台に接合し、戸が連結する数段状の部材と考えられる。溝が右側面寄りに1条施される。溝の底部は平用で磨滅少ない。地面は腐蝕により欠損。	クリ	-	
326図	10建3	10建	柱	(60.8) × 13.9 × 13.1	心持材	無	左側面が土壁外側、右側面が内側を向き、地面に作出された駒が土台に接合する。駒の先端部は角が全て面取りされる。左側面は丸太面となるが、鋸で切込みを入れた後、半月状に浅い欠込が2ヵ所施され、壁土を保持する部材が接合する。表・裏面・右側面には成形時のヨキの痕跡が明瞭である。表・裏面の駒穴上下各2ヵ所には丸竹材が接合し、裏面の駒穴は2段階の深さを有する。天部は腐蝕により欠損。右側面底部寄りには用途不明の欠込(鋸の切込み有り)が施される。	-	8	
327図	10建4	10建	板材	169.0 × 30.0 × 2.5	板目材	無	使用状況不明。表は鋸による成形と考えられる。裏面はヨキかチョウナによる成形時の加工痕を数有る。裏面は12号石階下より出土した竹管の穿孔部。出土状況では長さ4.5mに及ぶ。真竹材と考えられ、節は抜かれ、月長1.8～2.0cmのノミと考えられる工具により穿孔されている。被覆した泥炭の堆みにより押し潰されている。同様の竹管は10号建物北側の溝状の凹みにも掘えられている。	マツ属複種 管束重層	-	
328図	10建5	10建	竹管	(54.0) × 9.2 × (4.0)	丸竹材	無	10建8の土台に接合し、戸が連結する数段状の部材。溝が左側面寄りに1条施される。溝底部は平用で磨滅少ない。表地部寄りに欠込有り。	竹類	-	
328図	10建7	10建	敷居	(238.0) × 8.0 × 3.5	心去材	無	10建8・9同一個体(南部分)。左側面・右側面にはヨキかチョウナによる成形時の粗い加工痕顕著。表には同工具によるきめ細かい斜行の加工痕有り。左側面の斜面に面取りされた部分には10建6の石段が接合。右側面には10建7の敷居を受け小角材が方形で5ヵ所接合。地面には右側面から南側土台が大丸太材に駒で接合したと考えられる駒穴が左側面へ貫通し、表には柱が接合したと考えられる駒穴4ヵ所施される。天部は10建9の土台の地面へ接合。	マツ属複種 管束重層	-	
330図	10建8	10建	土台	(402.0) × 18.0 × 14.0	心持材	無	10建8・9同一個体(北部分)。左側面・右側面にはヨキかチョウナによる成形時の粗い加工痕顕著。表には同工具によるきめ細かい斜行の加工痕有り。右側面には10建7の敷居を受け小角材が方形で1ヵ所接合。表には柱が接合したと考えられる駒穴施される。地面は10建8の土台の天部へ接合。	カラマツ ノクリ	-	
331図	10建9	10建	土台	(822.0) × 18.0 × 14.0	心持材	無	10建8・9同一個体(北部分)。左側面・右側面にはヨキかチョウナによる成形時の粗い加工痕顕著。表には同工具によるきめ細かい斜行の加工痕有り。右側面には10建7の敷居を受け小角材が方形で1ヵ所接合。表には柱が接合したと考えられる駒穴施される。地面は10建8の土台の天部へ接合。	カラマツ	-	
332図	10建10	10建	柱	(64.5) × 14.3 × 13.8	心持材	無	左側面が土壁外側、右側面が内側を向き、地面に作出された駒が土台に接合する。駒の先端部は角が全て面取りされる。左側面には半月状に浅い欠込が施され、壁土を保持する部材が接合する。表・裏面・右側面・左側面には成形時のヨキの痕跡が明瞭である。表・裏面の駒穴には丸竹材が接合し、裏面の駒穴は2段階の深さを有する。天部は腐蝕により欠損。	クリ	-	
332図	10建11	10建	柱	(59.2) × 13.4 × 13.2	心持材	無	左側面が土壁外側、右側面が内側を向き、地面に作出された駒が土台に接合する。駒の先端部は角が全て面取りされる。左側面は丸太面となるが、表・右側面には成形時のヨキの痕跡が明瞭である。表・裏面の駒穴には丸竹材が接合し、裏面の駒穴は2段階の深さを有する。左側面天部寄りにには懸掛け状の欠込が施され、壁土を保持する部材が接合する。天部は腐蝕により欠損。	クリ	7	

遺物観察表

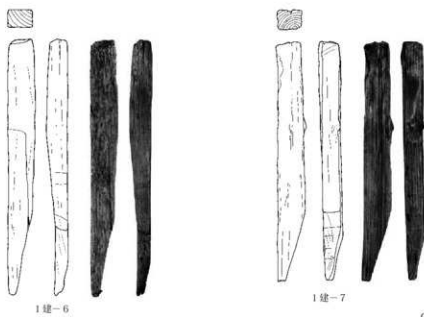
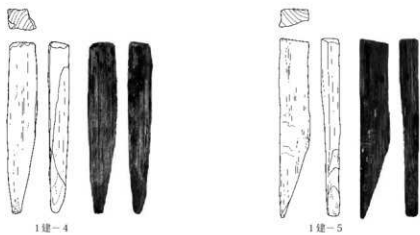
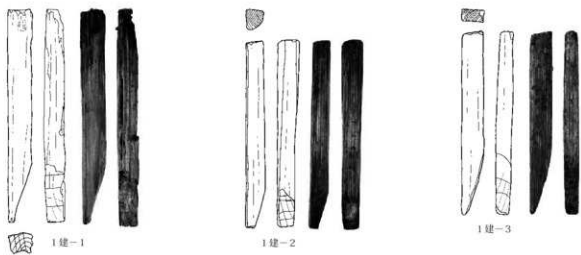
図版番号	掲載番号	出土位置	種 類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹 種	年輪幅 (本/3cm)
				長さ×幅×厚さ						
333図	10図12	10建	柱	(54.5) × 15.0 × 14.5	心持材	無	左側面が土壁外側、右側面が内側を向き、地中に作出された駒が土台に接合する。駒の先端部は角が全て面取りされる。左側面には半月状に浅い欠込が施され、壁土を保持する削材が接合する。表・裏面・左側面・右側面には成形時のヨキの痕跡が明瞭である。表・裏面の駒穴には丸竹材が接合し、裏面の駒穴は2段階の深さを有する。天部は直触れにより欠損。	クリ	6	
334図	10図13	10建	柱	(66.3) × 14.0 × 14.0	心持材	無	左側面が土壁外側、右側面が内側を向き、地中に作出された駒が土台に接合する。駒の先端部は角が全て面取りされる。左側面は丸太面となるが、鋭て切込めを入れた後、半月状に浅い欠込が2か所施され、壁土を保持する削材が接合する。表・裏面・右側面には成形時のヨキの痕跡が明瞭である。表・裏面の駒穴には丸竹材が接合し、裏面の駒穴は2段階の深さを有する。天部は直触れにより欠損。	クリ	9	
334図	10図14	10建	柱	(47.7) × 15.1 × 14.7	心持材	無	左側面が土壁外側、右側面が内側を向き、地中に作出された駒が土台に接合する。駒の先端部は角が全て面取りされる。左側面は丸太面となるが、表・右側面には成形時のヨキの痕跡が明瞭である。表・裏面の駒穴には丸竹材が接合し、裏面の駒穴は2段階の深さを有する。左側面地部寄りに隙間状の欠込が施され、壁土を保持する削材が接合する。天部は直触れにより欠損。	クリ	7	
335図	10図15	10建	柱材?	(163.0) × 14.0 × 14.0	心持材	無	使用状況不明。ヨキかチョウナにより角が面取りされて断面八角形状に成形される。表から裏面へ貫通する駒穴2か所有り。表には小駒穴2か所施される。左側面天部寄りに欠込有り。地部は直触れにより欠損。	マツ属 椎管東亜属	-	
335図	10図16	10建	柱材?	(130.0) × 15.0 × 14.0	心持材	無	使用状況不明。成形時の加工痕は不明であるが非常に平滑で滑らかである。部材は角が面取りされて断面八角形状に成形される。表から裏面へ貫通する駒穴2か所有り。左側面から右側面へ貫通する駒穴(段形有り)1か所施される。左側面・右側面には土壁寄材(即座し竹)が接合すると考えられる小駒穴が施される(左側面は小駒穴2か所より1組)。天部には駒が作出された痕跡有り。地部は直触れにより欠損。	スギ	-	
336図	10図17	10建	土壁 竹小舞	(44.0) × 径3.6	丸竹材	無	直竹材と考えられ、地部は斜めに切断される。天部は直触れにより欠損。	竹笹類	-	
336図	10図18	10建	土壁 竹小舞	(36.7) × 径4.9	丸竹材	無	直竹材と考えられ、地部は斜めに切断される。天部は直触れにより欠損。	竹笹類	-	
336図	10図19	10建	土壁 竹小舞	(46.9) × 径4.2	丸竹材	無	直竹材と考えられ、地部は斜めに切断される。天部は直触れにより欠損。	竹笹類	-	
336図	10図20	10建	土壁 竹小舞	(52.9) × 径3.9	丸竹材	無	直竹材と考えられ、地部は斜めに切断される。天部は直触れにより欠損。	竹笹類	-	
336図	10図21	10建	土壁 竹小舞	(44.2) × 径3.5	丸竹材	無	直竹材と考えられ、地部は斜めに切断される。天部は直触れにより欠損。	竹笹類	-	
336図	10図22	10建	土壁部材	(47.7) × 4.0 × 3.3	心持材	無	土壁の内部で柱に接合し土壁を保持する水平材。ミカコ型材の削材。	コナラ属 コナラ	9	
337図	10図23	10建	板材	149.0 × 24.0 × 8.0	板目材	無	表・裏面は鋸による成形時の加工痕有り。左側面・右側面はヨキかチョウナによる成形時の加工跡明瞭。表に円形の当たりの痕跡有り。	スギ	-	
338図	10図24	10建	梁?	493.0 × 22.0 × 24.0	心持材	無	天部の継手は台持継手の系統か。ヨキかチョウナにより断面八角形状に成形されるが丸太面も遺存。表に深さ約3cmの十字形の駒穴及び左右対称に欠込2か所有り。地部には駒が作出される。	マツ属 椎管東亜属	-	
338図	10図25	10建	木杭	316.5 × 10.5 × 10.5	心持材	無	使用状況不明。地部寄りは断面八角形状にヨキかチョウナにより成形されるが天部寄りは丸太面。地部は7~8方向から加工され先が鋭く尖る。	-	-	
338図	10図26	10建 1施設	木杭	(64.0) × 11.0 × 9.0	心持材	無	樹皮が残る丸太材。地部は加工により先が尖る。天部は直触れにより欠損。	クリ	-	
338図	10図27	10建 1施設	木杭	87.0 × 11.0 × 8.0	心持材	無	ミカン割り状の打削材(4分割)。地部は4~5方向から加工され先が尖る。	コナラ属 コナラ	-	
340図	10図28	10建 1施設	木杭	57.2 × 7.6 × 6.2	心持材	無	表と裏面との間には丸太面が遺存する。表の左側面寄りに斜交り状の駒跡僅かに有り。削材ではなく、角材に製材される。地部はおよそ5方向から加工され先が尖る。	サクラ属	9	
340図	10図29	10建 1施設	木杭	73.0 × 7.0 × 6.5	心持材	無	ミカン割り状の打削材(4分割)。表には樹皮遺存。地部は4方向から加工され先が尖る。	サクラ属	-	
340図	10図30	10建 1施設	木杭	77.0 × 9.0 × 6.0	心持材	無	ミカン割り状の打削材(4分割)。表には樹皮遺存。地部は3方向から加工され先が尖る。	ハンノキ属 ハンノキ	-	
340図	10図31	10建 1施設	木杭	28.0 × 4.1 × 2.5	心持材	無	角材に成形され、表・左側面・右側面から斜めに加工されて地部の先が尖る。	スギ	6	
340図	10図32	10建 1施設	木杭	26.6 × 3.9 × 2.7	心持材	無	角材に成形され、左側面・右側面から斜めに加工されて地部の先が尖る。	スギ	6	
340図	10図33	10建 1施設	木杭	(71.0) × 12.0 × 12.0	心持材	無	樹皮が残る丸太材。地部は加工により先が尖る。天部は直触れにより欠損。	クリ	-	

遺物観察表

図版番号	掲載番号	出土位置	種類	計測値 (cm)		木取り	転用の有無	成形、調整の特徴など	樹種	年輪幅 (本/3cm)
				長さ×幅×厚さ						
341図	10建34	10建 1施設	柱材?	(174.0) × 9.0 × 9.0	心持材	無	使用状況不明。成形時の加工面は不明であるが非常に平滑で滑沢がある。部材は角の面取りされて断面八角形状に成形される。表には約4ヶ所有り。地部は腐蝕により欠損。	マツノ属 榎 椎 菅 栗 栗	-	
341図	10建35	1施設	不明	(79.0) × 14.0 × 7.0	心持材	無	使用状況不明。10建38と対か。表・左側面・右側面は丸太面。裏面は打削面。	コナラ 楓 コナラ 榎	-	
341図	10建36	10建 1施設	不明	(105.0) × 12.0 × 6.0	心持材	有	敷居からの転用材と考えられるが使用状況不明。地部は裏により切り落とされた痕跡有り(切り残し部分が凸部となる)。表には2本溝が刻まれるが溝幅はとどかない。また格子戸が接合するような小欠け施される。溝と柄を切るかたちでV字状の欠けが施される。天部の仕口は納。裏面には幅が細く深い溝1条有り。	クリ	-	
342図	10建37	10建 1施設	不明	155.0 × 15.0 × 8.0	心去材	無	使用状況不明。部材に細い角材が釘により固定されている。部材の表にはヨキかチョウナによる成形時の加工面有り。角材の表・左側面にもヨキかチョウナによる成形時の加工面有り。部材天部の仕口は納。表から裏面へ貫通する幅2ヶ所のうち1ヶ所には柄が遺存する。	クリ	-	
342図	10建38	10建 1施設	不明	(80.0) × 14.0 × 8.0	心持材	無	使用状況不明。10建35と対か。表・右側面・右側面は丸太面。裏面は打削面。	コナラ 楓 コナラ 榎	-	
343図	10建39	10建	敷居	(149.0) × 12.0 × 6.0	心去材	無	使用状況不明。10建35と対か。表・右側面・右側面は丸太面。裏面にはヨキかチョウナによる成形時の加工痕跡に有り。表には2本溝が刻まれるが溝幅はとどかない。また格子戸が接合するような小欠け施される。天部の仕口は納。地部は腐蝕により欠損。裏面には幅が細く深い溝1条有り。	クリ	-	
343図	10建40	10建	板材	(188.0) × 7.0 × 12.0	心去材	無	使用状況不明。左側面・右側面・裏面とも裏による成形と考えられる。右側面に掛け112ヶ所施される。天・地とも仕口は欠損により不明。	スギ	-	
344図	10建41	10建	板材	139.0 × 14.5 × 5.0	板目材	無	使用状況不明。表は裏による成形と考えられる。表には掛け113ヶ所施される(裏による切込み有り)。	マツノ属 榎 栗 栗 栗	-	
344図	10建42	10建	板材	91.0 × 25.0 × 1.5	板目材	無	使用状況不明。平面形状の板材。表・裏面とも裏による成形と考えられる。右側面に板反り施される。	マツノ属 榎 栗 栗 栗	-	
344図	10建43	10建 2施設	木杭	112.0 × 5.0 × 6.0	心持材	無	使用状況不明。丸太材。地部は3方向から加工され、転用の可能性有り。	マツノ属 榎 栗 栗 栗	-	

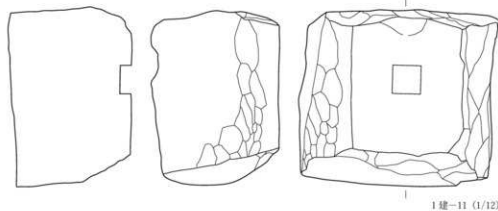
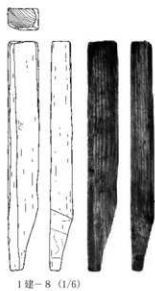
遺物観察表 (石製品)

図版番号	掲載番号	出土位置	種類	計測値(cm)		石 材	成形、調整の特徴など
				長さ×幅×厚さ			
156図	1建11	1建	礎石	57.6 × 61.2 × 40.8	粗粒輝石安山岩	1建A-9礎石。土間上となる部分は、礫形状工具による丁寧な成形。地中に埋没していた部分は粗い成形面を残す。天井部中央には、一辺約9cmの方形の孔が約3.6cmの深さで穿たれ、ここに柄を持つ柱が立つと思われる。	
205図	1建103	1建4床	形礎	63.0 × 62.0 × 34.2	粗粒輝石安山岩	1号建物4号床中央に敷設。天井部は礫形状工具により、丁寧に成形。外面は粗い成形面を残す。中央を一辺約46cmの方形に割り貫く。割り貫かれた断面は逆台形状であり、底面は一辺約40cm。深さは約21cmであった。	
231図	1建152	1建1南口	南口	72.6 × 69.6 × 48.0	粗粒輝石安山岩	1号建物1号南口。内面及び天井部を丁寧に成形。外面は粗い成形面を残す。中央を径約36cmの円形に割り貫く。深さは約35.1cm。割り貫かれた断面は、天井部付近でややすぼまる形状。	
231図	1建153	1建2南口	南口	54.6 × 54.6 × 33.0	粗粒輝石安山岩	1号建物2号南口。内面及び天井部を丁寧に成形。外面は粗い成形面を残す。中央を径約37.8cmの円形に内面を割り貫く。深さは23.4cm。	
323図	5建86	5建1施設	礎	13.8 × 6.2 × 2.9	粗粒輝石安山岩	5建馬屋前。1施設で使用された石製の礎。地部(先施)は細く加工される。	
323図	5建87	5建1施設	礎	13.7 × 4.5 × 3.3	粗粒輝石安山岩	5建馬屋前。1施設で使用された石製の礎。地部(先施)は細く加工される。10号建物裏手出入口1に使用。10建8の土台にステップ状に敷設されていたと思われる。表及び左側面は丁寧に成形され、刻まれた細い溝が各1条有り。天及び地部には、土壁に合わせるためか一部を凹め、調整したような痕跡が見られる。転用の可能性有り。	
328図	10建6	10建	石段	115.0 × 24.5 × 22.0	粗粒輝石安山岩		



第155图 I区1号建物出土遗物1~7

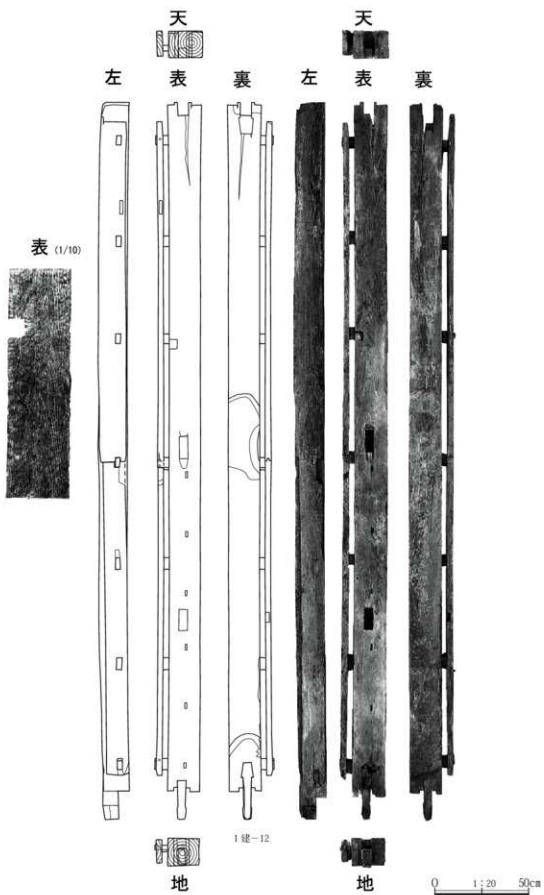
0 1:6 12cm



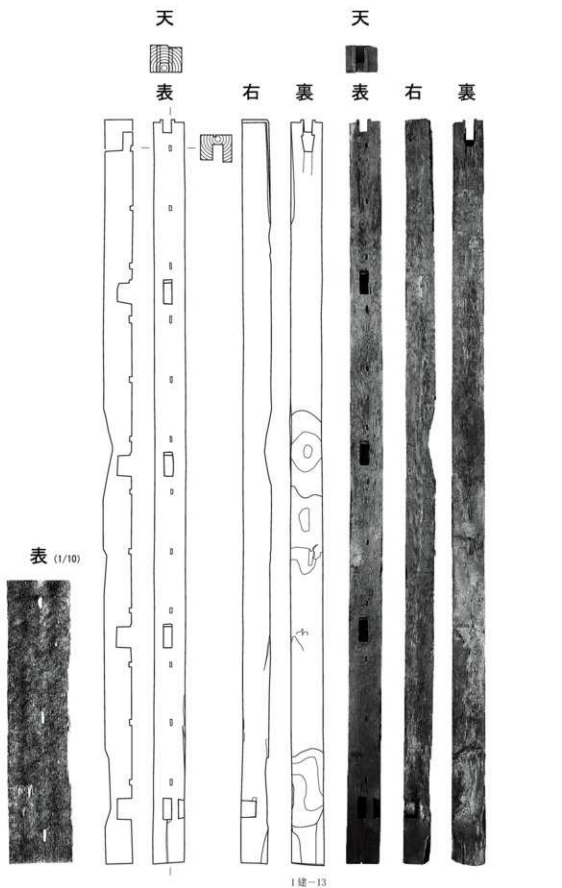
0 1:6 12cm

0 1:12 24cm

第156图 I区1号建物出土遗物8~11



第157图 I区1号建物出土遗物12

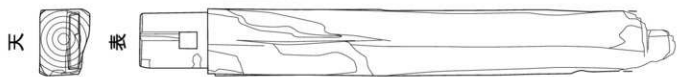
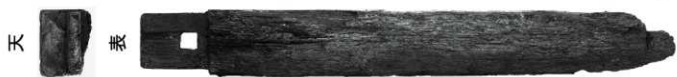


第158图 I区1号建物出土物13



第159图 I区1号建物出土遗物14·15

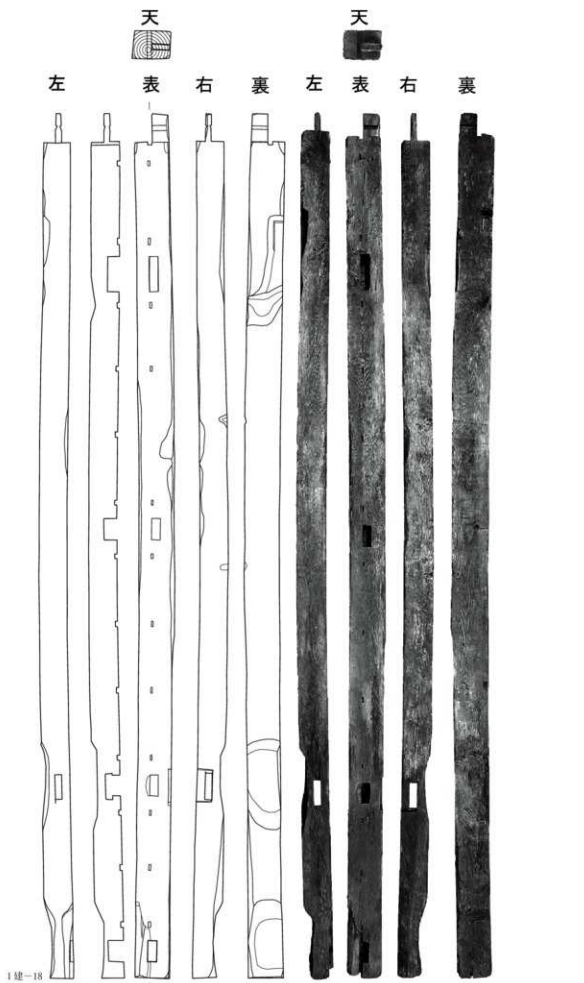
0 1:10 25cm



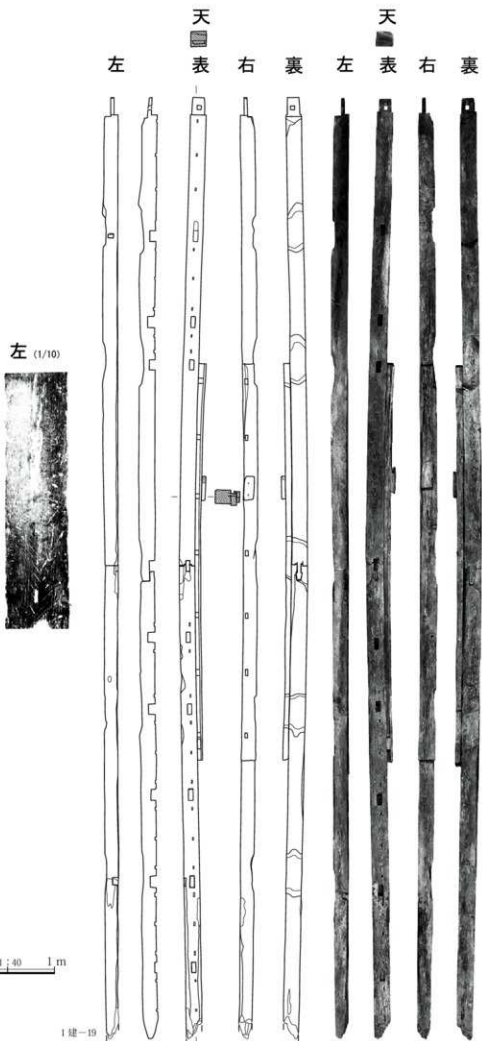
1建-17

1建-15

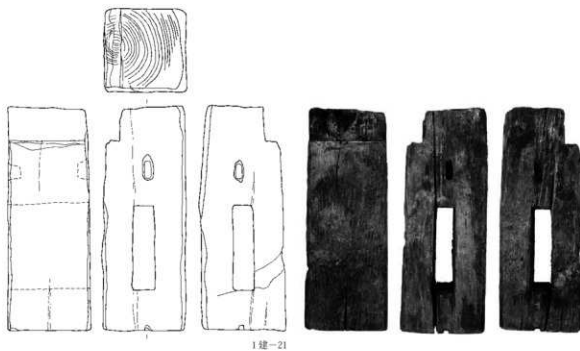
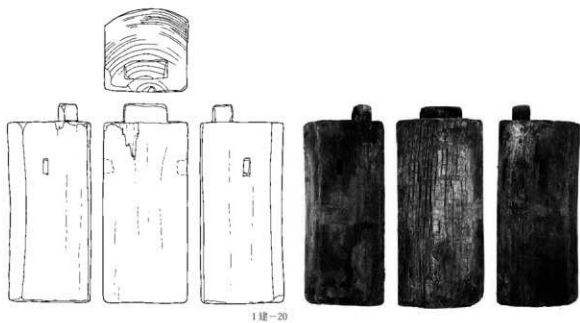
第160图 1区1号建物出土遺物16·17



第161图 I区1号建物出土物18

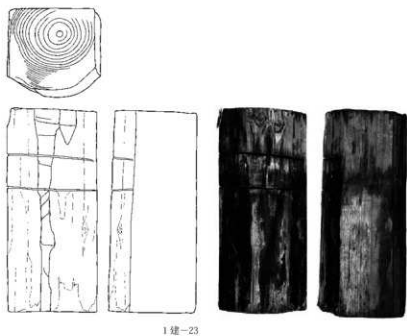
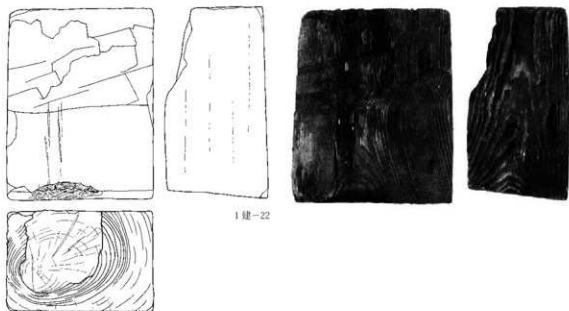


第162图 I区1号建物出土遺物19



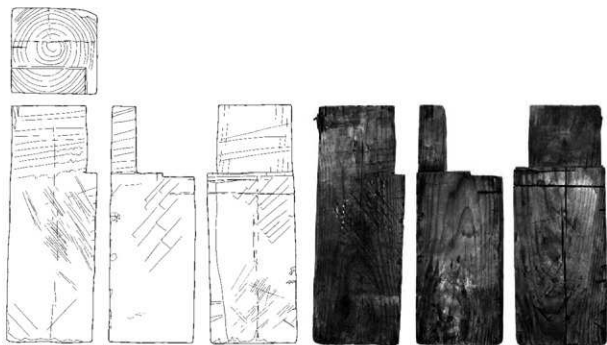
第163图 I区1号建物出土遗物20·21

0 1:6 12cm

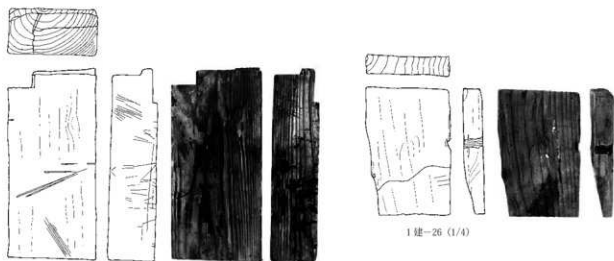


第164图 I区1号建物出土遗物22·23

0 1:6 12cm



1建-24 (1/6)



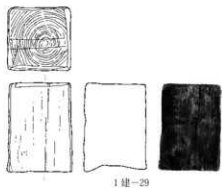
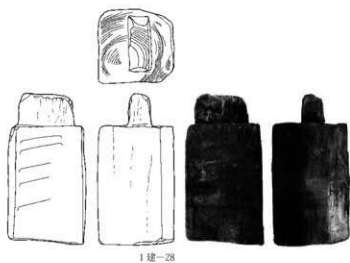
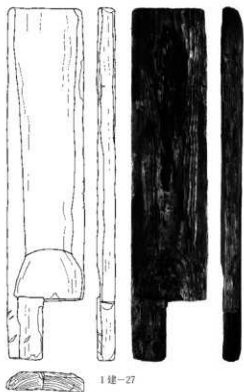
1建-25 (1/6)

1建-26 (1/4)

0 1:4 8cm

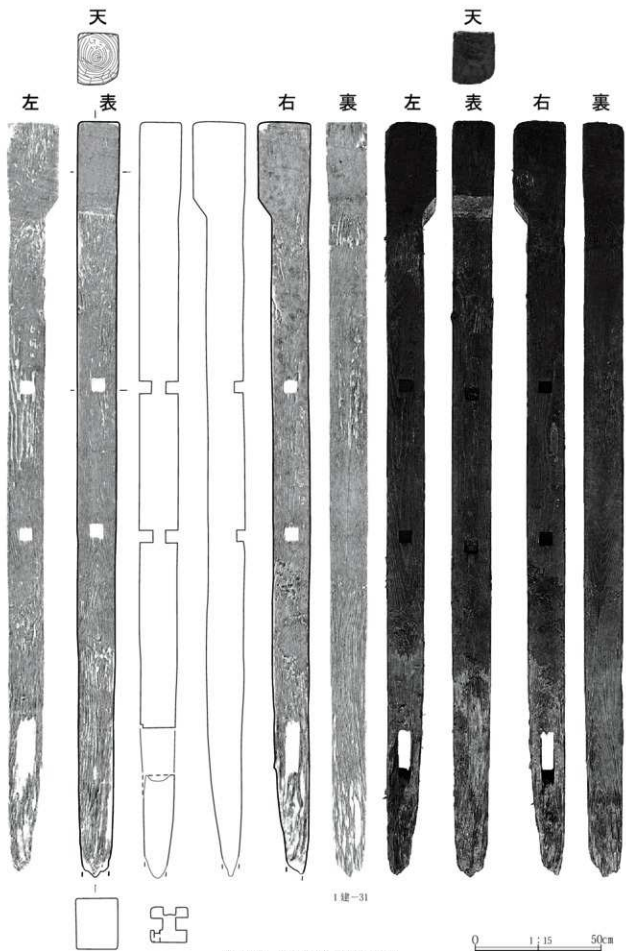
0 1:6 12cm

第165图 Ⅰ区1号建物出土遗物24~26

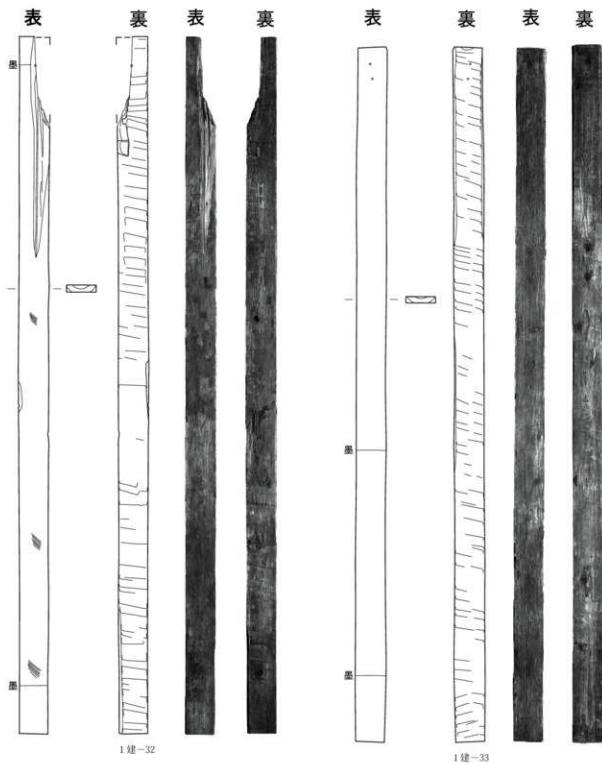


0 1:6 12cm

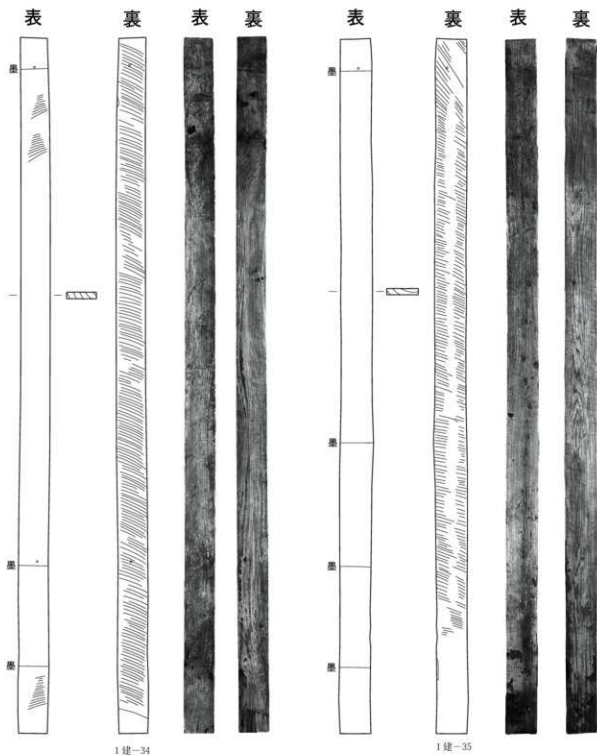
第166图 I区1号建物出土遺物27~30



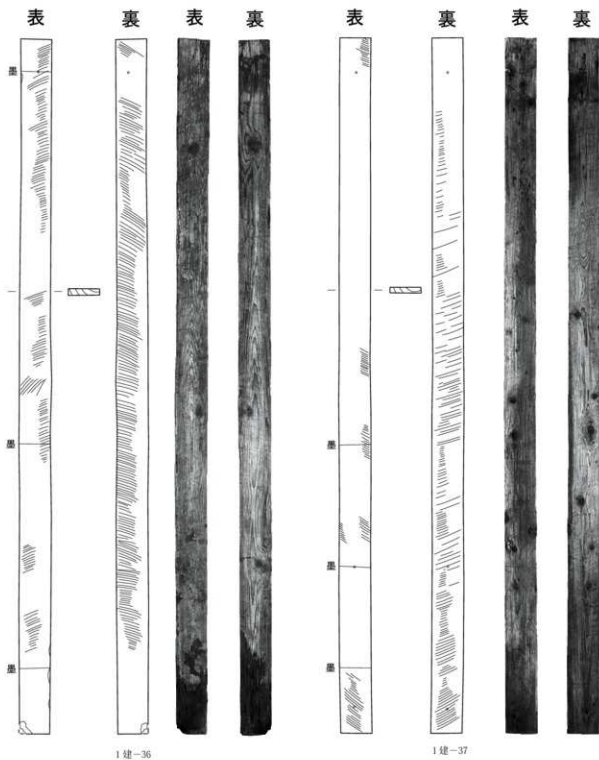
第167图 I区1号建物出土遗物31



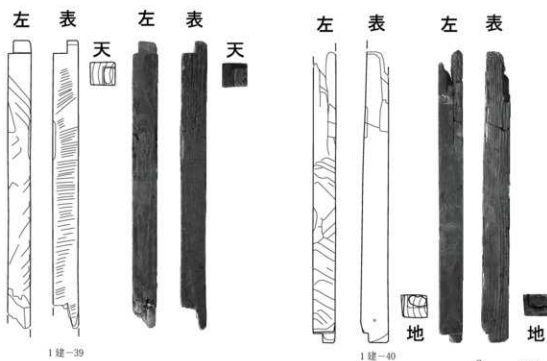
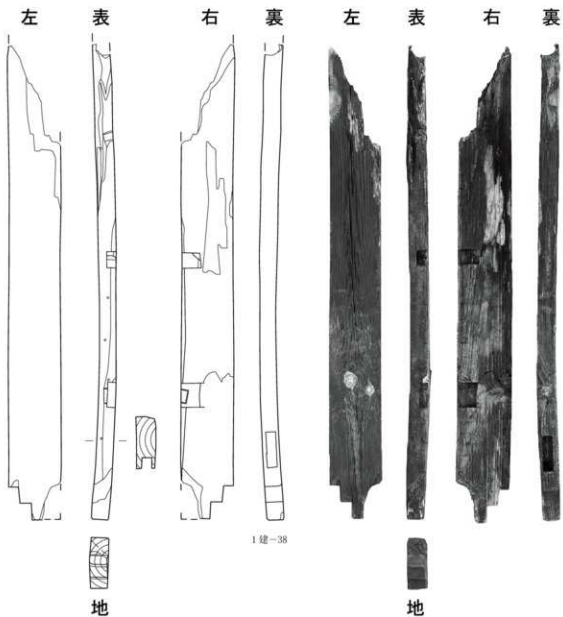
第168图 I区1号建物出土遺物32·33



第169图 I区1号建物出土遺物34·35

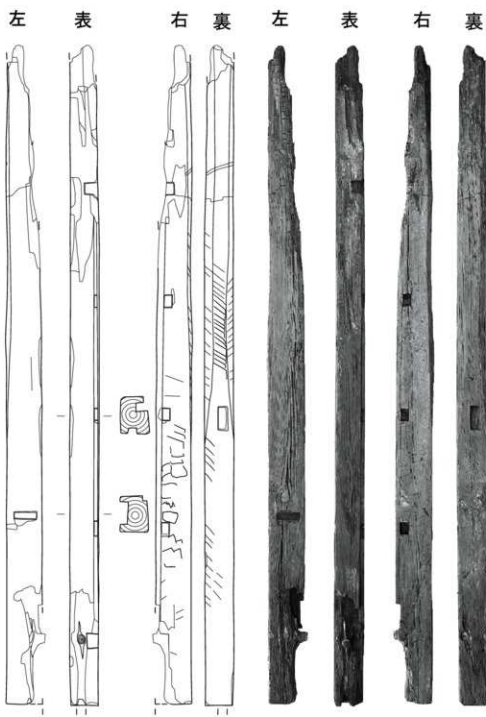


第170图 I区1号建物出土遗物36·37



第171图 1区1号建物出土遺物38~40

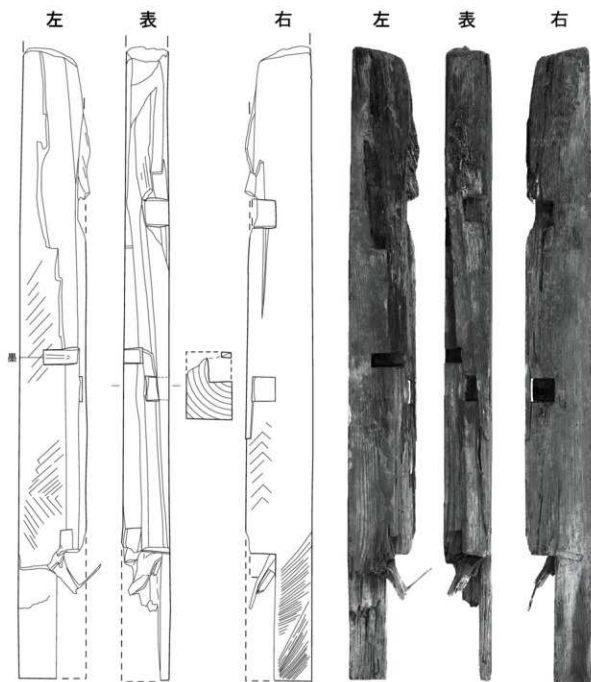
0 1:10 25cm



1建-41

0 1:15 50cm

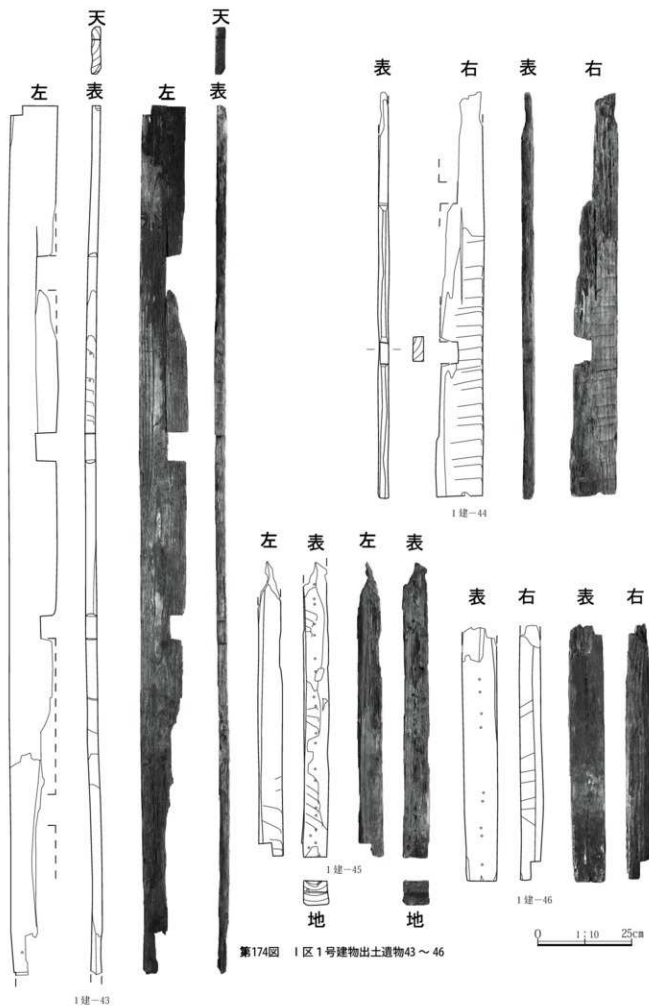
第172图 Ⅰ区1号建物出土遗物41



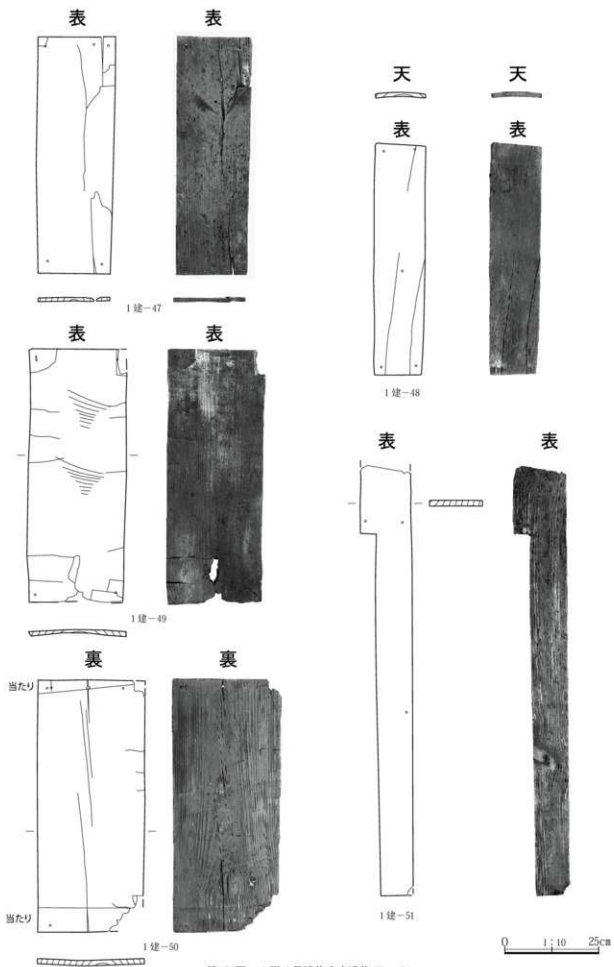
I建-42

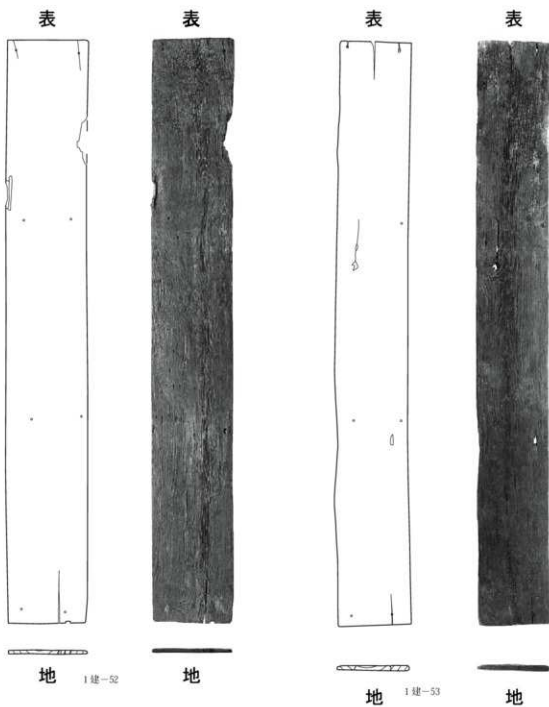
0 1:10 25cm

第173图 I区1号建物出土遗物42



第174图 I区1号建物出土遗物43~46





第176图 I区1号建物出土遗物52·53



第177図 I区1号建物出土物54

表

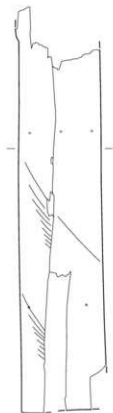


1建-55

表



表

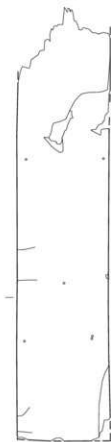


1建-56

表



表



1建-57

表



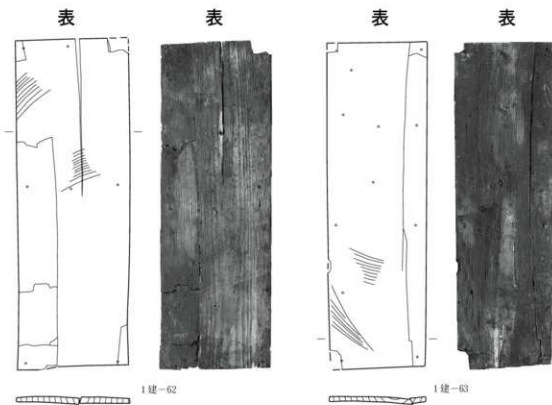
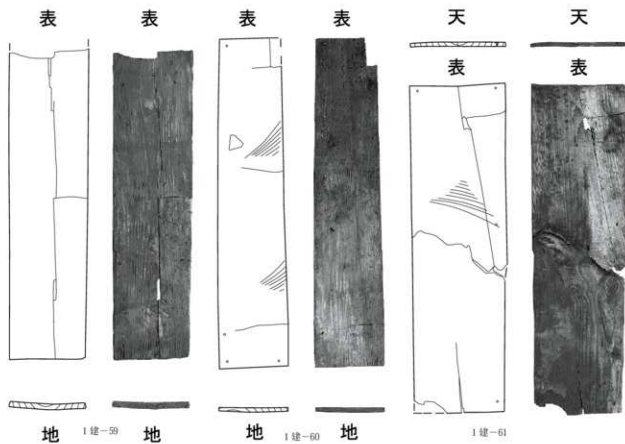
表



1建-58

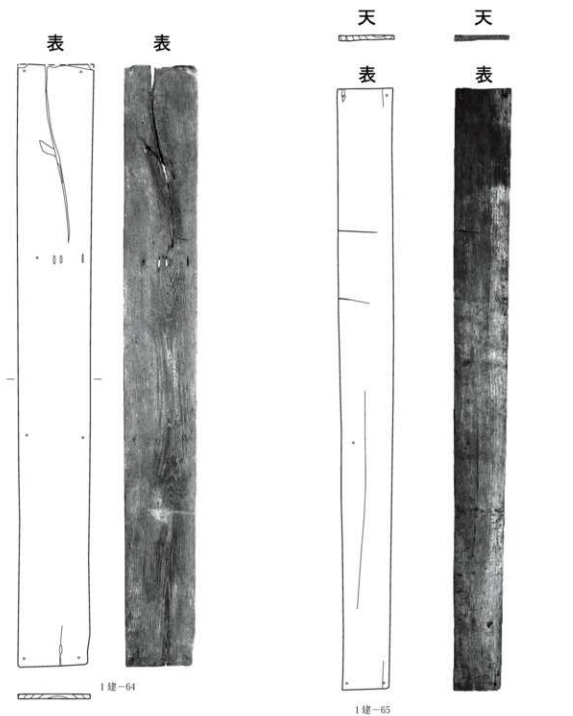
表





第179图 I区1号建物出土遗物59~63

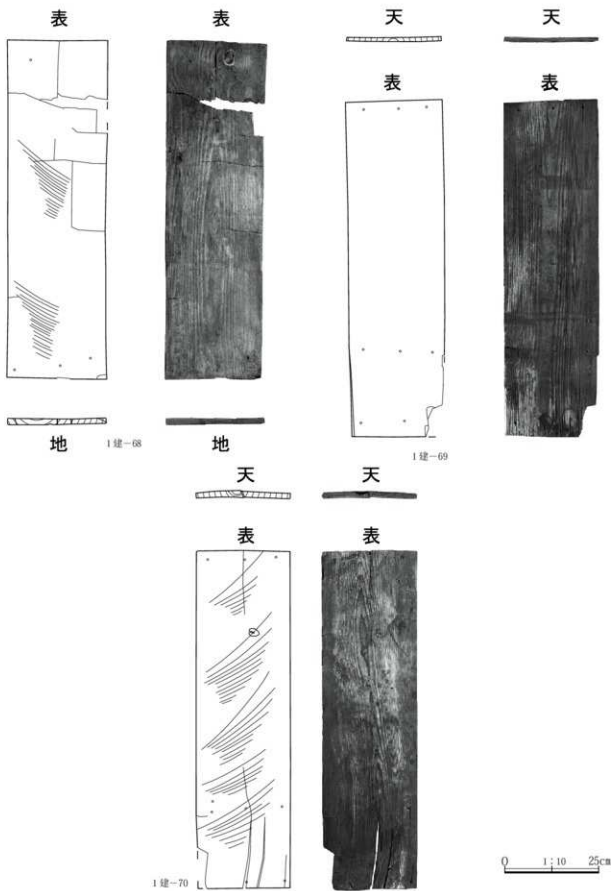
0 1:10 25cm



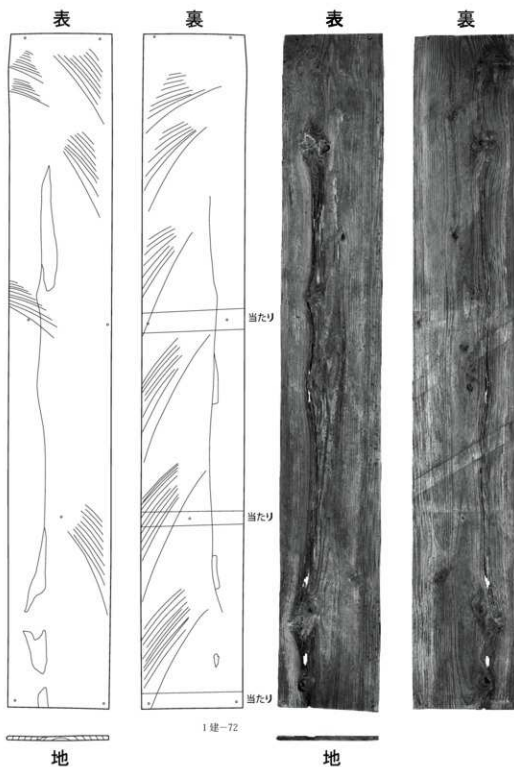
第180图 I区1号建物出土遺物64・65



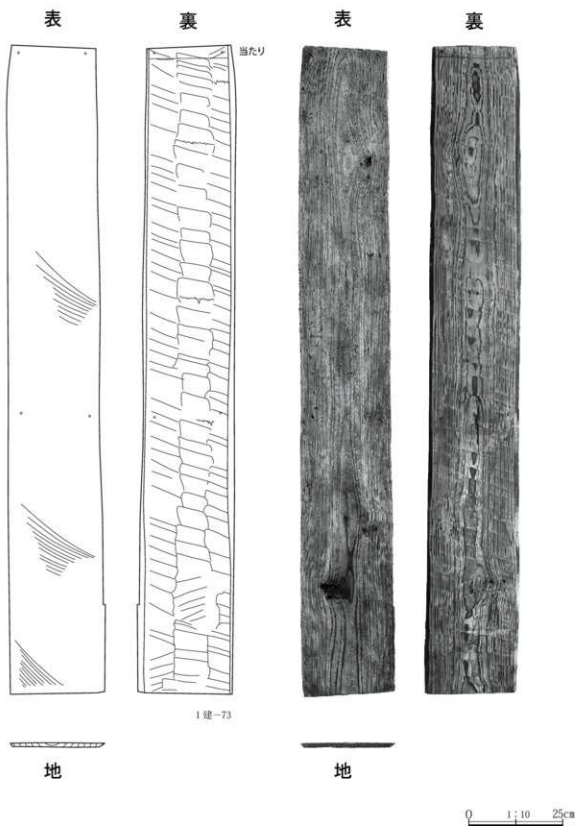
第181图 I区1号建物出土遺物66·67



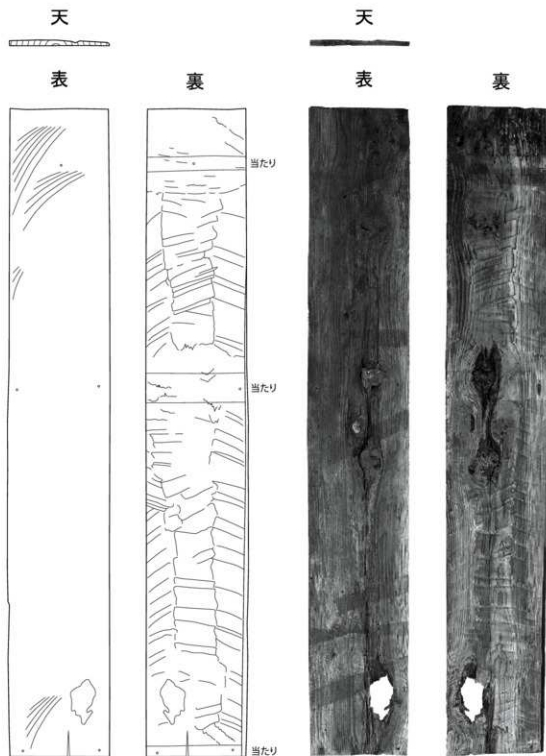
第182图 1区1号建物出土遗物68~70



第184図 Ⅰ区1号建物出土遺物72



第185図 I区1号建物出土遺物73



第186図 I区1号建物出土物74

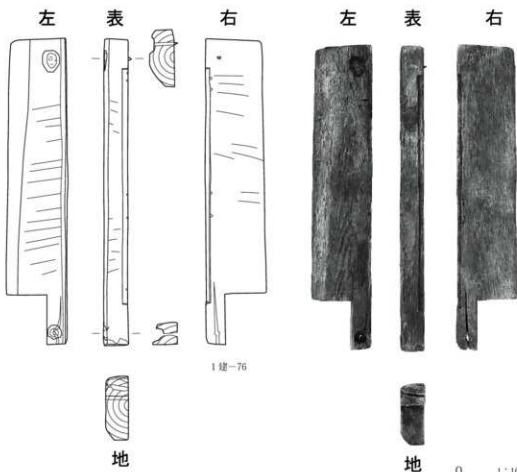


第187图 Ⅰ区1号建物出土遗物75①

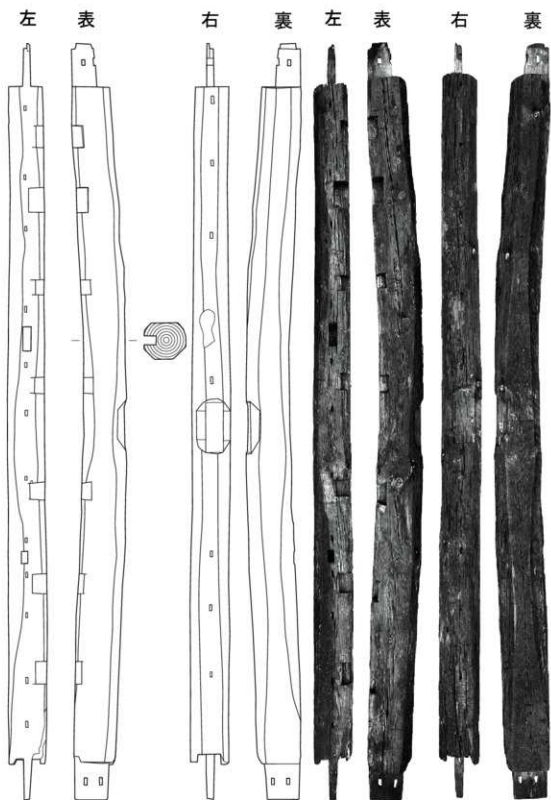
裏 (1/15)



1建-75②



第188图 I区1号建物出土遺物75②·76



0 1:20 50cm

第189图 1区1号建物出土遺物77①

裏 (1/10)



1建-77②



表

右

裏



1建-78



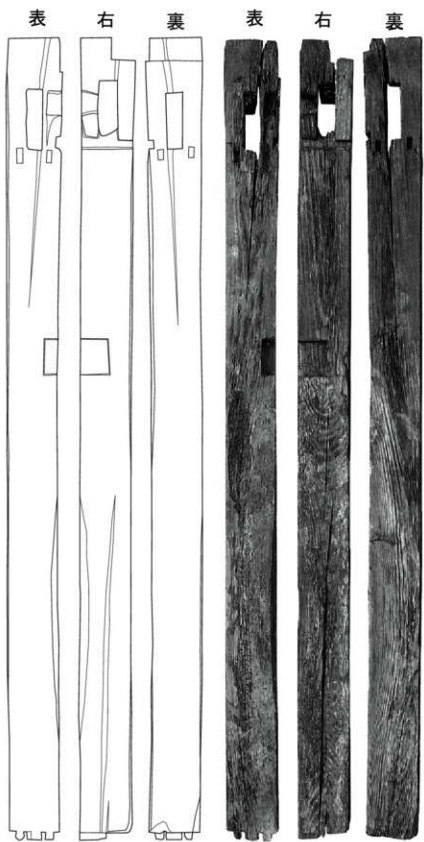
表

右

裏



第190图 I区1号建物出土遺物77②·78



1建-79



地

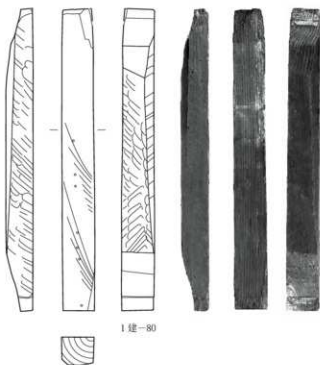


地

0 1:10 25cm

第191图 I区1号建物出土遗物79

左 表 裏 左 表 裏



左 裏 左 裏

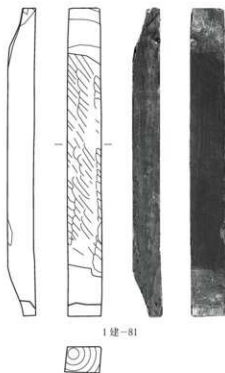
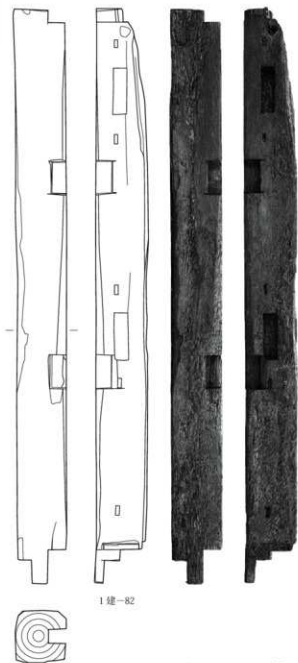
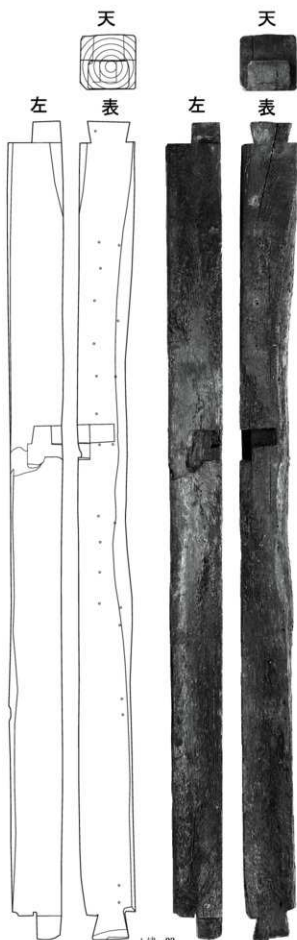


表 右 表 右



0 1:10 25cm

第192图 I区1号建物出土遺物80~82



1建-83

第193图 1区1号建物出土物83

0 1:10 25cm

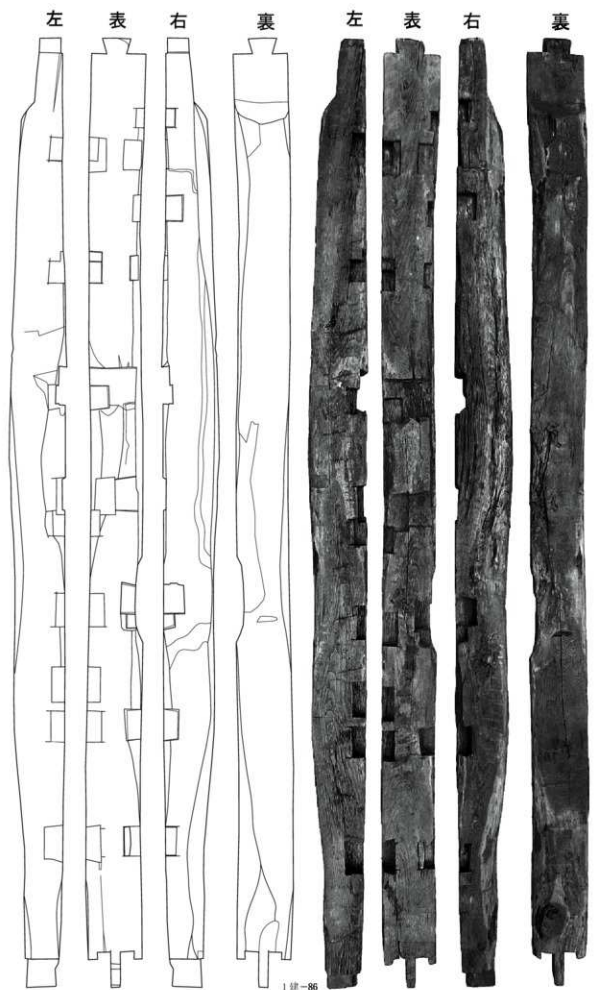


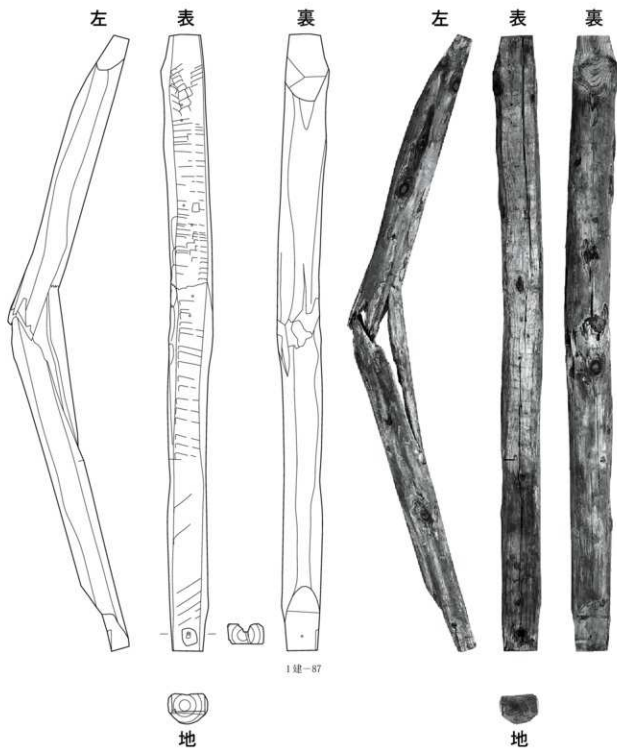
第194图 I区1号建物出土物84



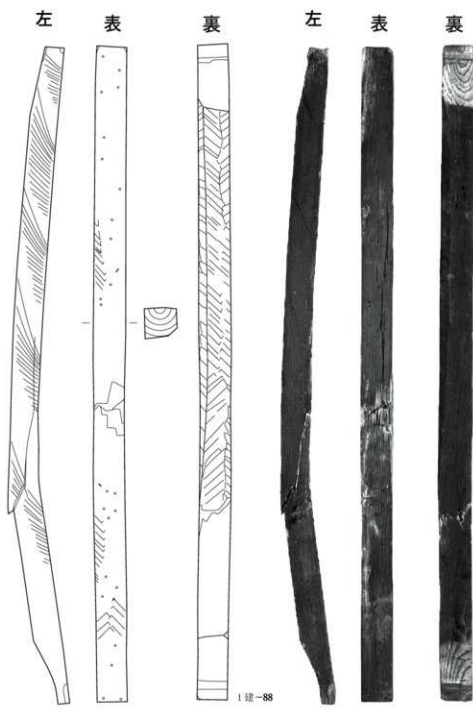
第195图 I区1号建物出土遗物85

0 1:10 25cm

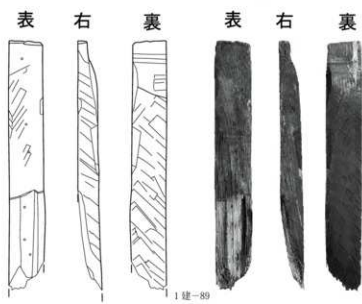




第197图 1区1号建物出土物87

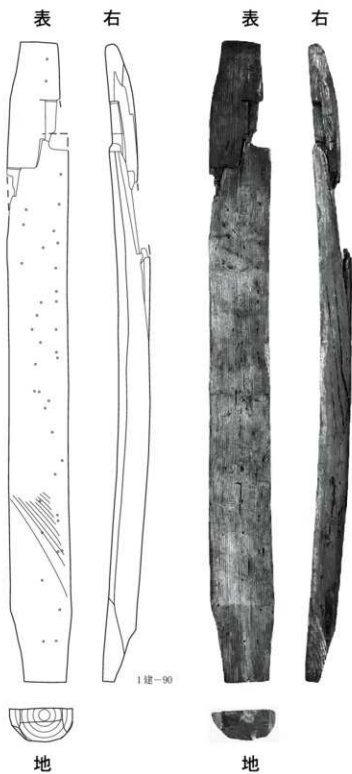


1建-88

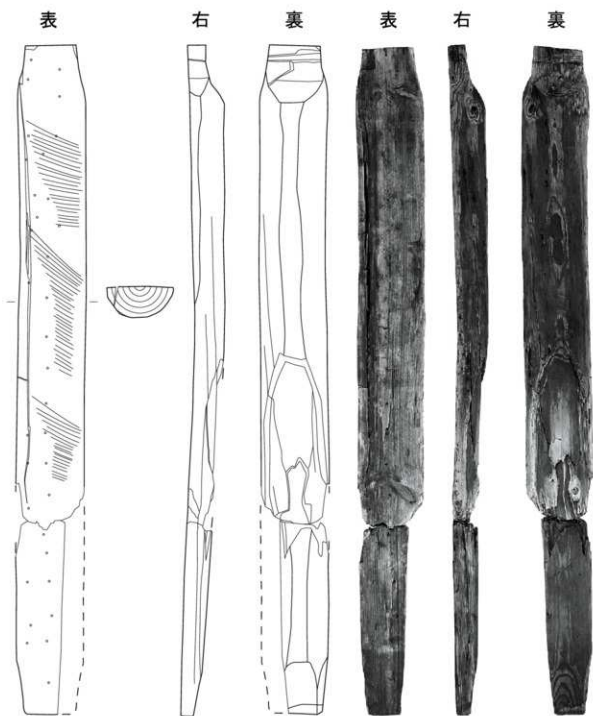


1建-89



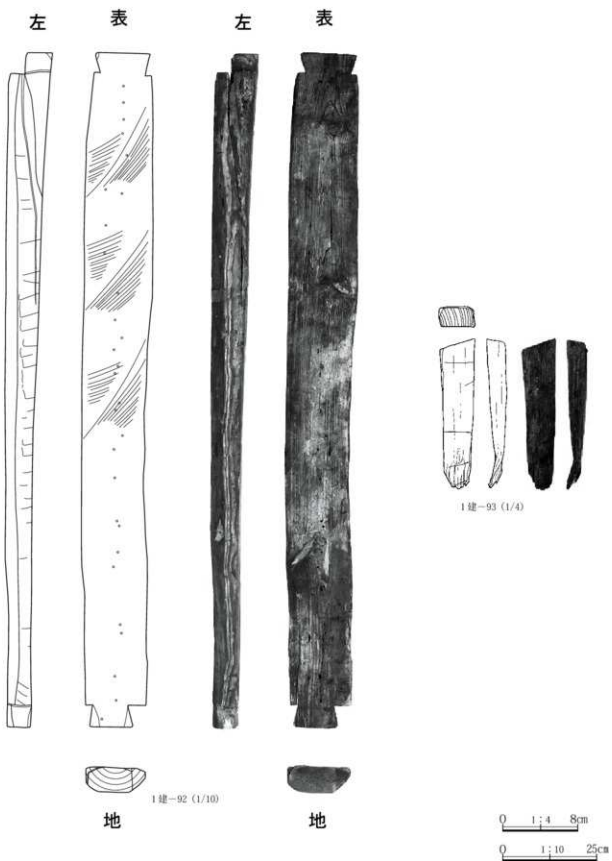


第199图 I区1号建物出土遗物90

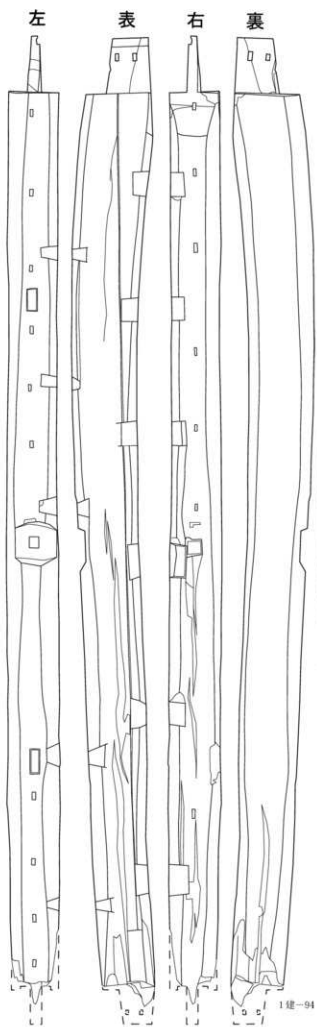


0 1:10 25cm

第200图 Ⅰ区1号建物出土遗物91



第201图 I区1号建物出土遺物92·93



天



表



天



表



地



1 建-95



地



1 建-96

天



表



左



天



表



左

天



表



右

天



表



右



地

1 建-97

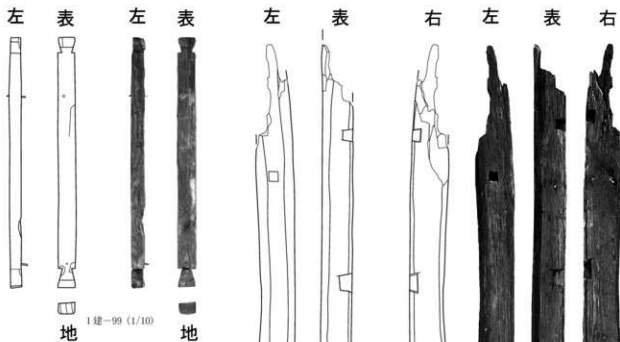


地

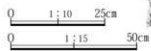
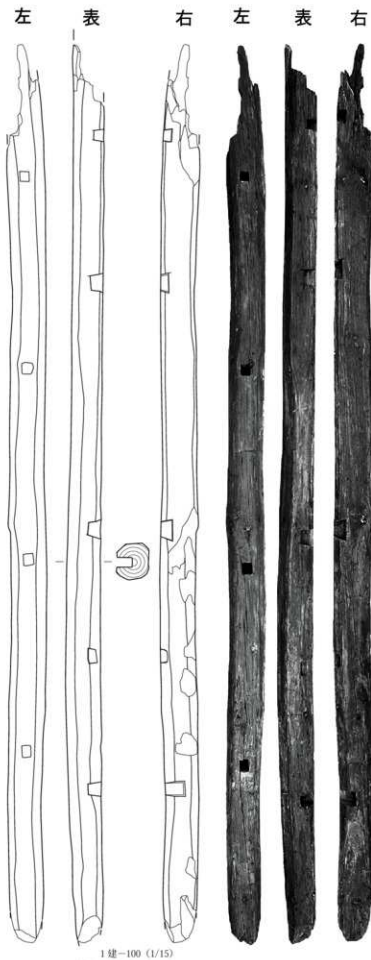
1 建-98

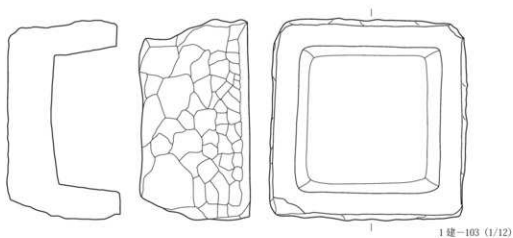
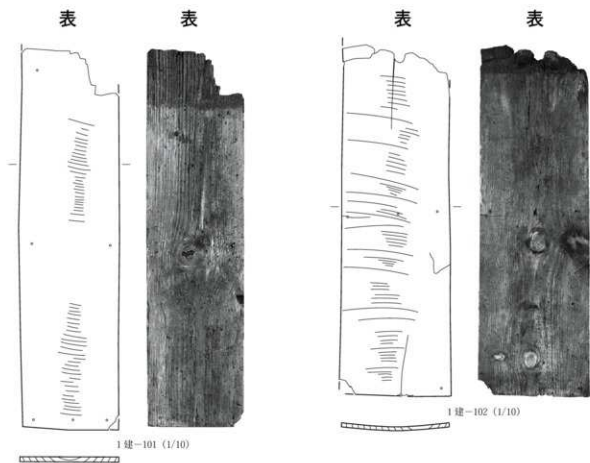
0 1:10 25cm

第203图 Ⅰ区1号建物出土遗物95~98



左 (1/10)





0 1:10 25cm

0 1:12 24cm

第205图 I区1号建物出土遗物101~103

表

表



1建-104 (1/10)

天



表

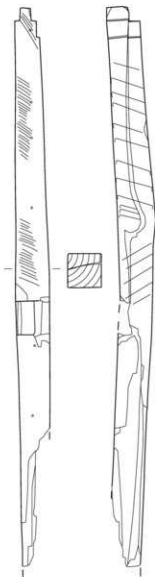
天



表

右

右



1建-106 (1/10)

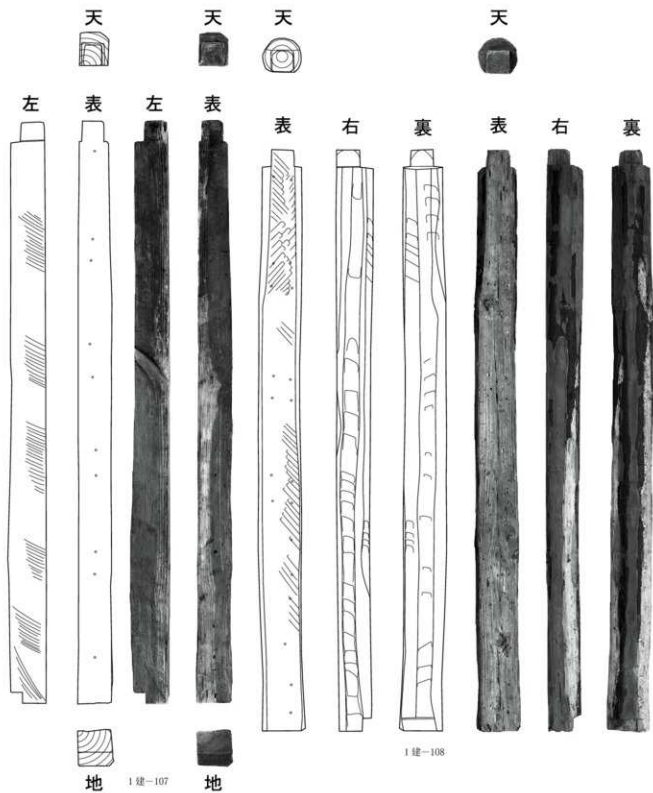


1建-105 (1/10)

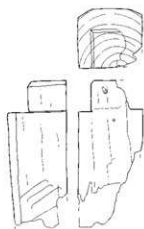
0 1:6 12cm

0 1:10 25cm

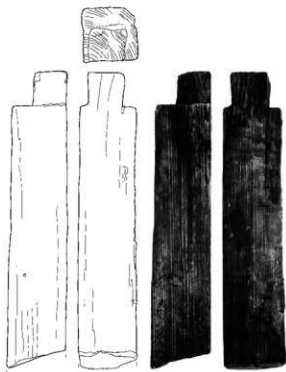
第206图 I区1号建物出土遗物104~106



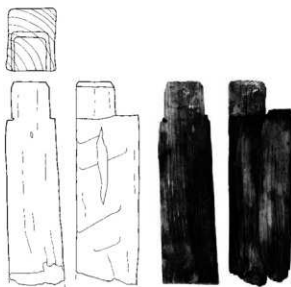
第207图 I区1号建物出土遺物107·108



1建-109



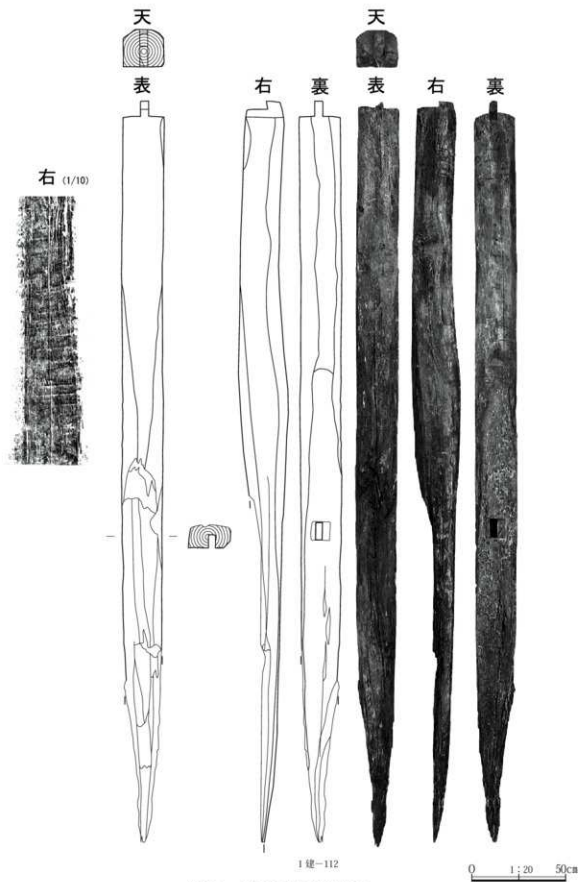
1建-110



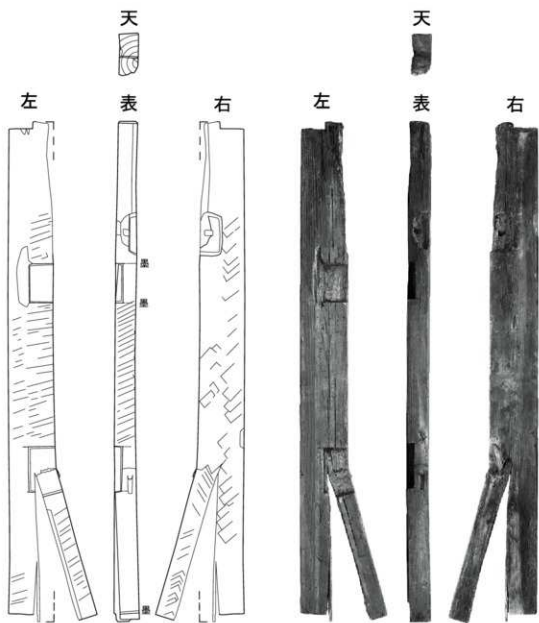
1建-111

0 1:6 12cm

第208图 I区1号建物出土遗物109~111



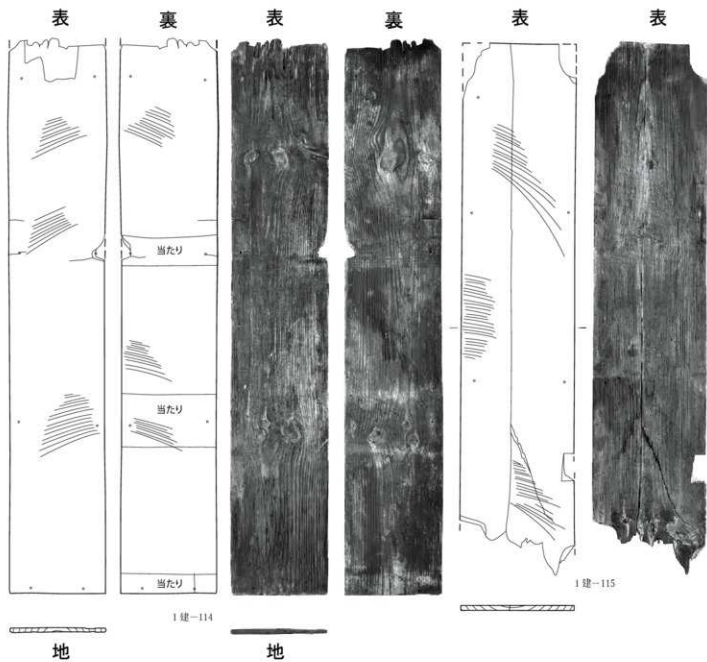
第209图 I区1号建物出土遺物112



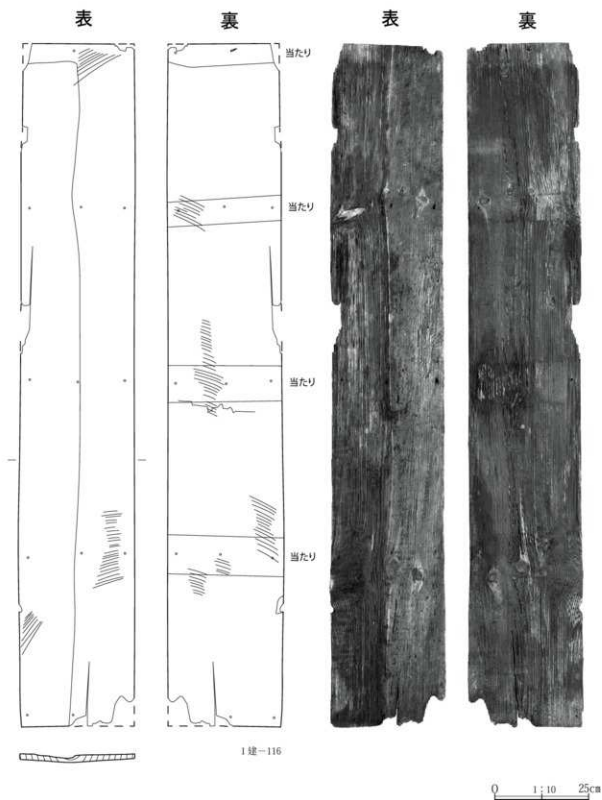
I 建-113

0 1:10 25cm

第210图 I 区1号建物出土遗物113



第211図 I区1号建物出土遺物114・115



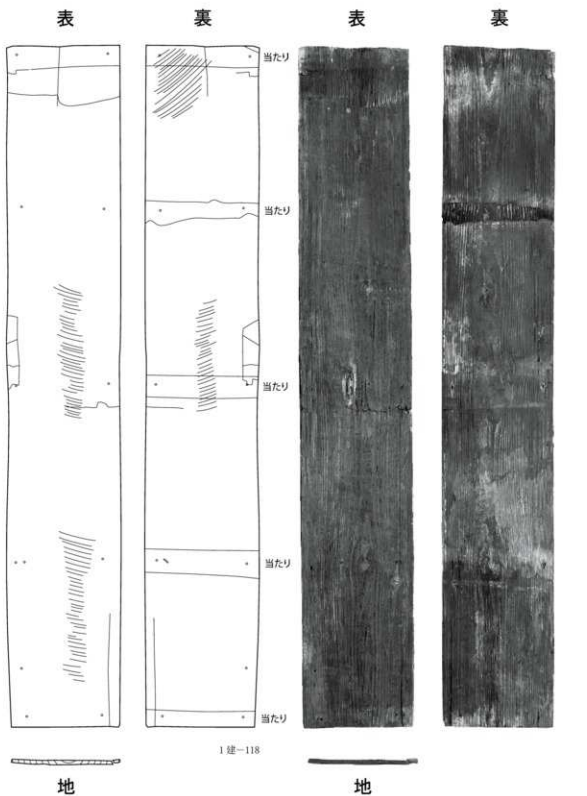
第212図 1区1号建物出土遺物116



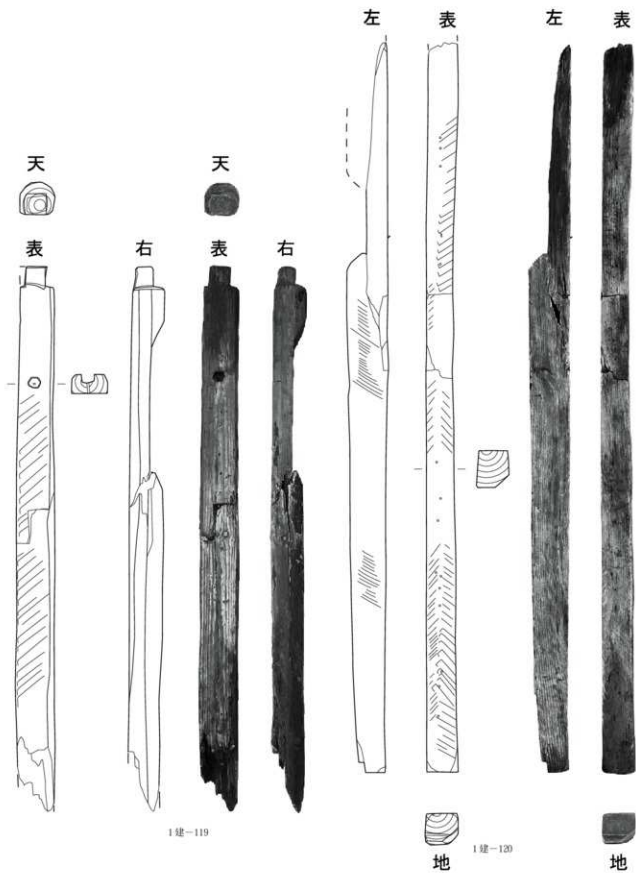
1 建-117

0 1:10 25cm

第213図 I区1号建物出土遺物117



第214図 I区1号建物出土遺物118

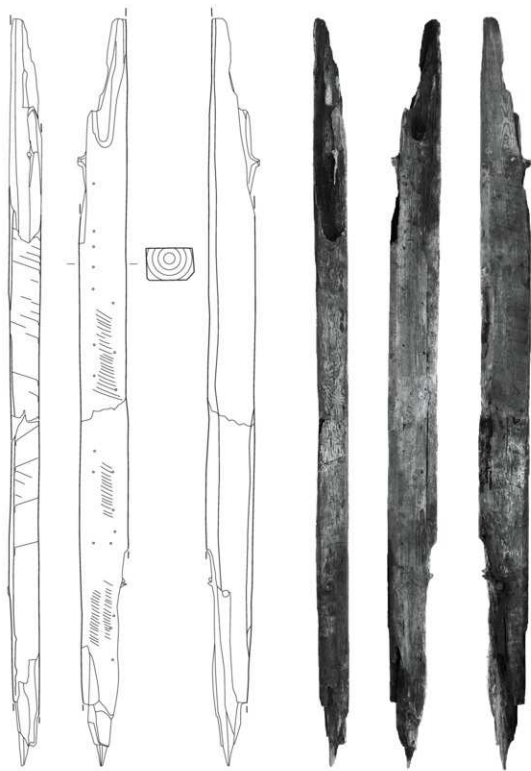


第215图 I区1号建物出土遗物119·120

0 1:10 25cm



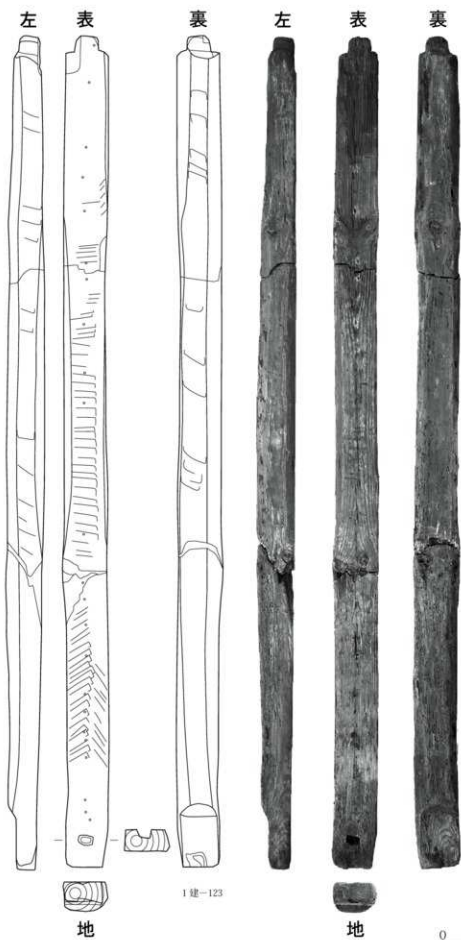
左 表 裏 左 表 裏

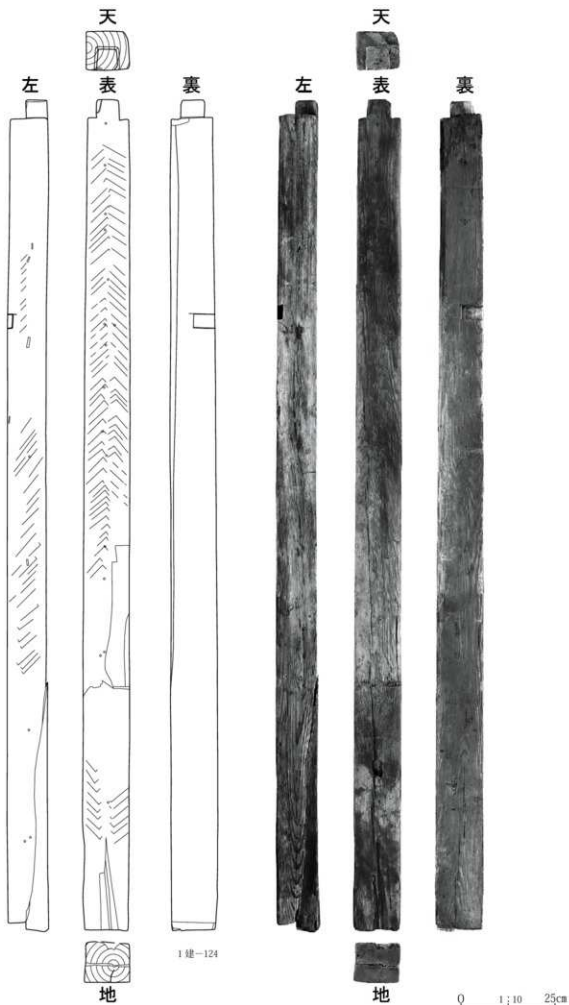


I 建-122

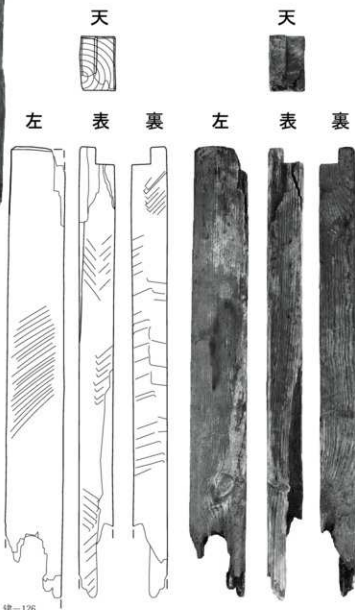
第217图 I 区1号建物出土遗物122

0 1:10 25cm



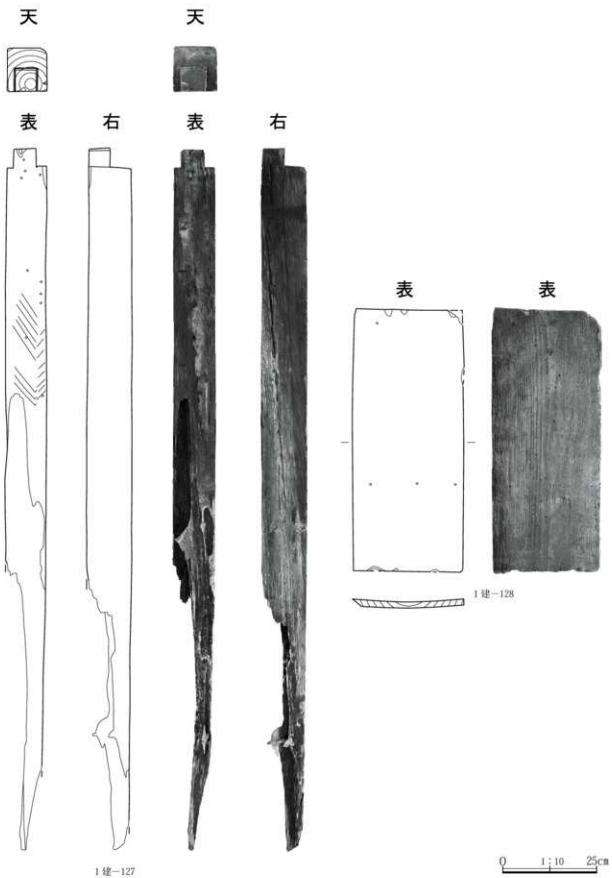


第219图 I区1号建物出土遗物124

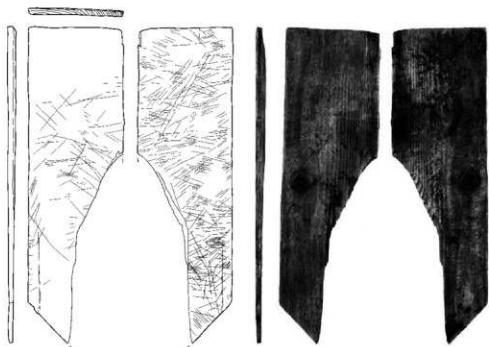


0 1:10 25cm

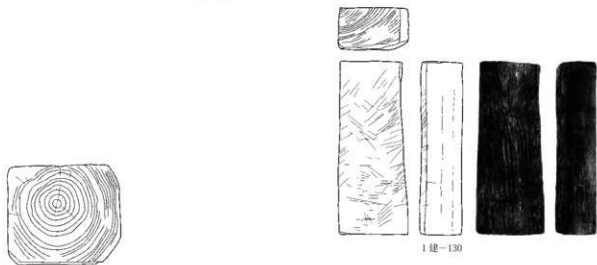
第220图 I区1号建物出土遺物125·126



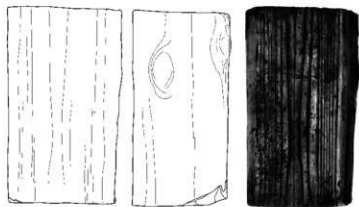
第221图 I区1号建物出土遗物127·128



1建-129



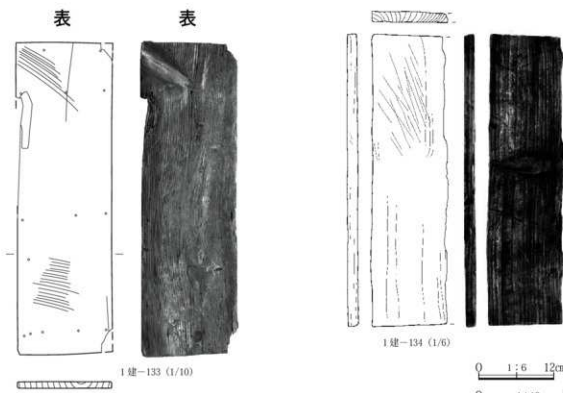
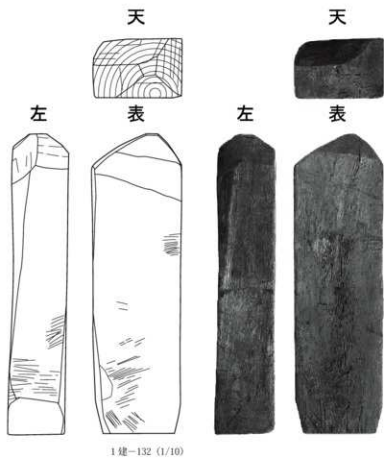
1建-130



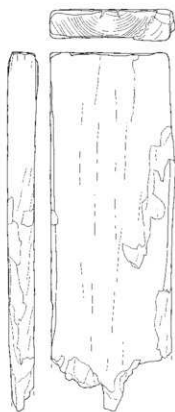
1建-131

第222图 I区1号建物出土遗物129~131

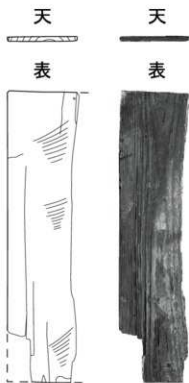
0 1:6 12cm



第223图 I区1号建物出土遗物132~134



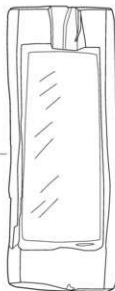
1 建-135 (1/6)



1 建-136 (1/10)



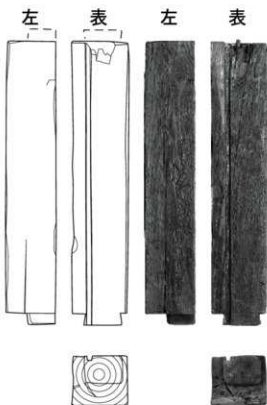
表



1 建-137 (1/10)

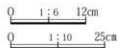


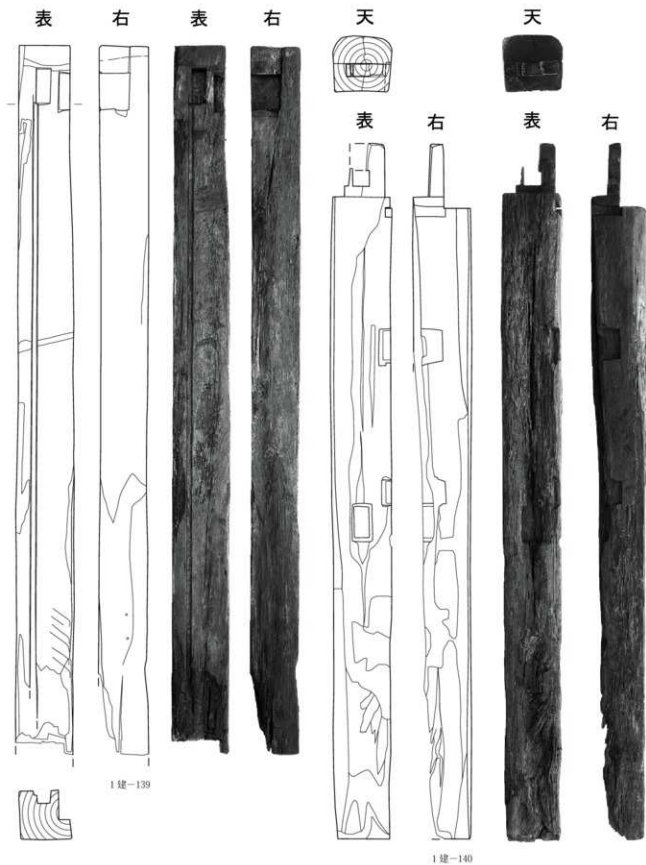
表



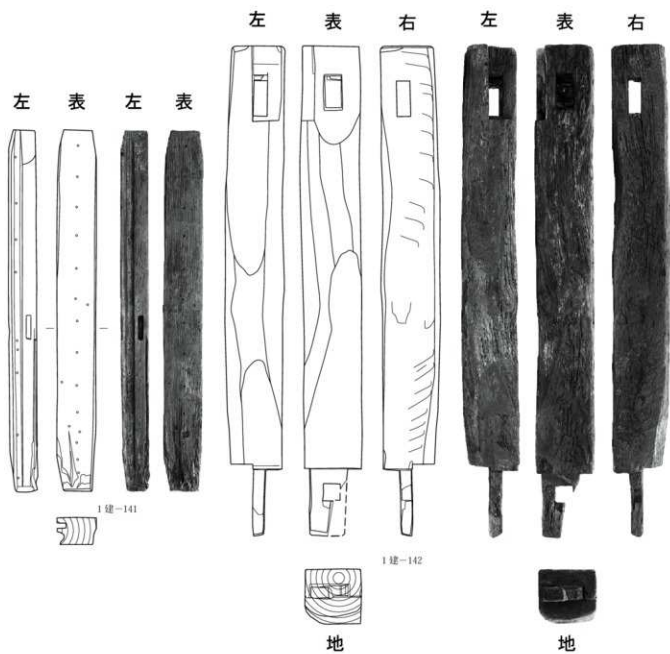
1 建-138 (1/10)

第224图 I区1号建物出土遗物135~138

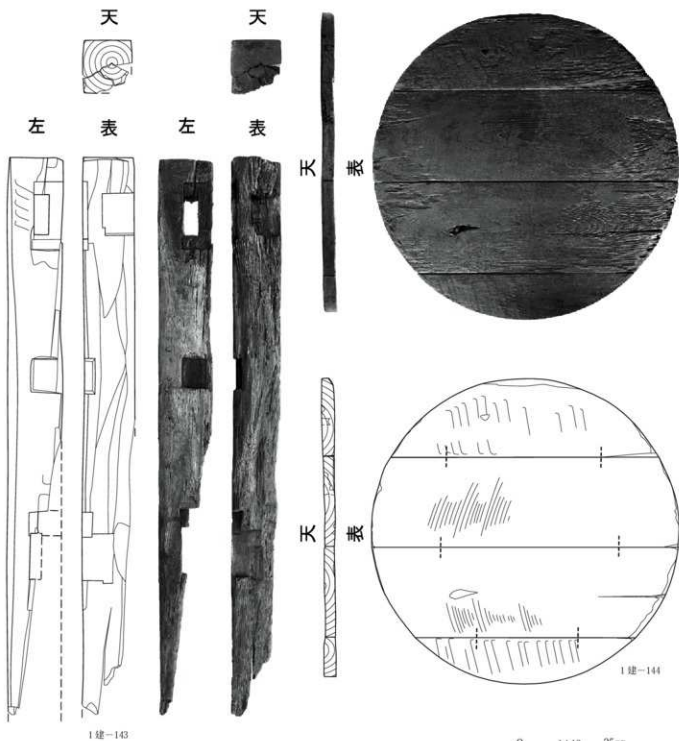




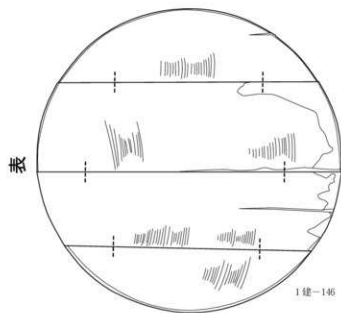
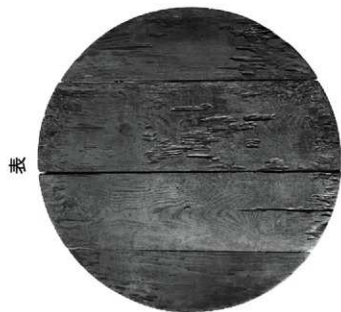
第225图 I区1号建物出土遗物139·140



第226图 I区1号建物出土遺物141·142

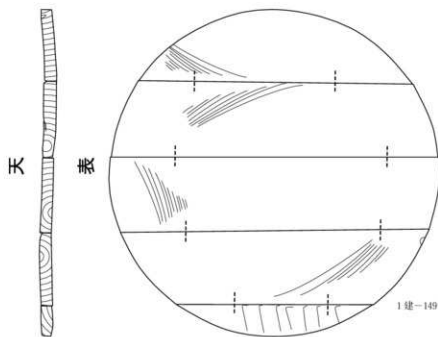
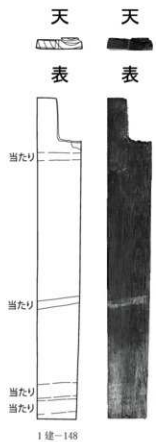
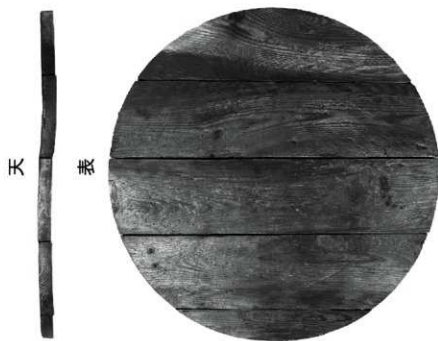
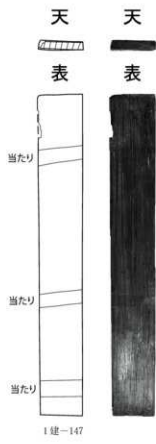


第227图 I区1号建物出土遗物143·144



0 1:10 25cm

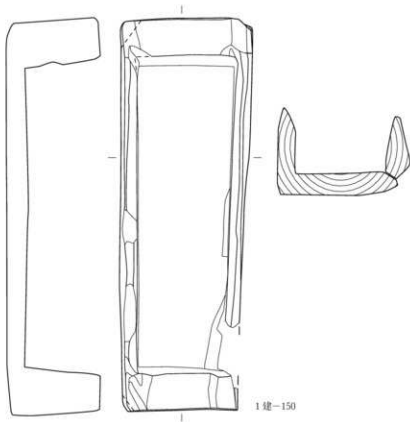
第228図 I区1号建物出土遺物145・146



第229図 I区1号建物出土遺物147～149

0 1:10 25cm

表

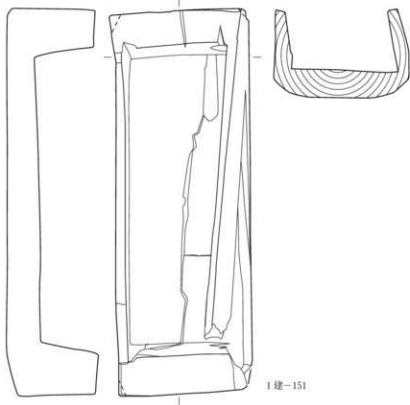


1建-150

表



表



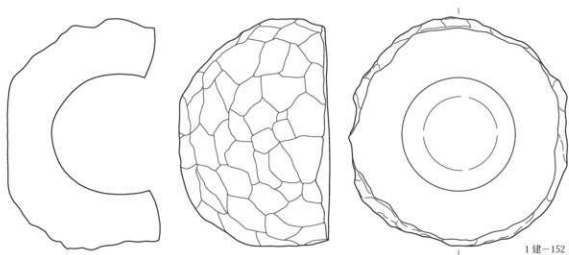
1建-151

表

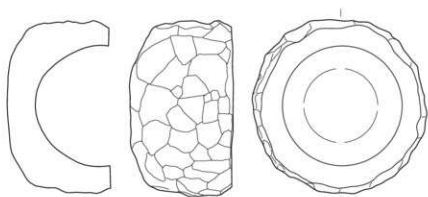


第230图 Ⅰ区1号建物出土遗物150-151

0 1:10 25cm



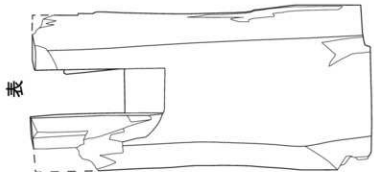
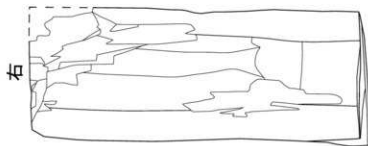
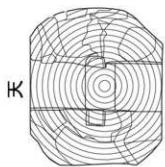
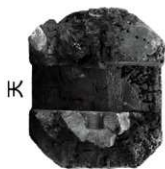
1 建-152



1 建-153

第231图 I区1号建物出土遺物152·153

0 1:12 24cm



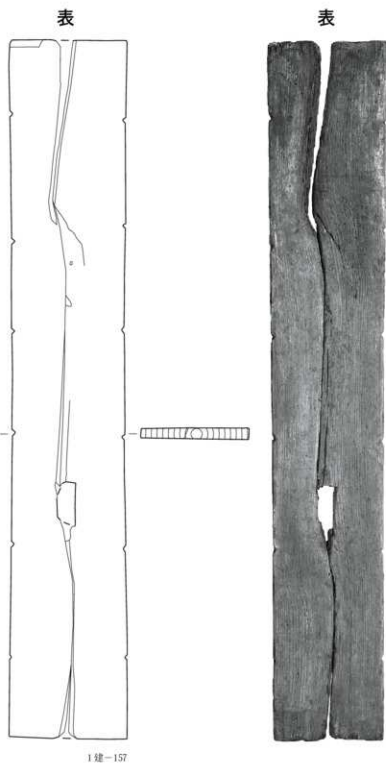
1建-154

0 1:10 25cm

第232图 I区1号建物出土遗物154



第233图 I区1号建物出土遺物155・156

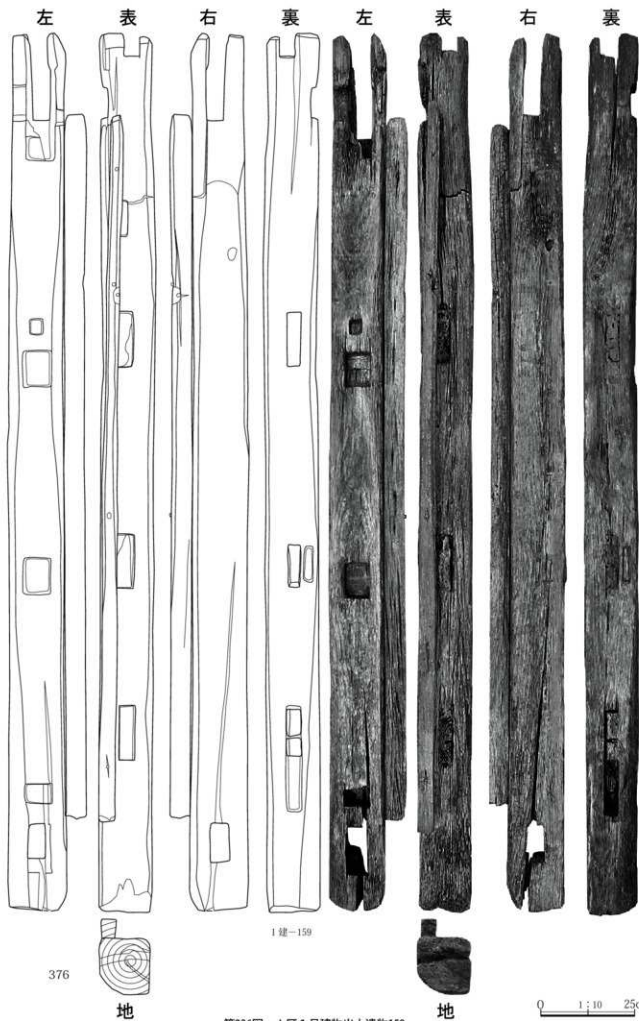


0 1:10 25cm

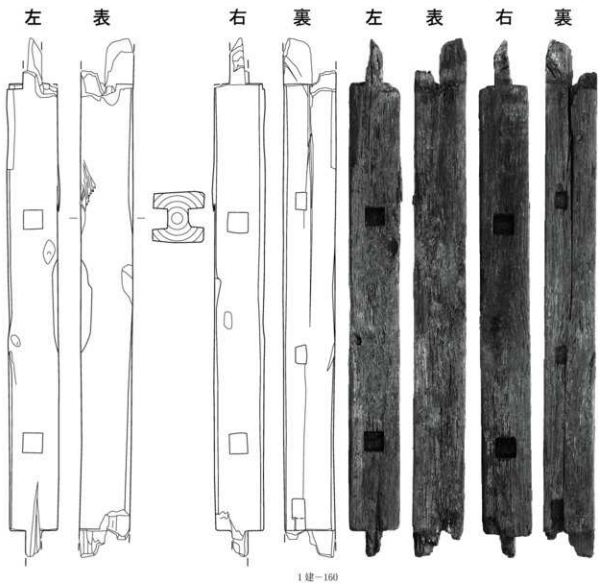
第234图 I区1号建物出土遗物157



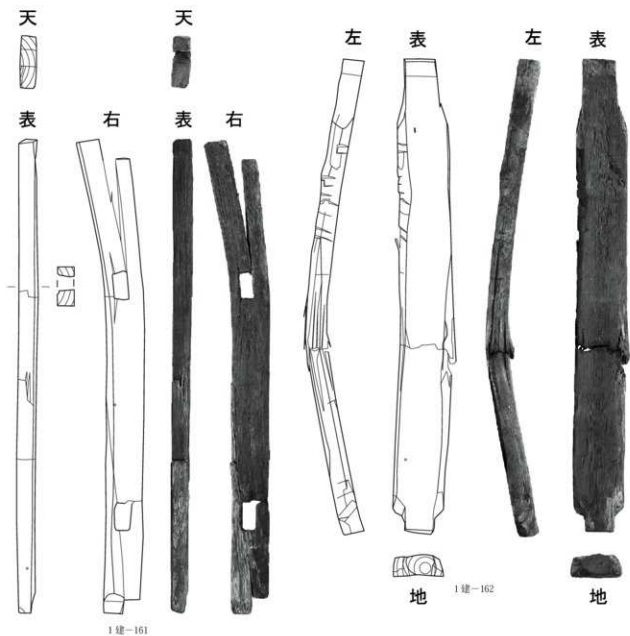
第235图 I 区1号建物出土遺物158



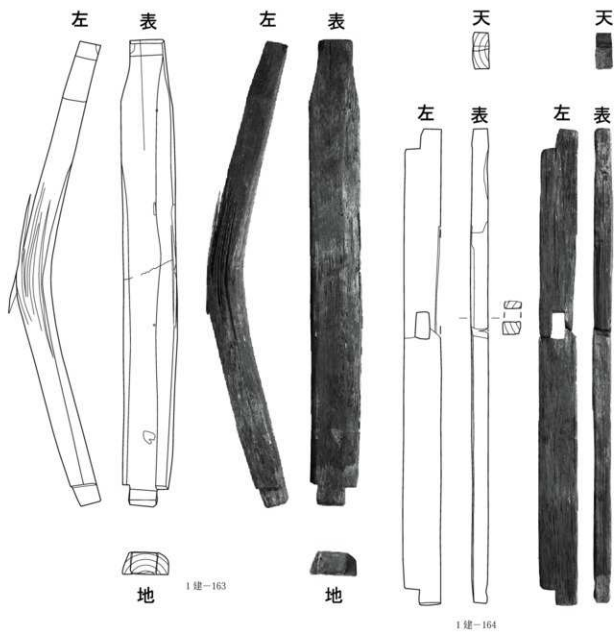
第236图 Ⅰ区1号建物出土遗物159



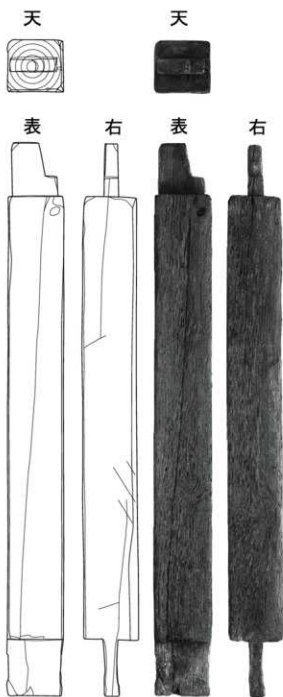
第237图 I区1号建物出土遗物160



第238图 I区1号建物出土遺物161·162



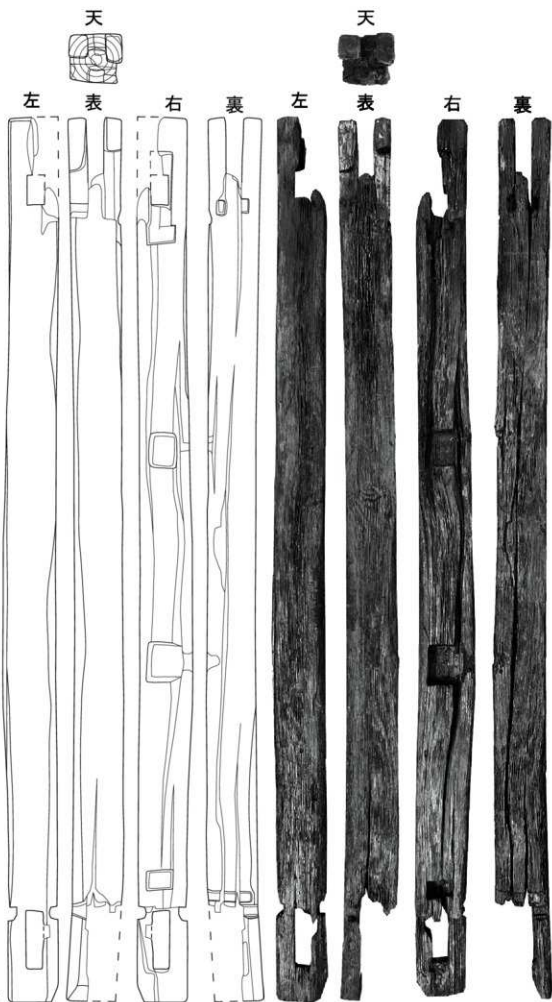
第239图 I区1号建物出土遗物163·164



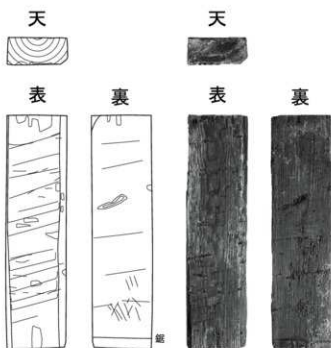
1建-165

0 1:10 25cm

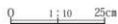
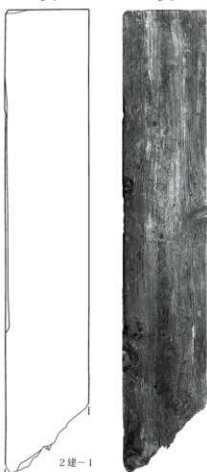
第240图 Ⅰ区1号建物出土遗物165

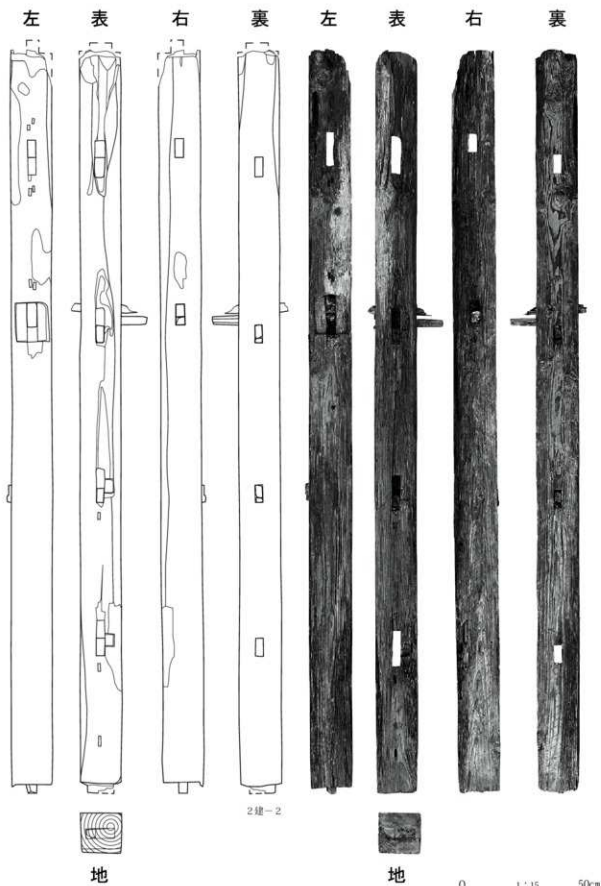


第241图 1区1号建物出土遺物166

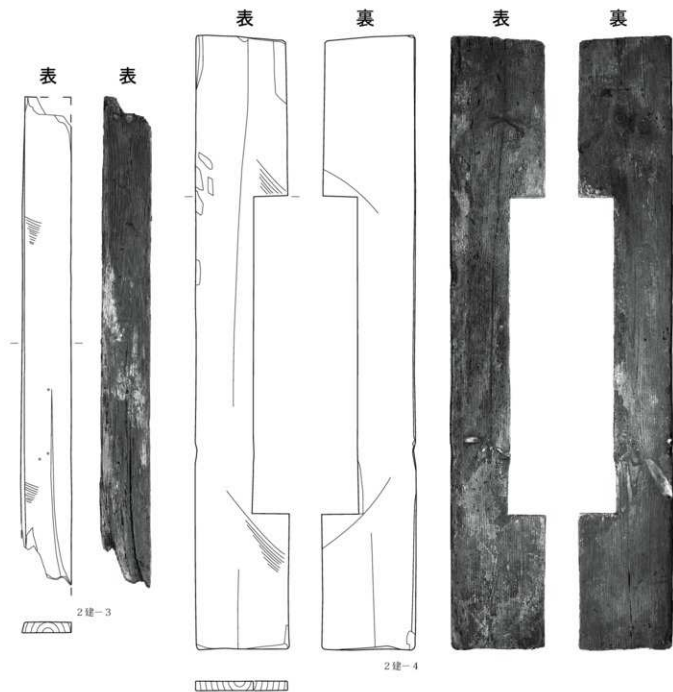


1建-167



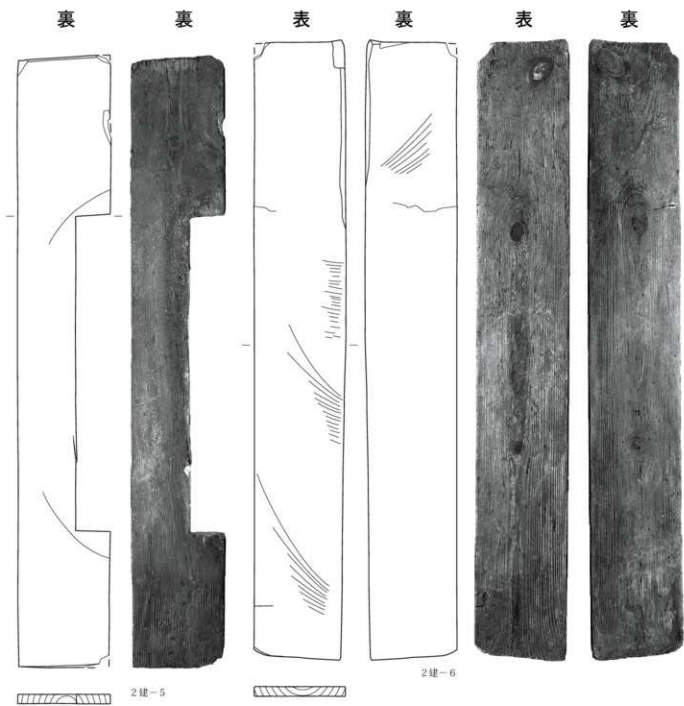


第243图 1区2号建物出土遗物2

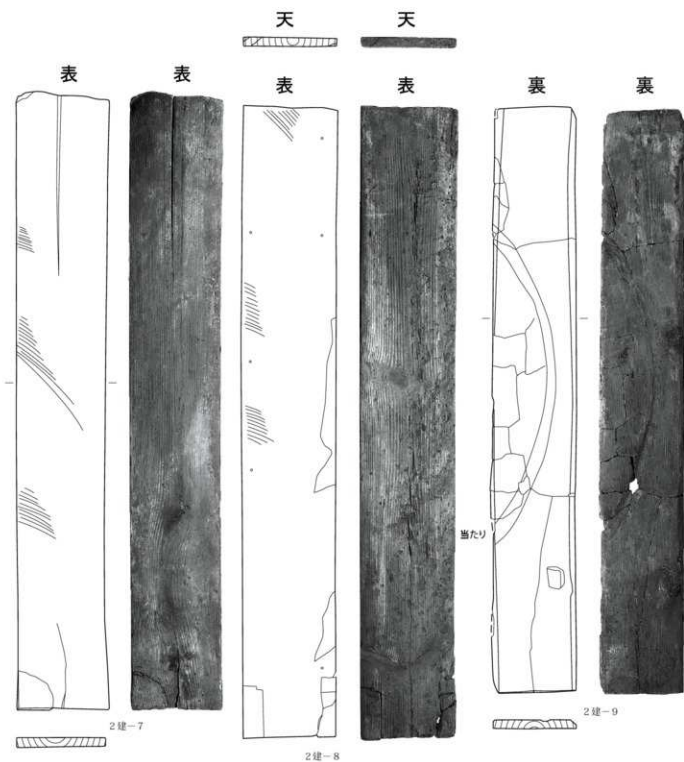


0 1:10 25cm

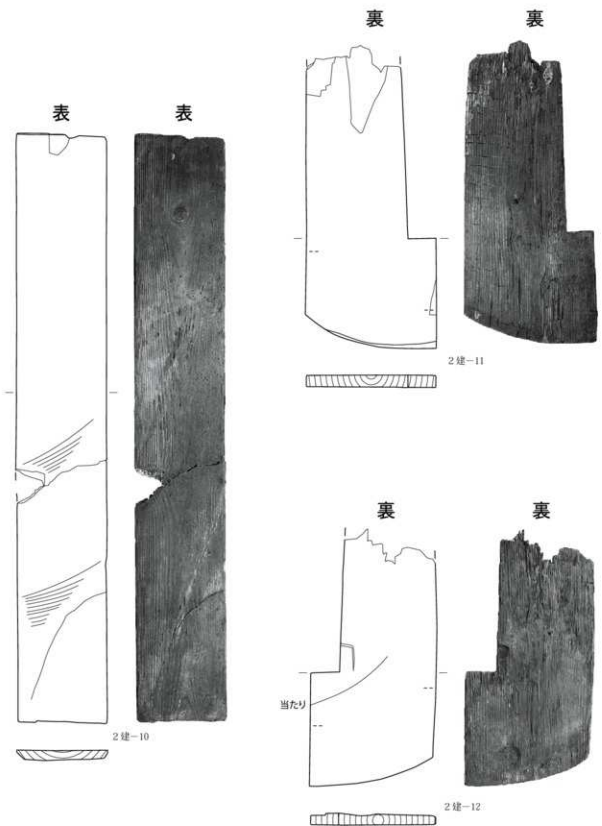
第244图 I区2号建物出土遗物3·4



第245图 I区2号建物出土遗物5·6



第246図 1区2号建物出土遺物7~9



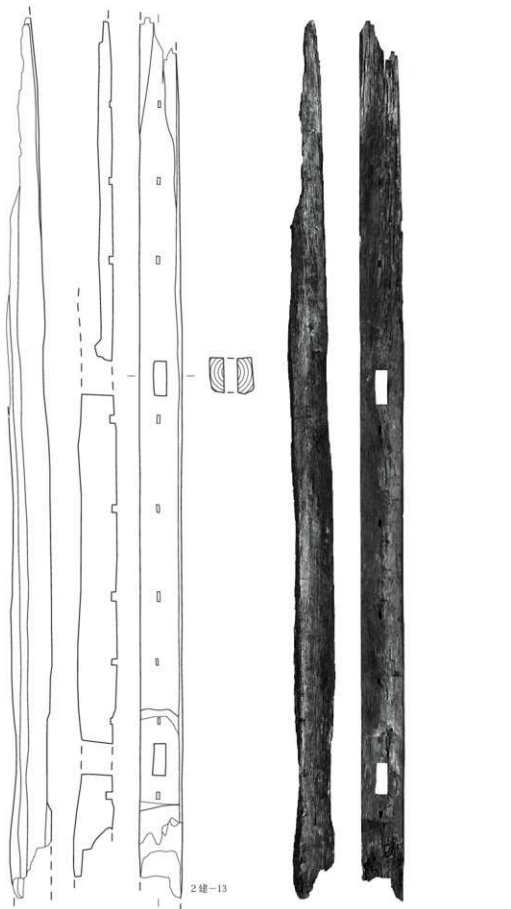
第247図 I区2号建物出土遺物10～12

左

表

左

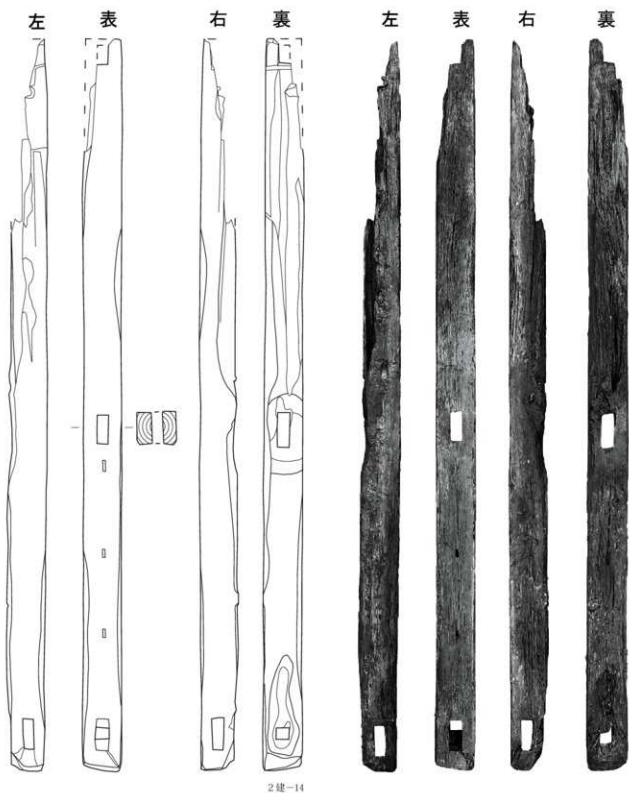
表



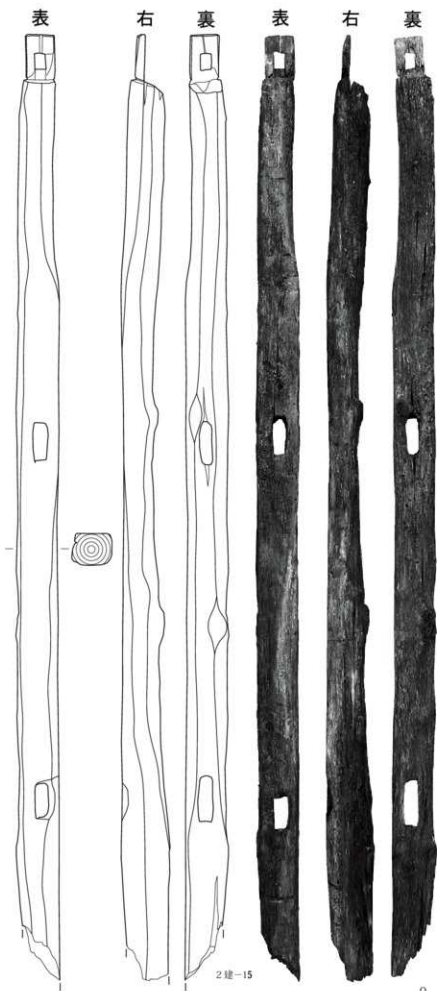
2建-13

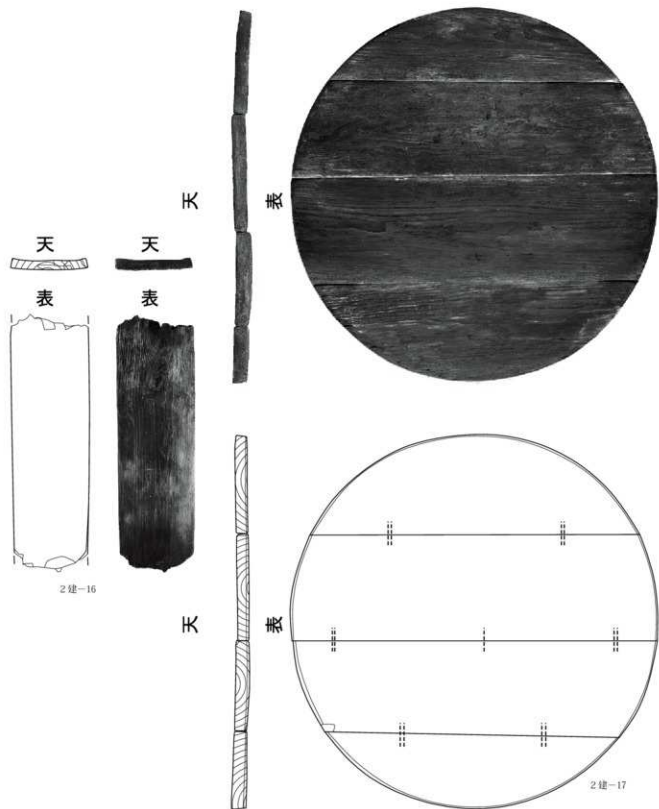
第248图 Ⅰ区2号建物出土物13

0 1:15 50cm

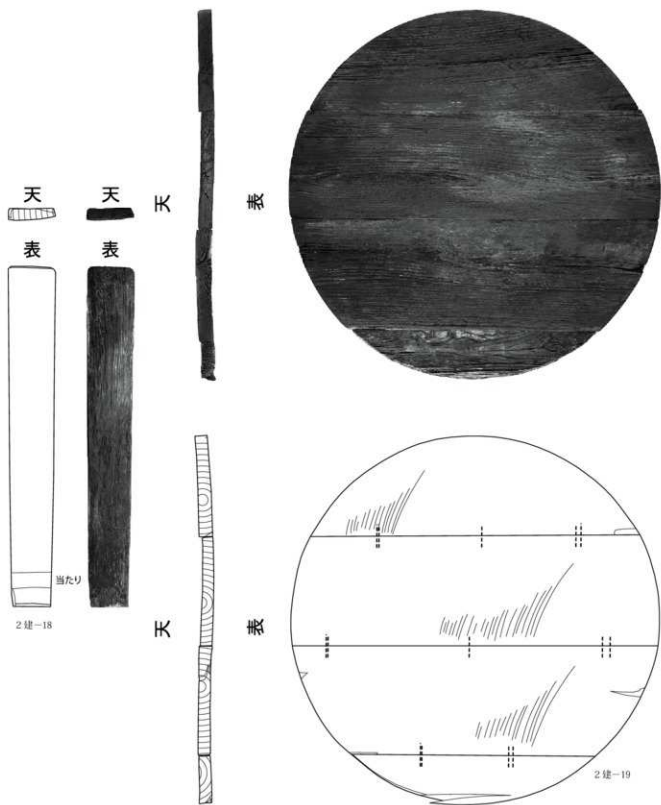


第249图 1区2号建物出土遗物14





第251图 I区2号建物出土遗物16·17



第252図 I区2号建物出土遺物18・19

天
表



2建-20

天
表



当たり

天



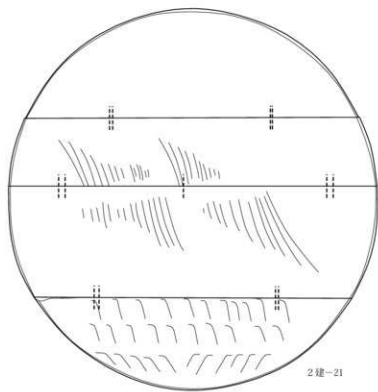
表



天



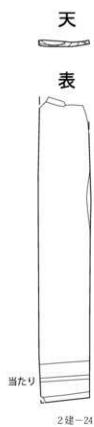
表



2建-21

0 1:10 25cm

第253図 I区2号建物出土遺物20・21



天



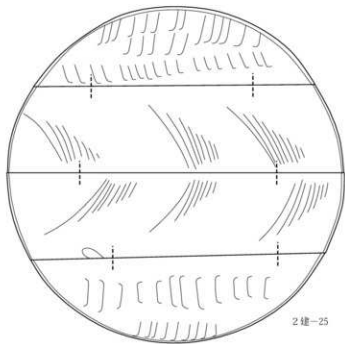
表



天

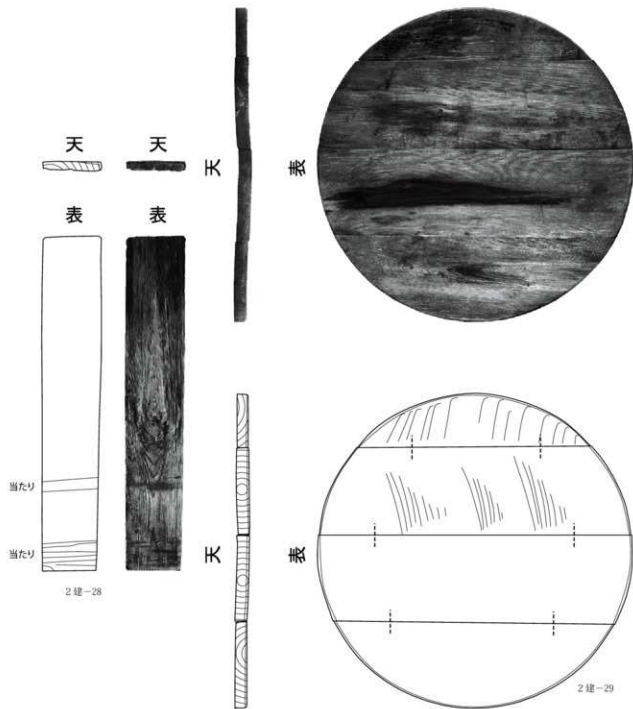


表



0 1:10 25cm

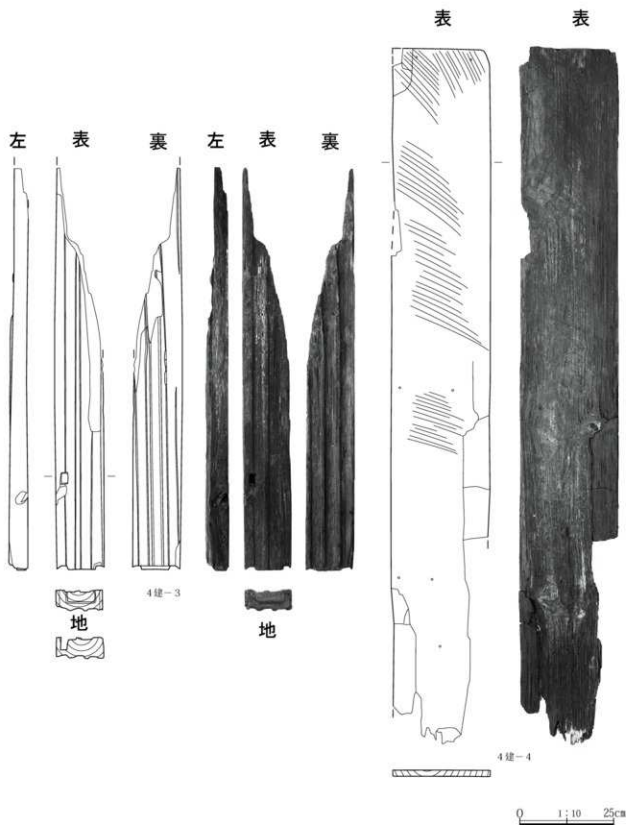
第255図 I区2号建物出土遺物24・25



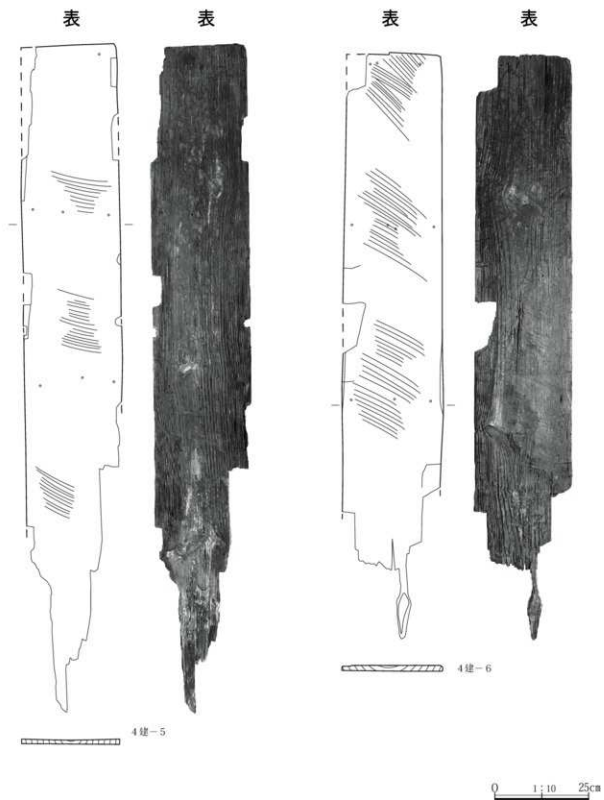
第257图 I区2号建物出土遺物28・29



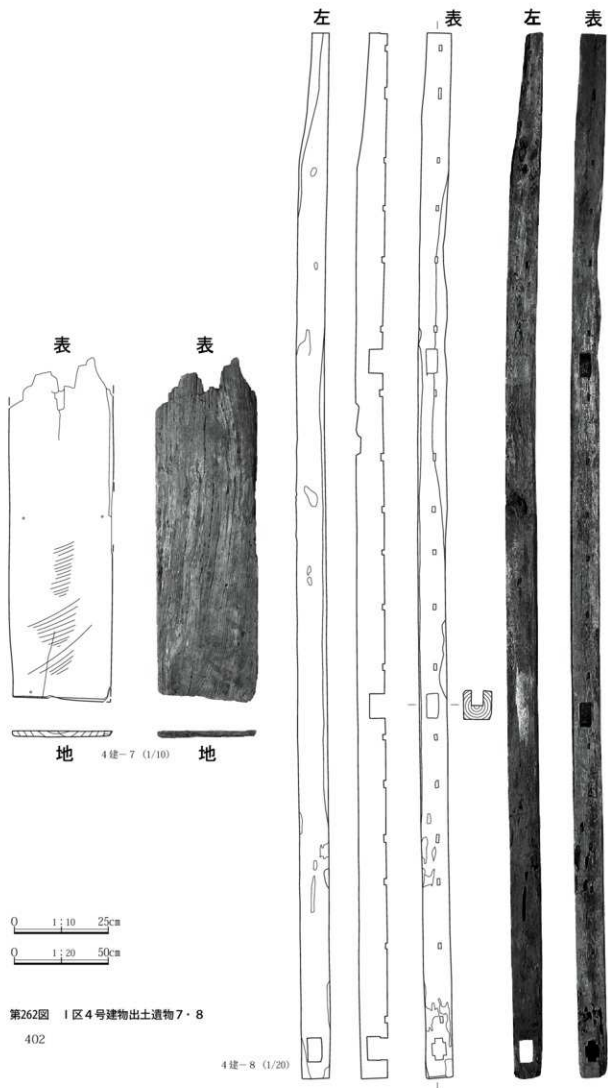
第259图 I区4号建物出土遗物1·2



第260图 I区4号建物出土遗物3·4



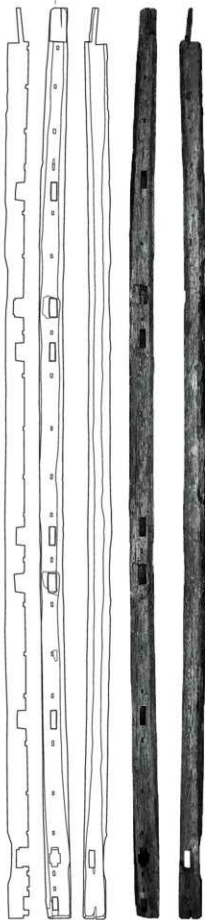
第261图 I区4号建物出土遗物5·6



第262图 1区4号建物出土遺物7・8

表 右 表 右

右 (1/15)



0 1:25 50cm



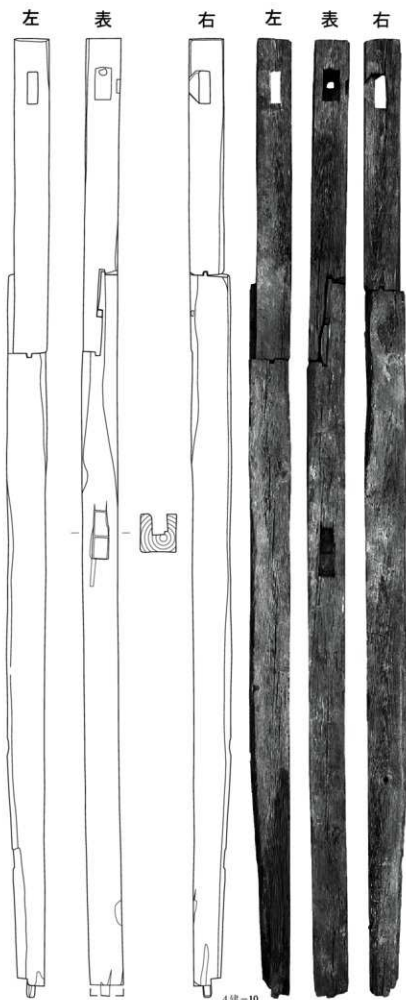
4建-9



地

地

403



第264图 1区4号建物出土遗物10

左 表 裏 左 表 裏



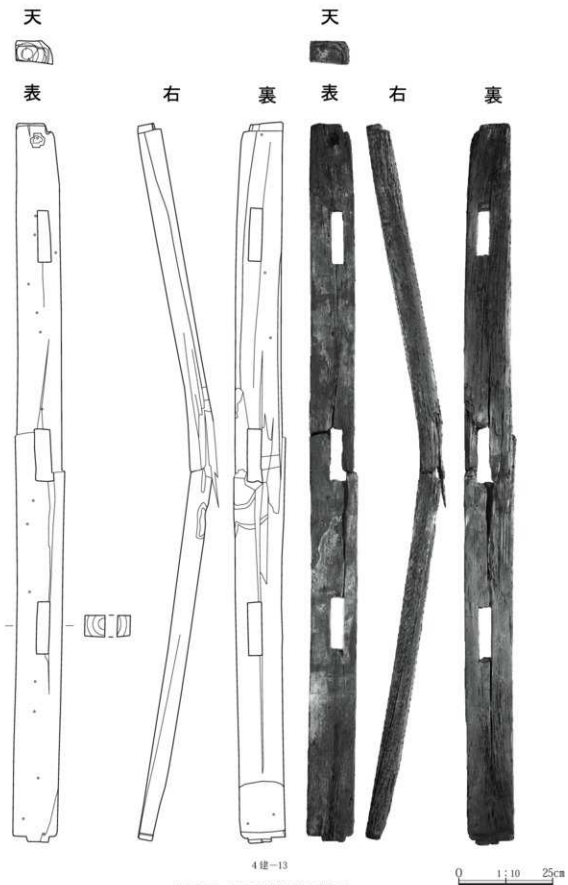
4建-11

第265图 1区4号建物出土遗物11

0 1:10 25cm



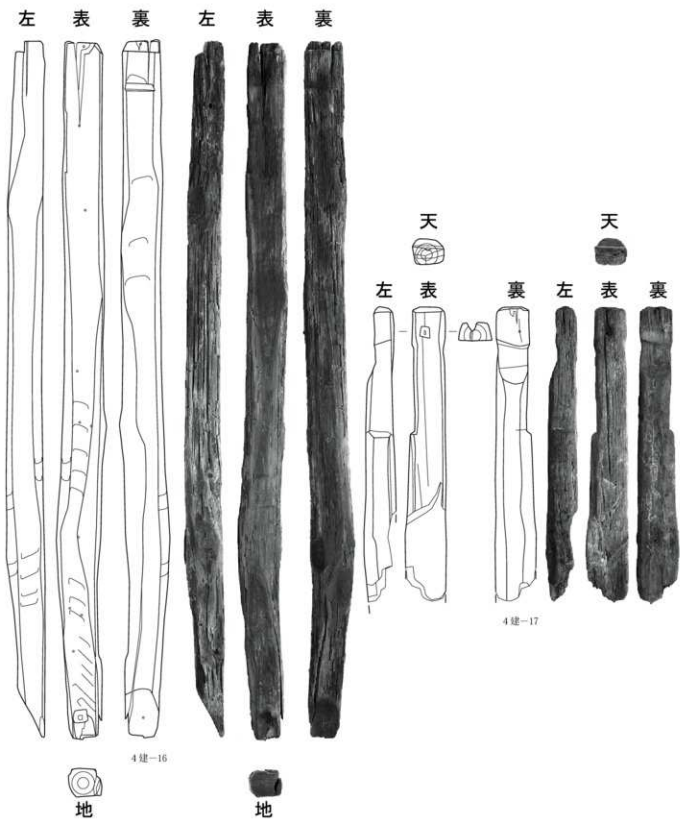
第266图 I区4号建物出土遗物12



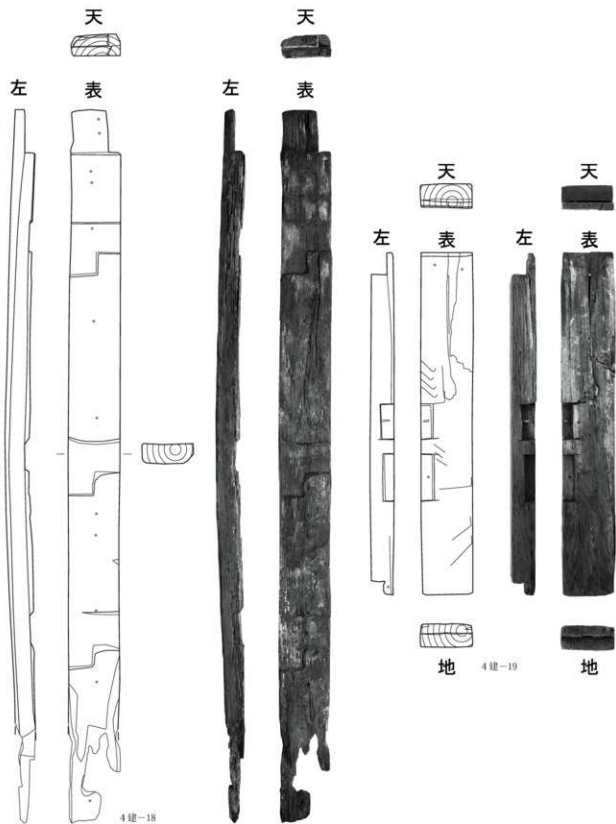
第267图 I区4号建物出土遗物13



第268图 I区4号建物出土遗物14·15

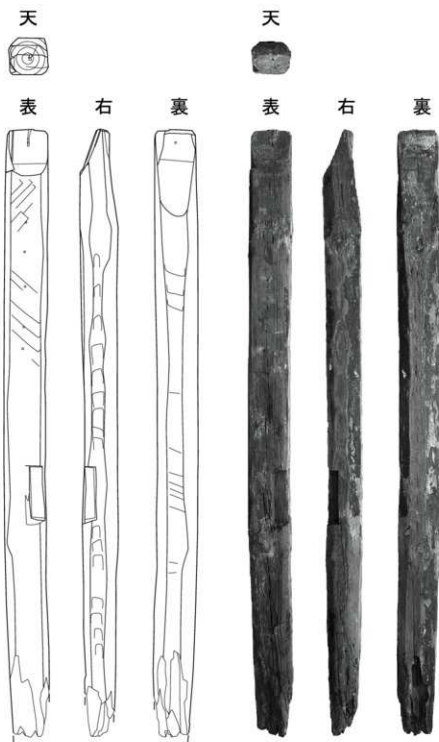


第269图 I区4号建物出土遗物16·17



0 1:10 25cm

第270图 I区4号建物出土遗物18·19



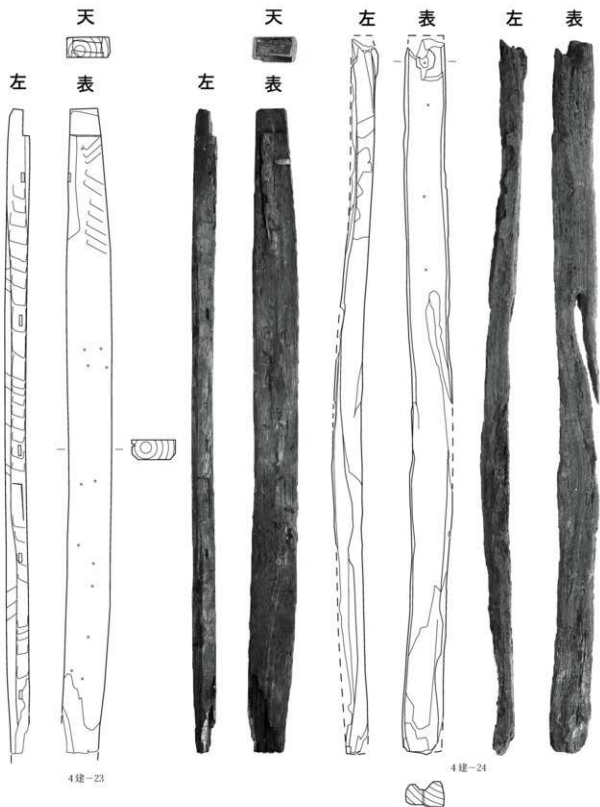
4建-20

0 1:10 25cm

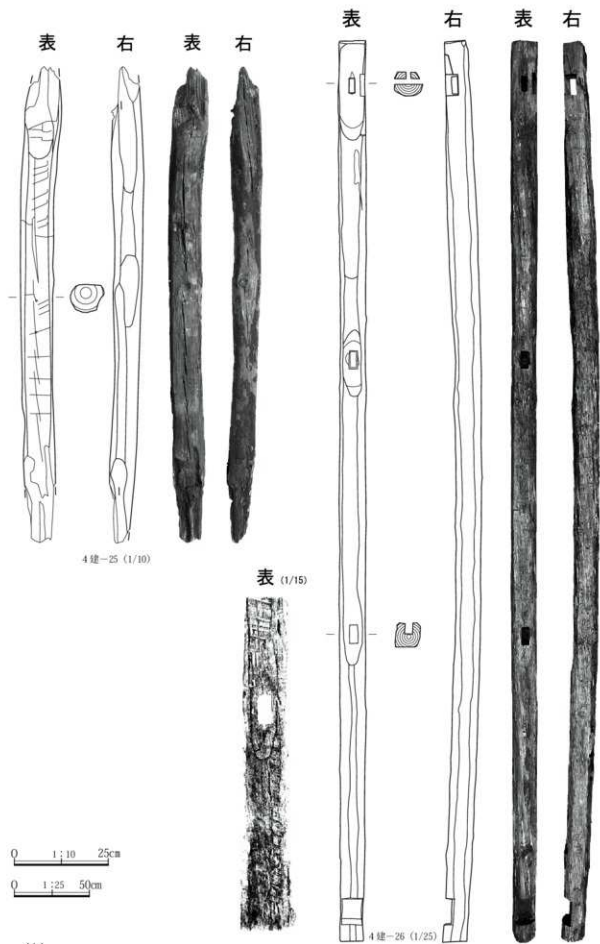
第271图 I区4号建物出土遗物20



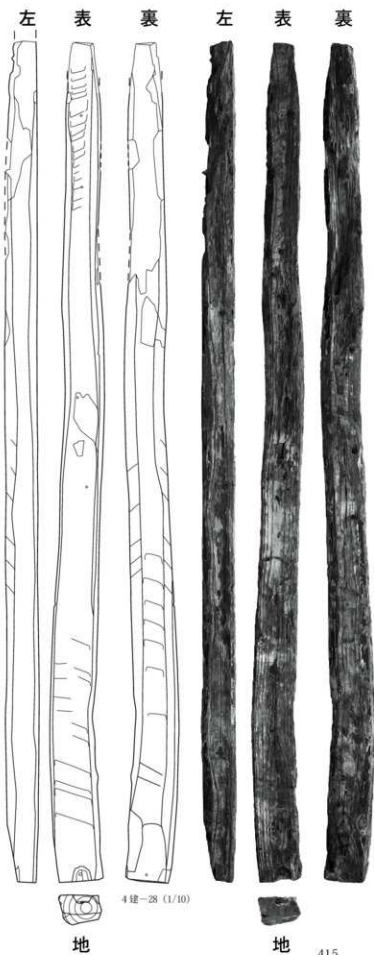
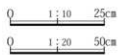
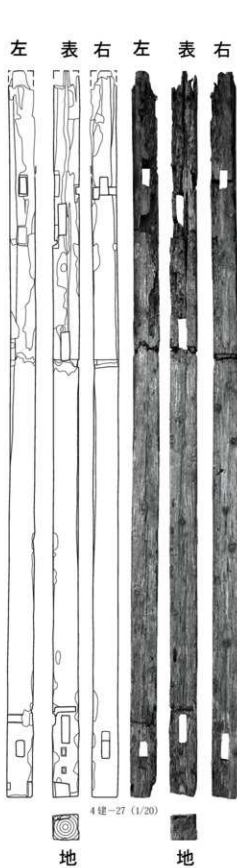
第272图 I区4号建物出土遗物21·22



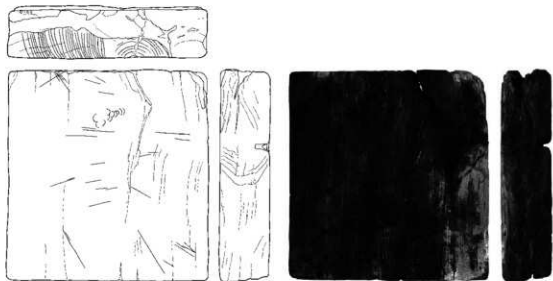
第273图 I区4号建物出土遺物23·24



第274图 I区4号建物出土遗物25·26

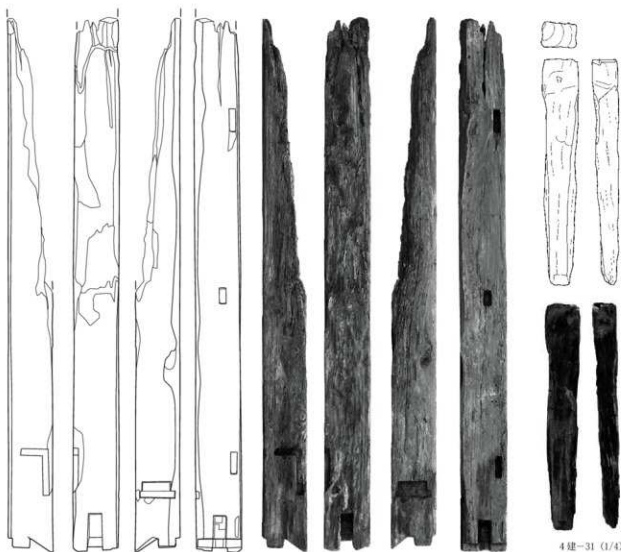


第275图 I区4号建物出土遗物27·28



4建-29 (1/6)

左 表 右 裏 左 表 右 裏



4建-30 (1/10)

4建-31 (1/4)



416

地

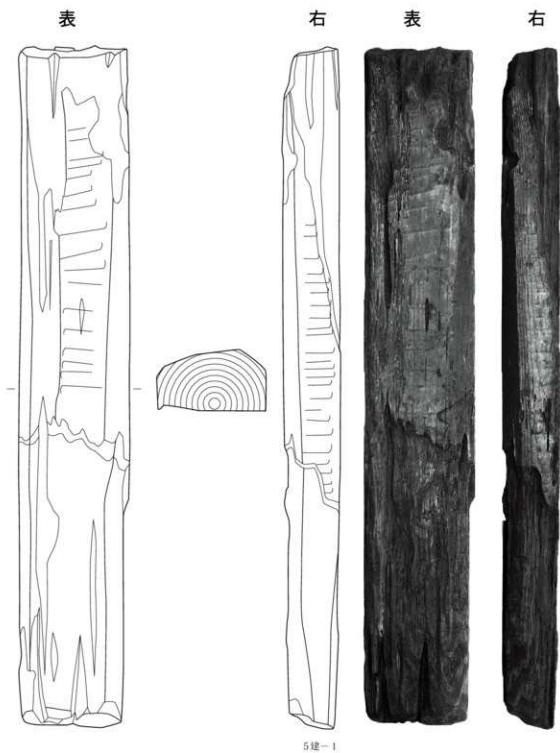


地

0 1:4 8cm

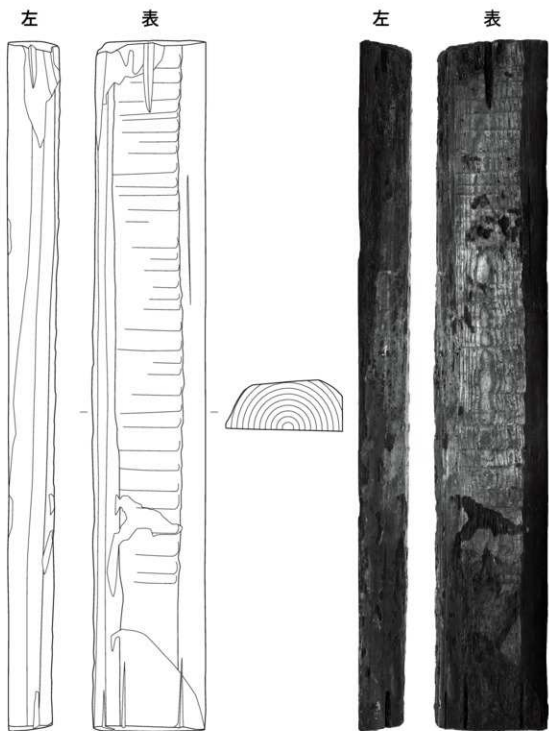
0 1:6 12cm

0 1:10 25cm



0 1:10 25cm

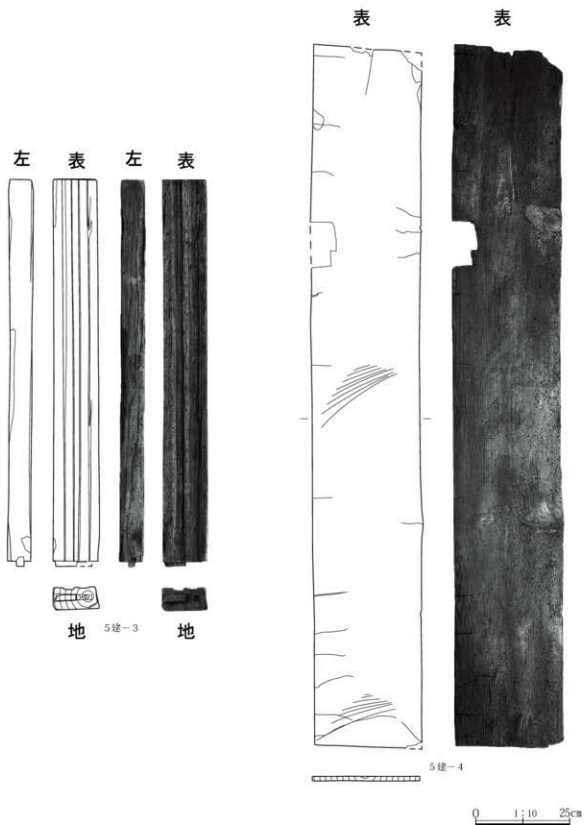
第277图 I区5号建物出土遗物1



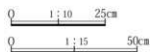
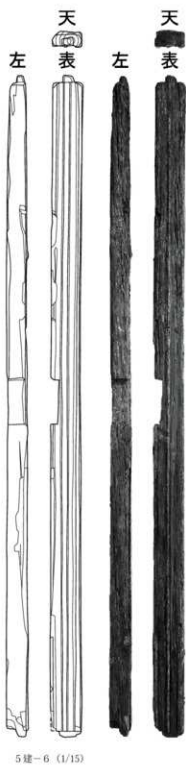
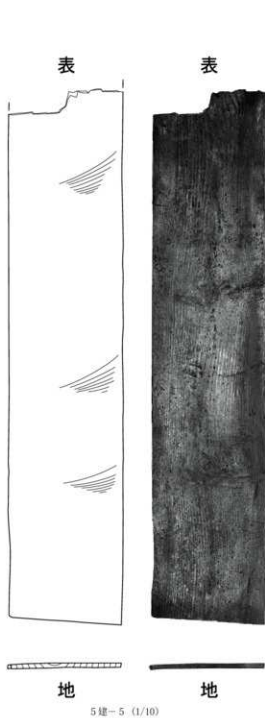
5建-2

0 1:10 25cm

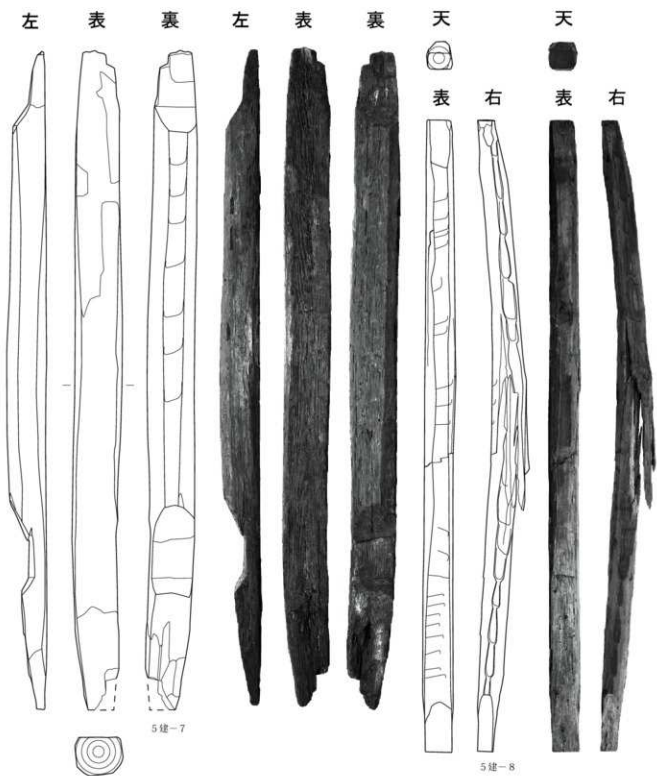
第278图 I区5号建物出土遗物2



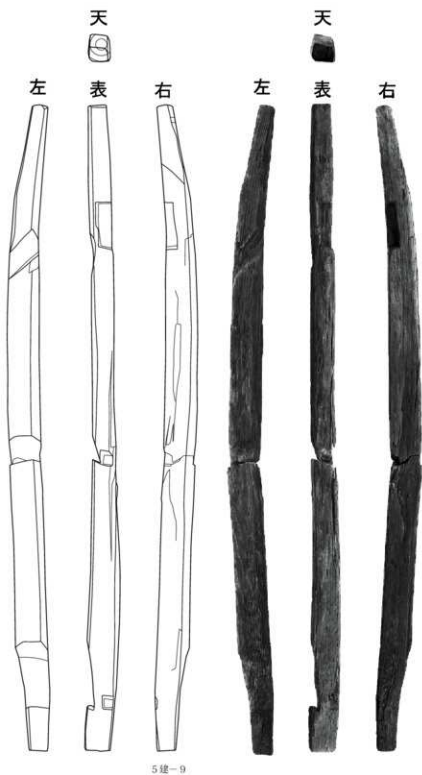
第279图 I区5号建物出土遗物3·4



第280图 I区5号建物出土遗物5·6

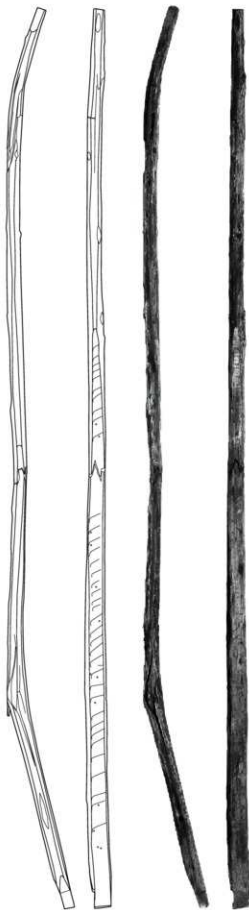


第281图 I区5号建物出土遗物7·8



第282图 I区5号建物出土遗物9

左 表 左 表



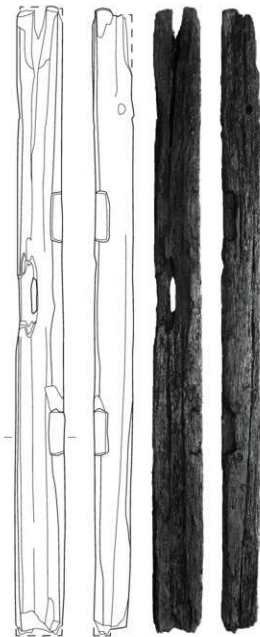
5建-10 (1/15)



地

地

表 右 表 右

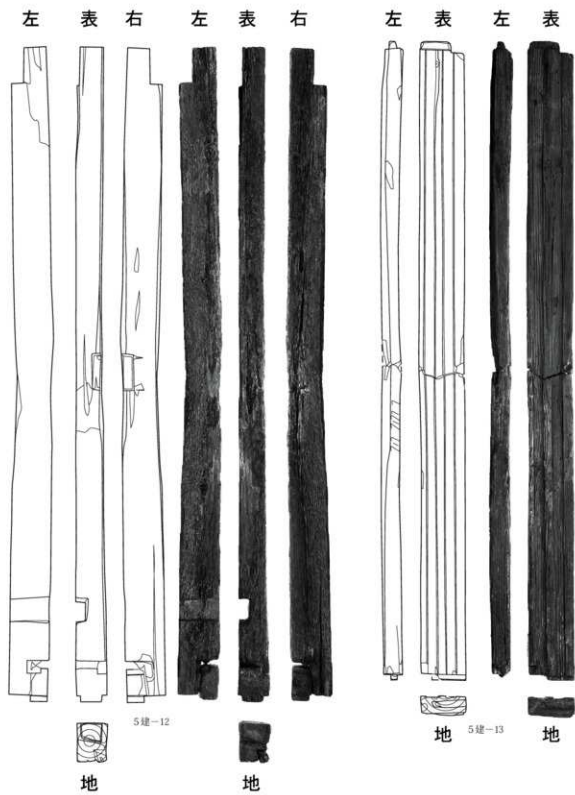


5建-11 (1/10)

0 1:10 25cm

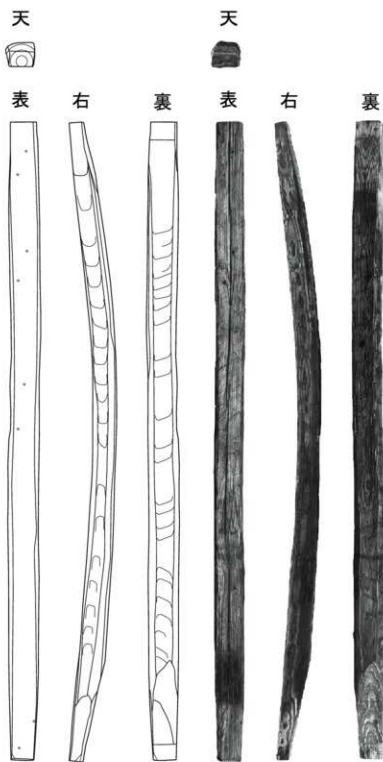
0 1:15 50cm

423



0 1:10 25cm

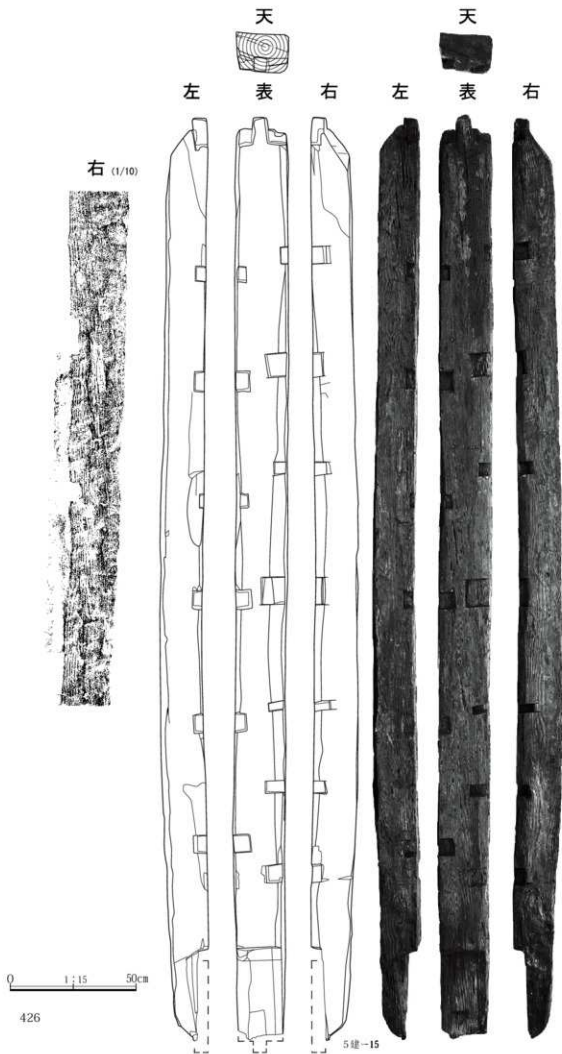
第284图 I区5号建物出土遺物12·13



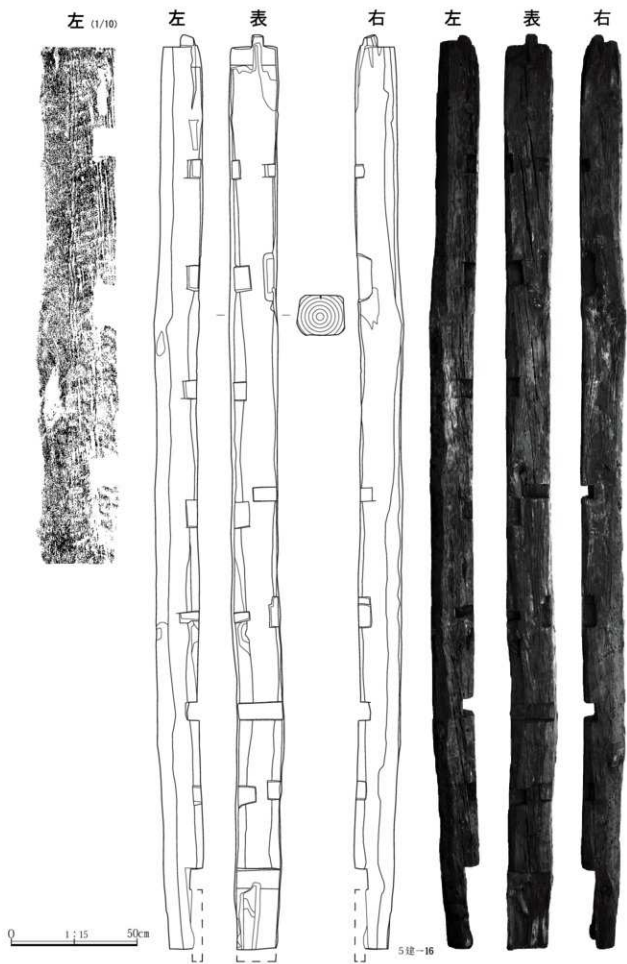
5建-14

0 1:10 25cm

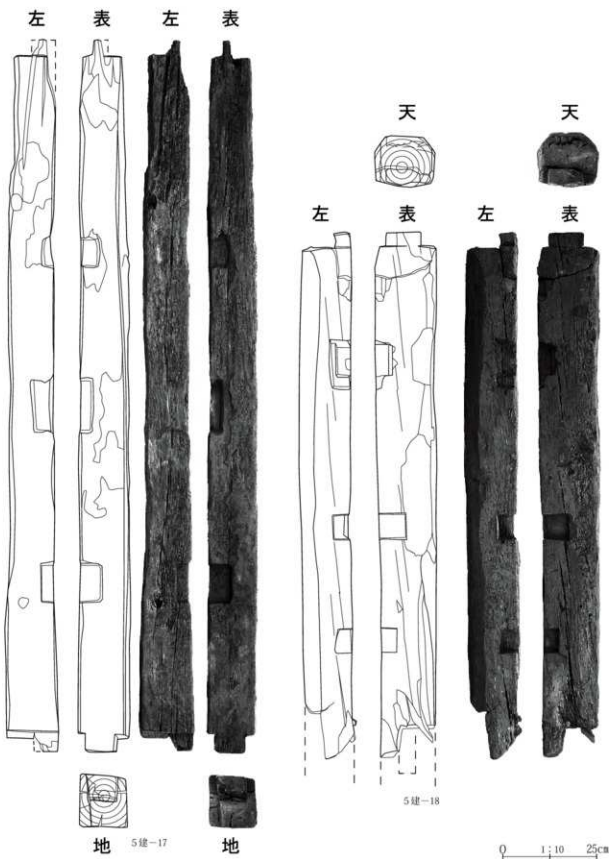
第285图 I区5号建物出土遗物14



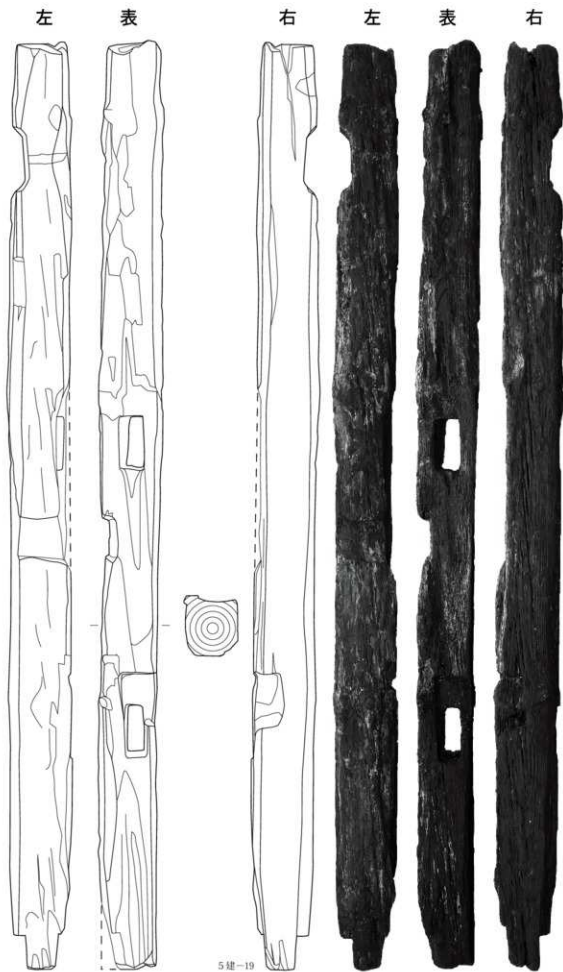
第286图 Ⅰ区5号建物出土遗物15



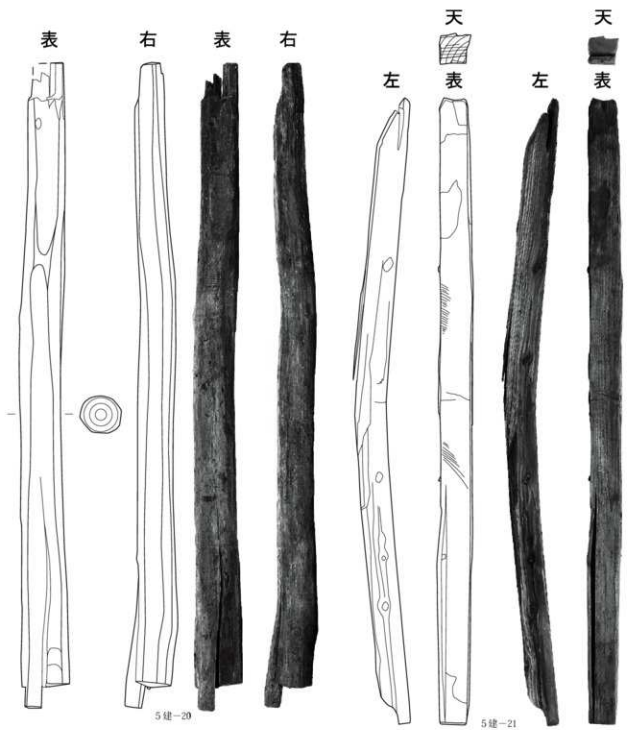
第287图 I区5号建物出土物16



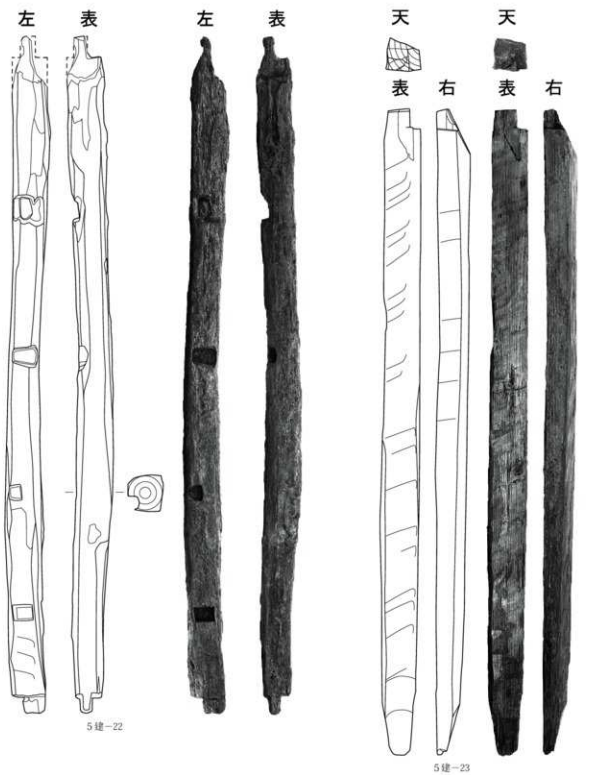
第288图 I区5号建物出土遗物17·18



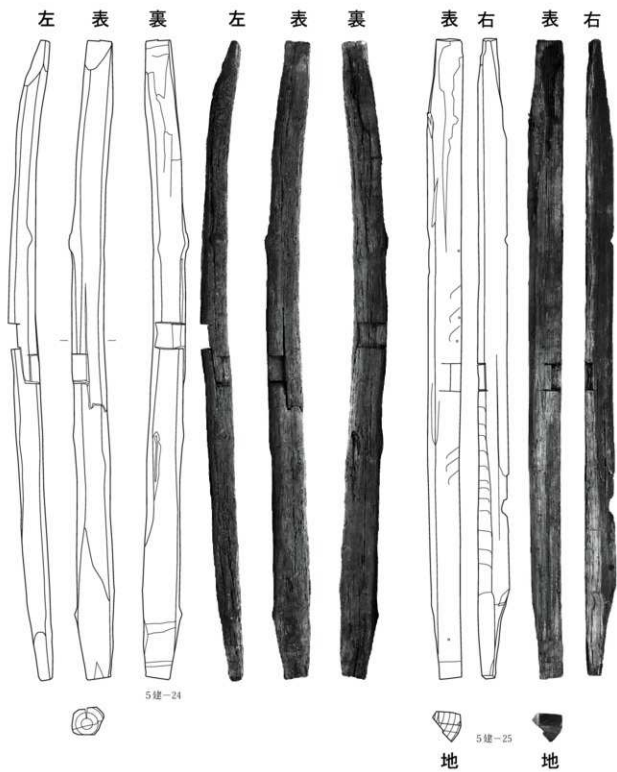
第289图 I区5号建物出土物19



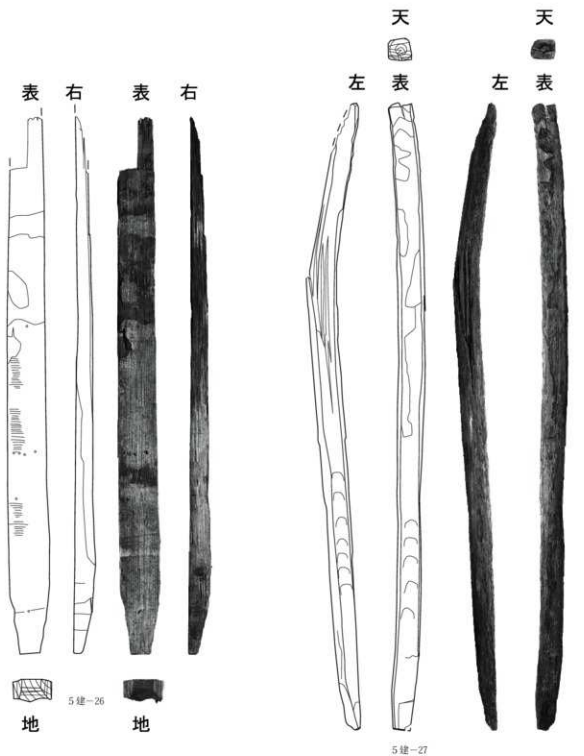
第290图 I区5号建物出土遗物20·21



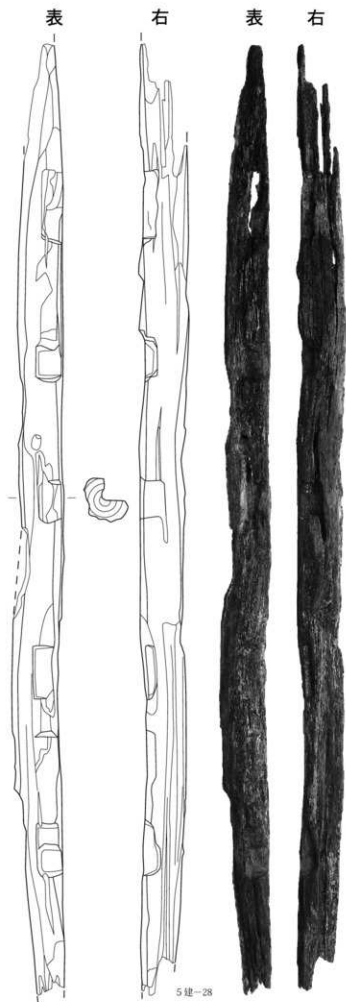
第291图 I区5号建物出土遗物22·23

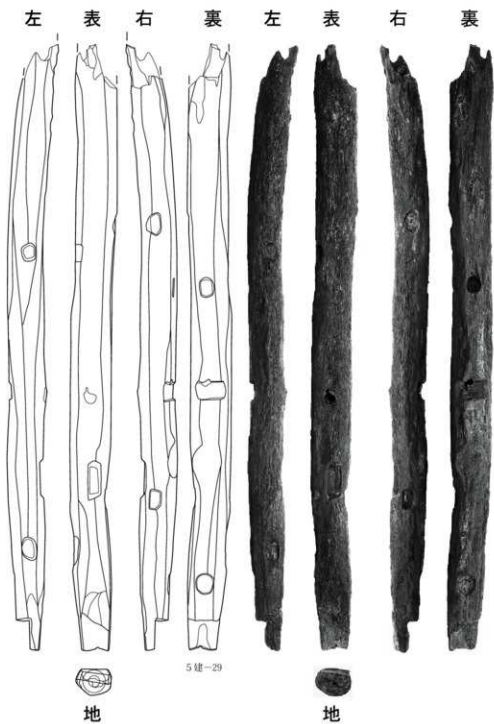


第292图 I区5号建物出土遺物24·25



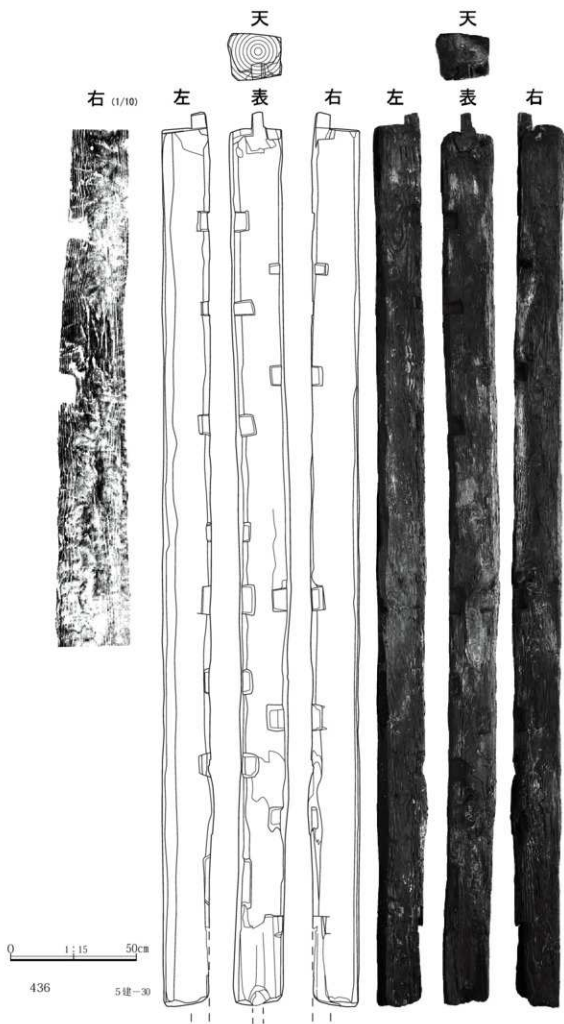
第293图 I区5号建物出土遗物26·27



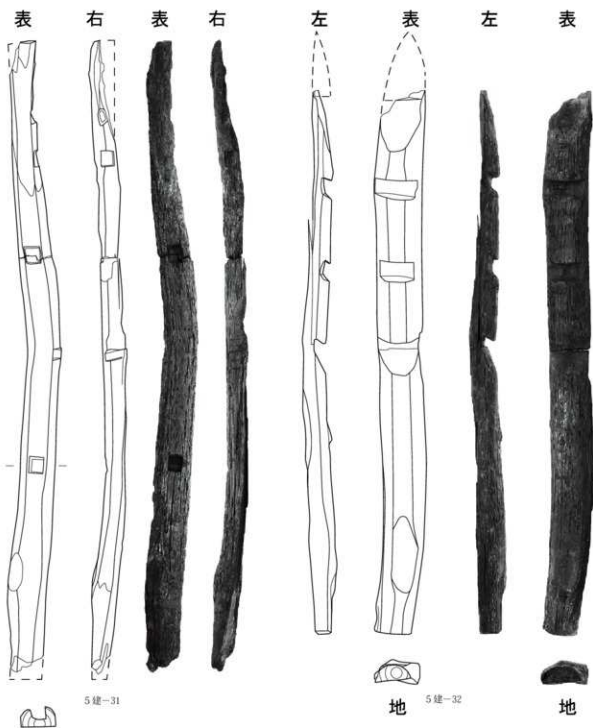


0 1:10 25cm

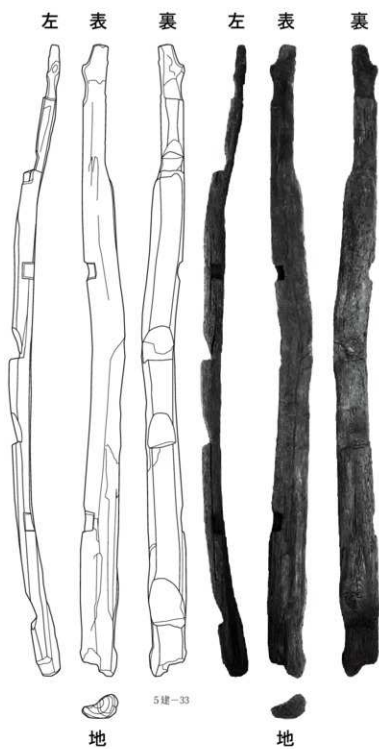
第295图 I区5号建物出土遗物29



第296图 I区5号建物出土遗物30

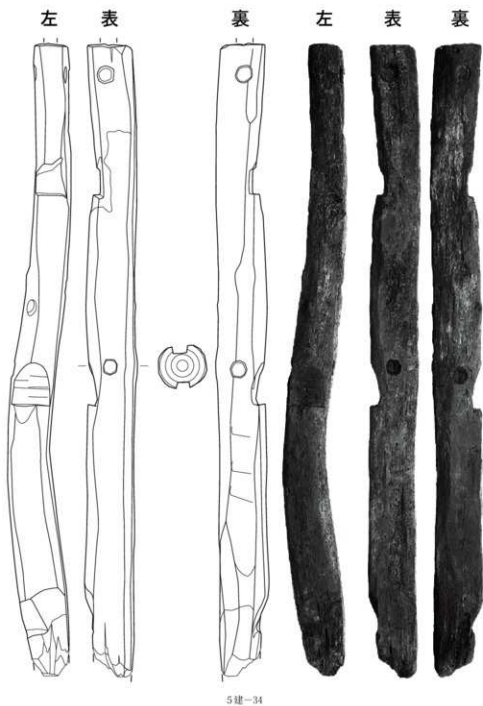


第297图 I区5号建物出土遗物31·32

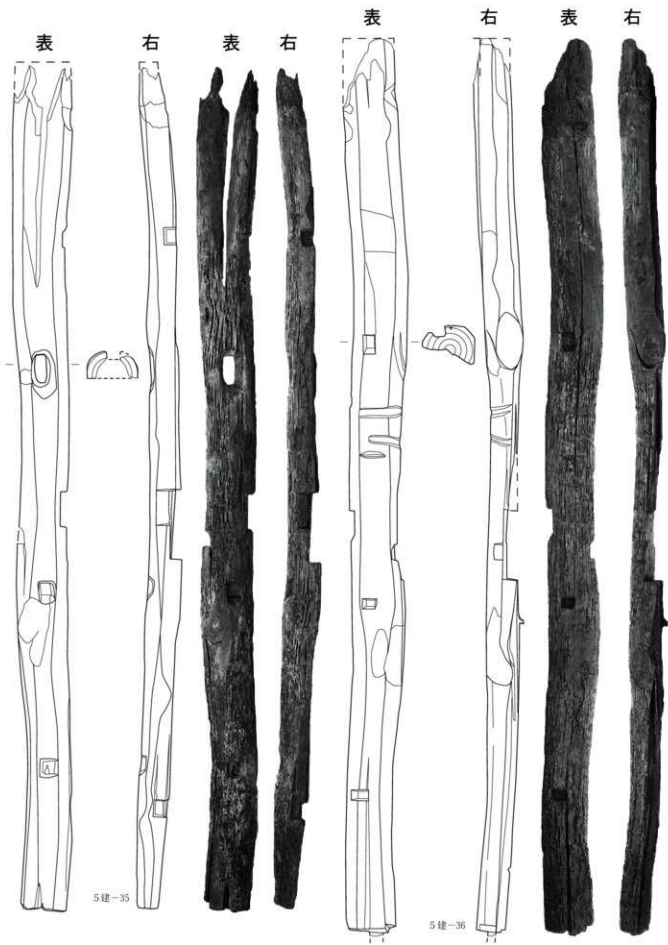


0 1:10 25cm

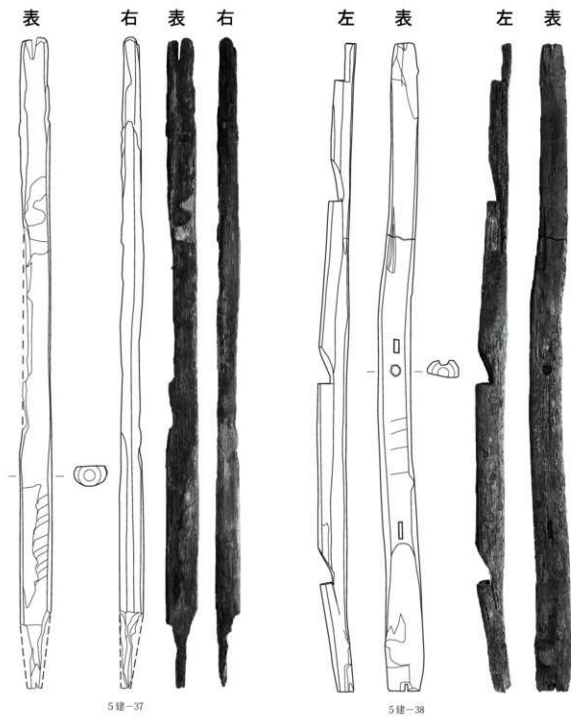
第298图 I区5号建物出土遗物33



第299图 I区5号建物出土遗物34

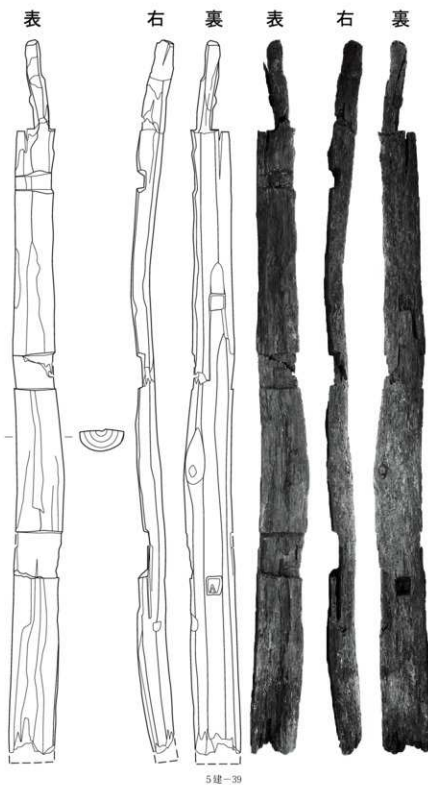


第300图 I区5号建物出土遗物35·36

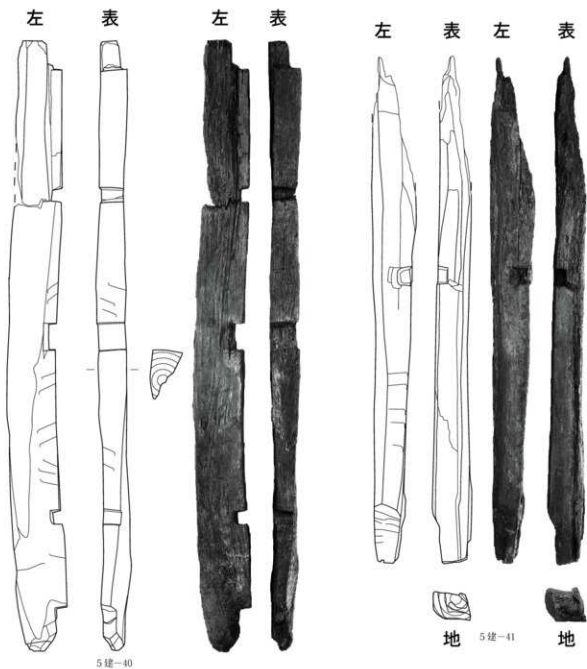


0 1:10 25cm

第301图 I区5号建物出土遗物37·38

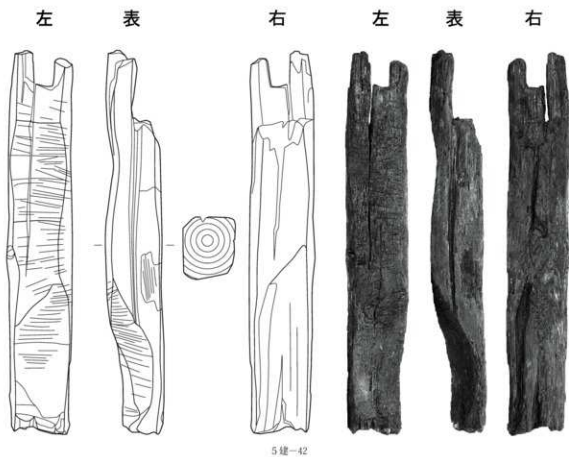


第302图 I区5号建物出土遗物39



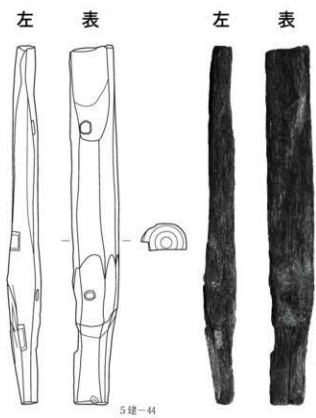
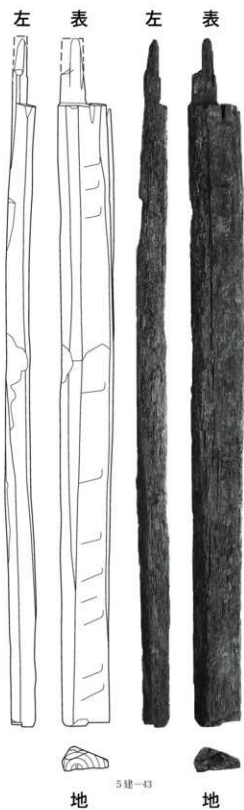
0 1:10 25cm

第303图 I区5号建物出土遗物40·41



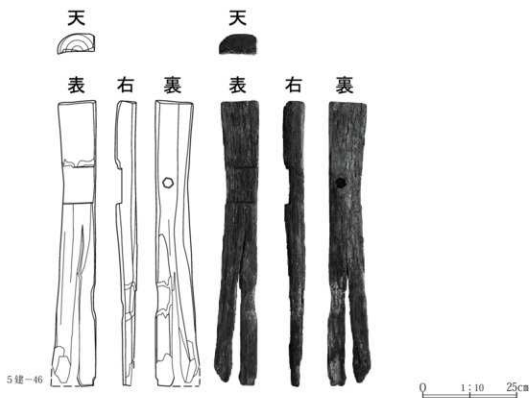
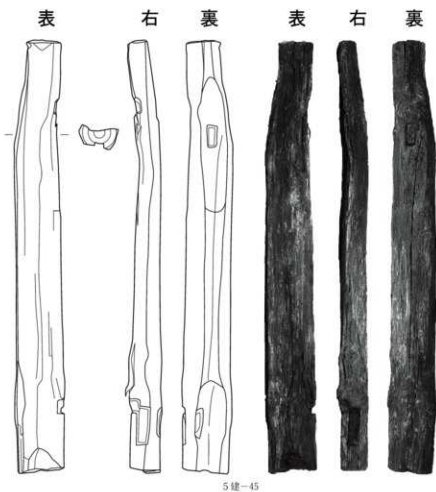
0 1:10 25cm

第304图 I区5号建物出土遗物42

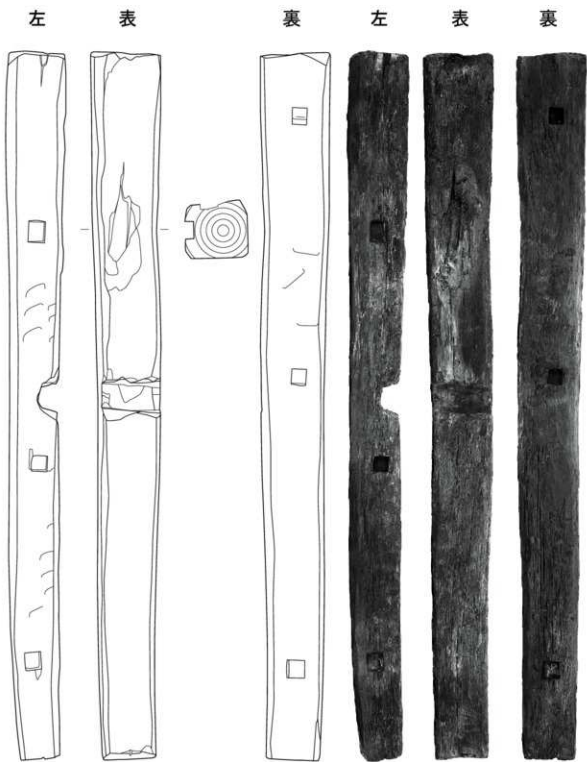


0 1:10 25cm

第305图 I区5号建物出土遺物43·44

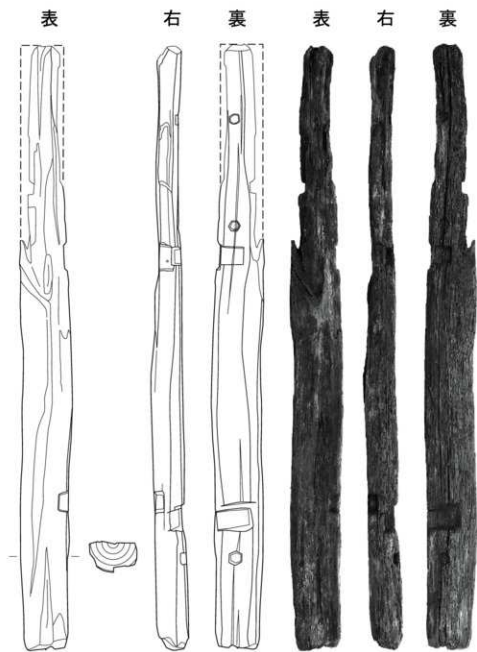


第306图 I区5号建物出土遺物45·46



0 1:10 25cm

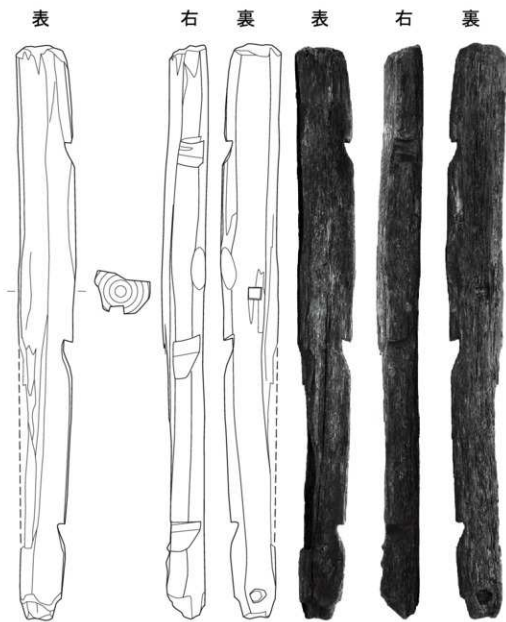
第307图 I区5号建物出土遗物47



5址-48

0 1:10 25cm

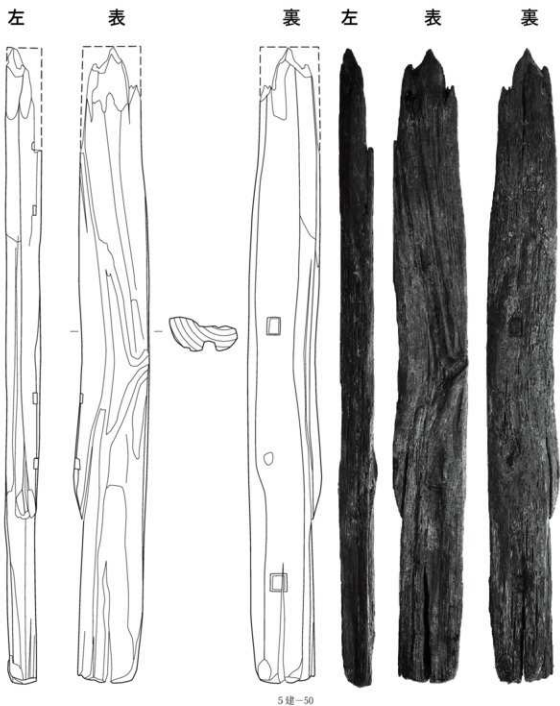
第308图 I区5号建物出土物48



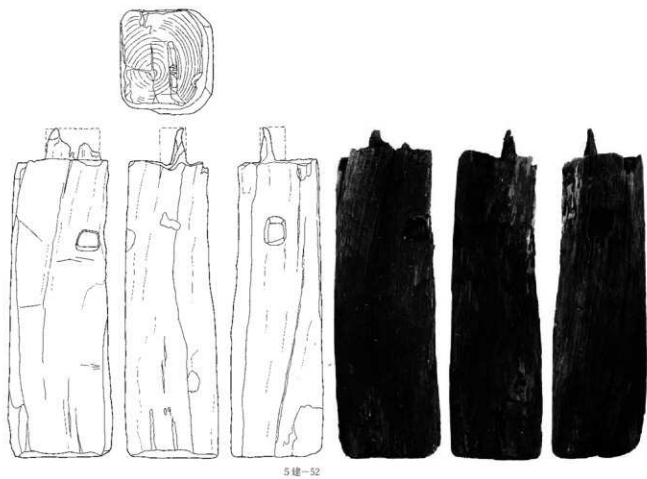
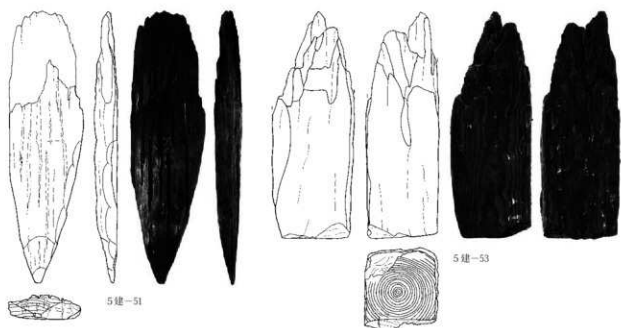
5建-49

0 1:10 25cm

第309图 I区5号建物出土遗物49

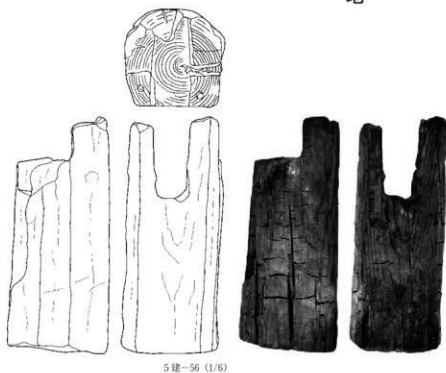
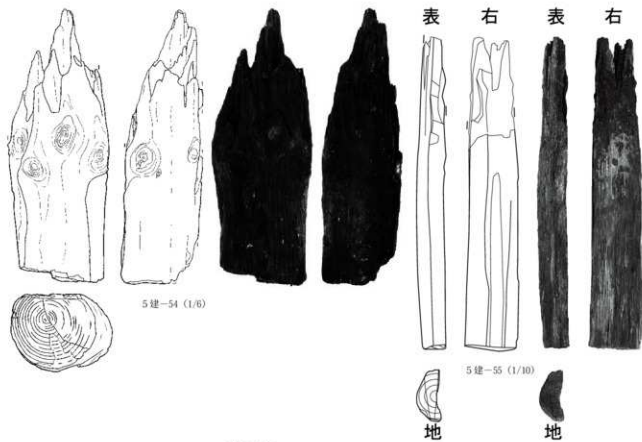


第310图 I区5号建物出土遗物50



0 1:6 12cm

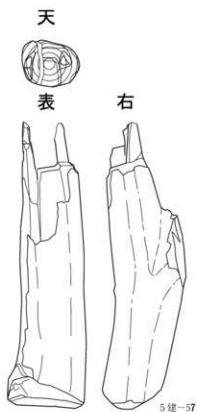
第311图 I区5号建物出土遗物51~53



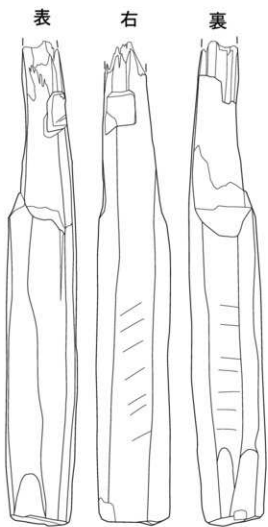
0 1:6 12cm

0 1:10 25cm

第312图 I区5号建物出土遺物54~56



5建-57



5建-58



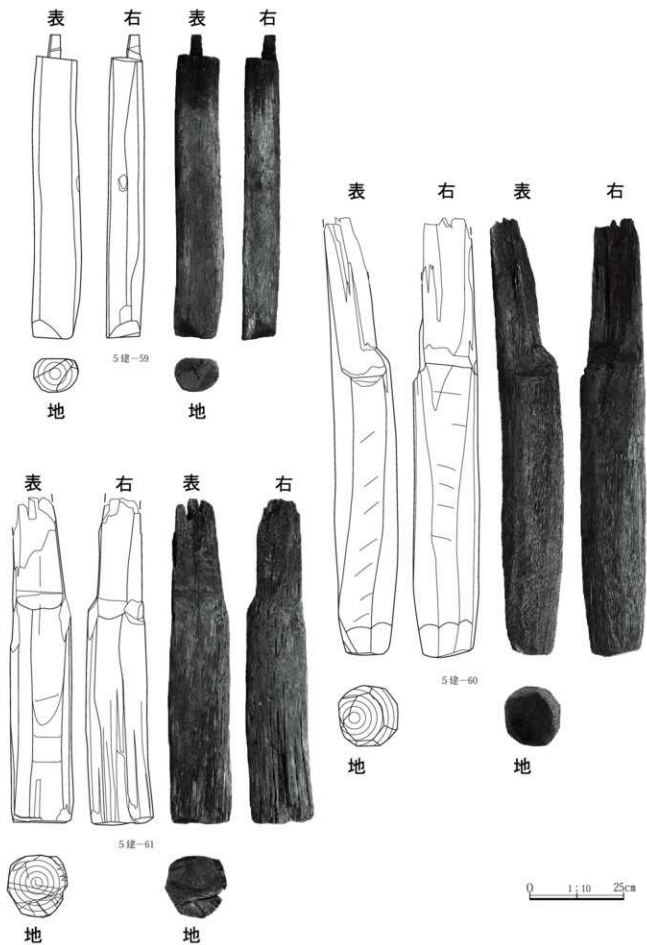
地



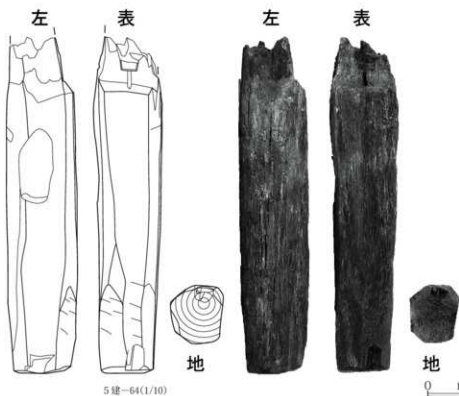
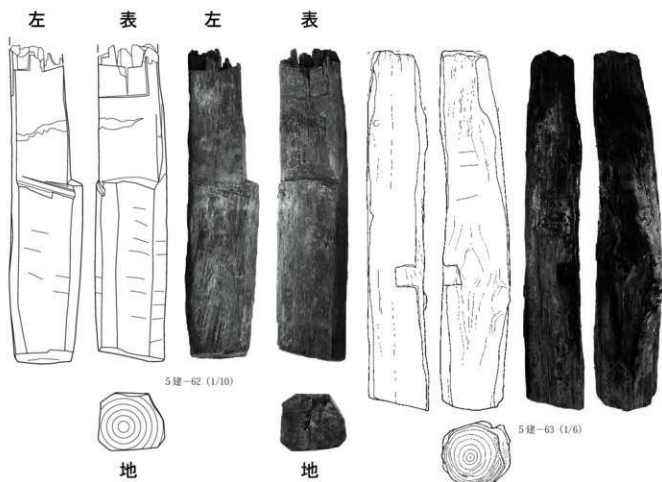
地

0 1:10 25cm

453



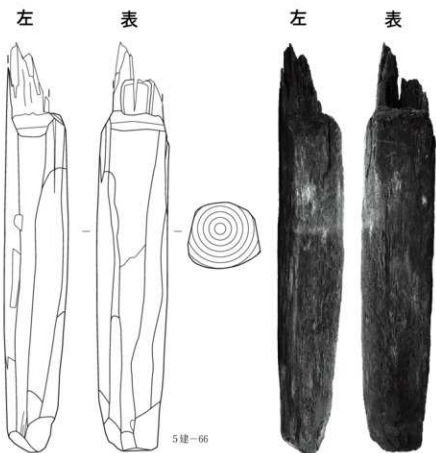
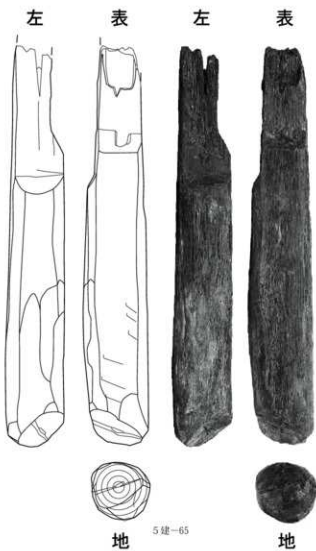
第314图 I区5号建物出土遺物59~61

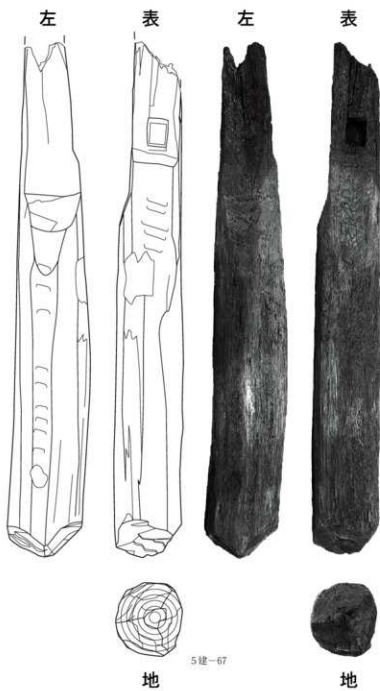


0 1:6 12cm

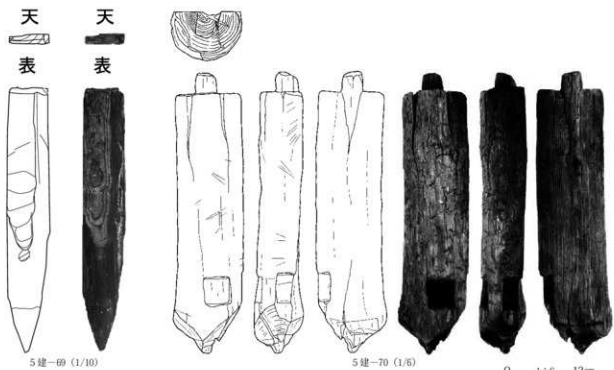
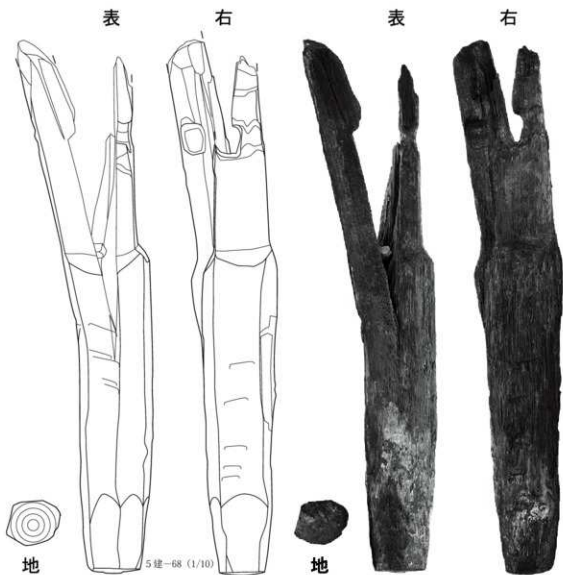
0 1:10 25cm

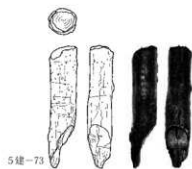
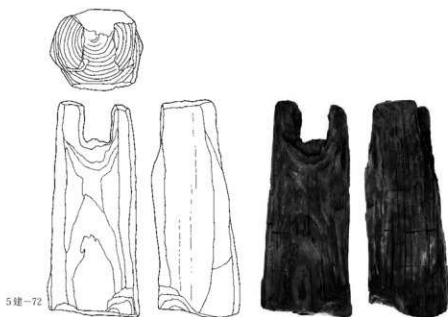
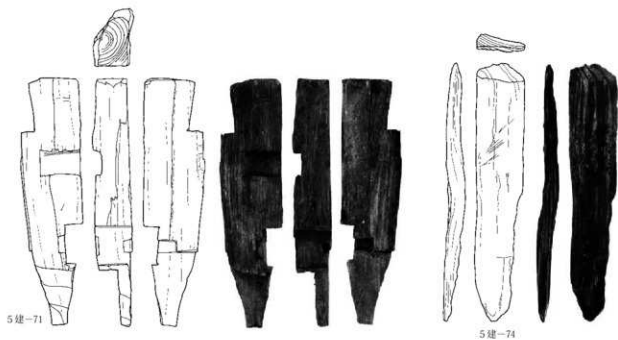
第315图 I区5号建物出土遗物62~64





第317图 I区5号建物出土物67

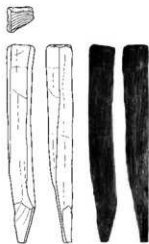
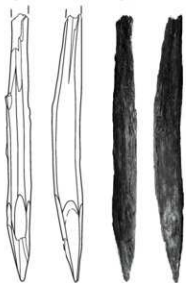




0 1:6 12cm

第319图 I区5号建物出土遗物71~74

表 右 表 右



5 埧-76 (1/6)



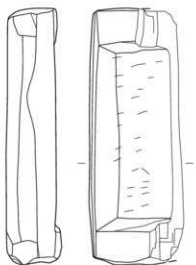
5 埧-77 (1/6)



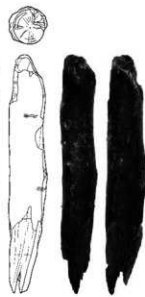
5 埧-75 (1/10)

地 地

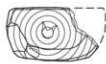
左 表



左 表



5 埧-79 (1/6)



地



地

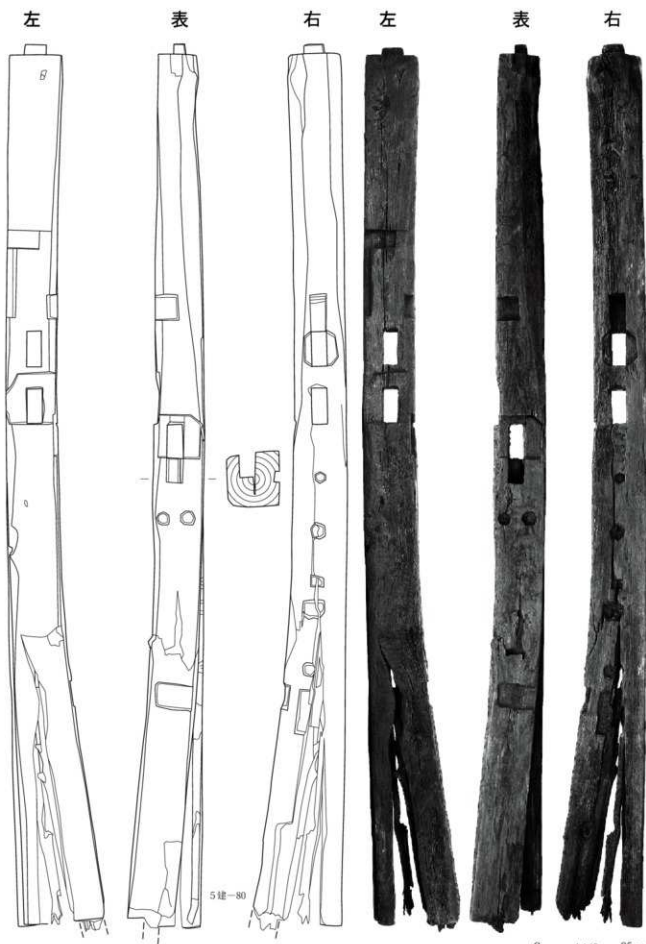


5 埧-78 (1/10)

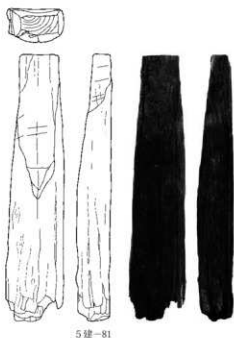
0 1:6 12cm

0 1:10 25cm

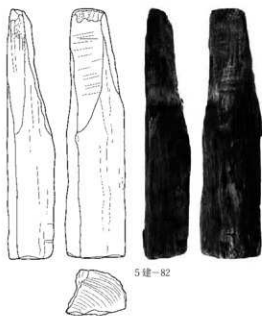
第320图 I区5号建物出土遺物75~79



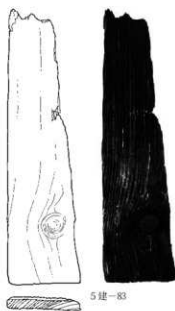
第321图 Ⅰ区5号建物出土物80



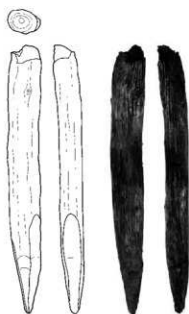
5建-81



5建-82



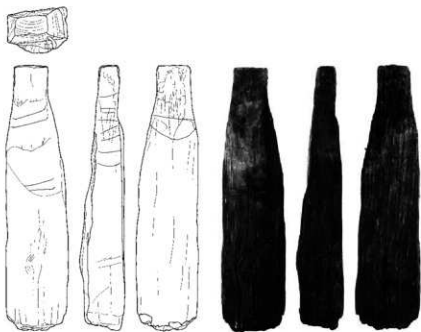
5建-83



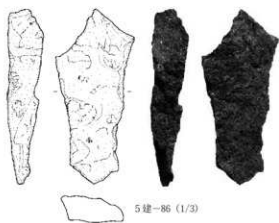
5建-84

0 1:6 12cm

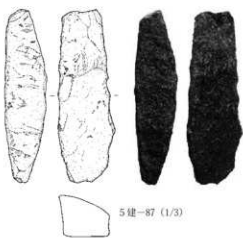
第322图 I区5号建物出土遗物81~84



5建-85 (1/6)



5建-86 (1/3)

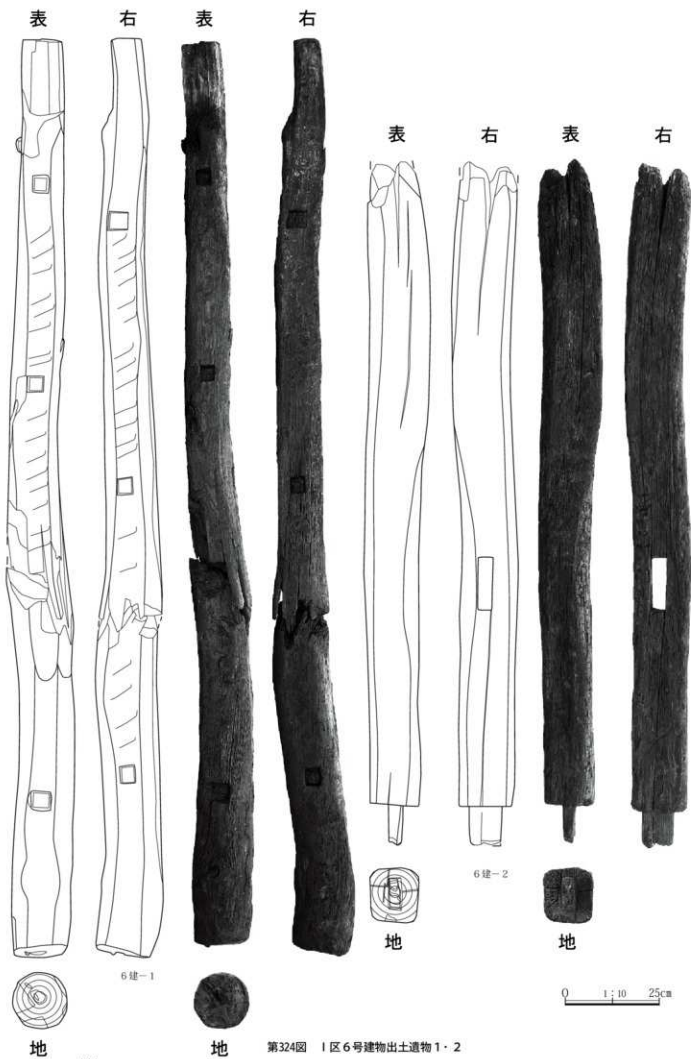


5建-87 (1/3)

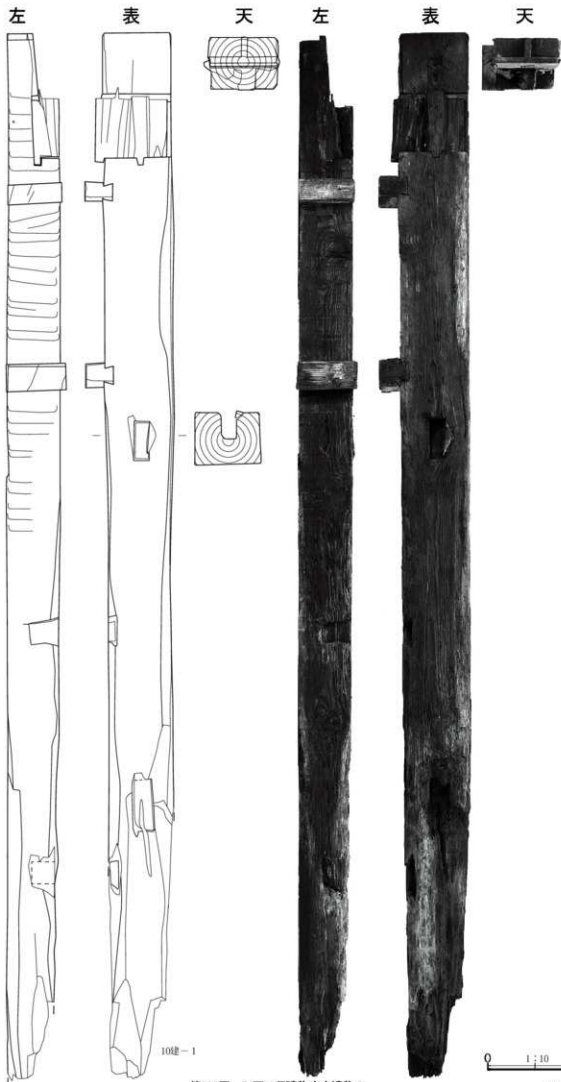
0 1:3 10cm

0 1:6 12cm

第323图 I区5号建物出土遺物85~87

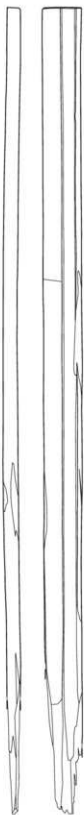


第324图 I区6号建物出土遗物1·2



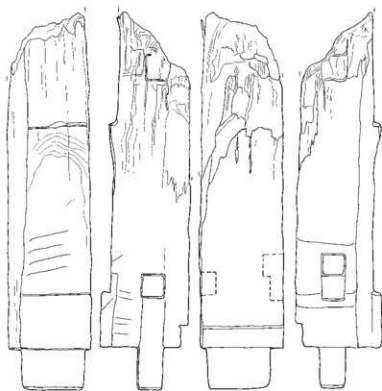
第325图 IV区10号建物出土物1

天
表
左

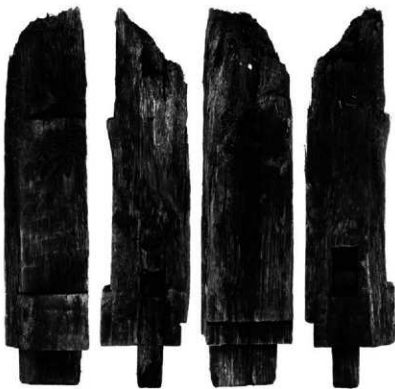


10建-2 (1/10)

天
表
左

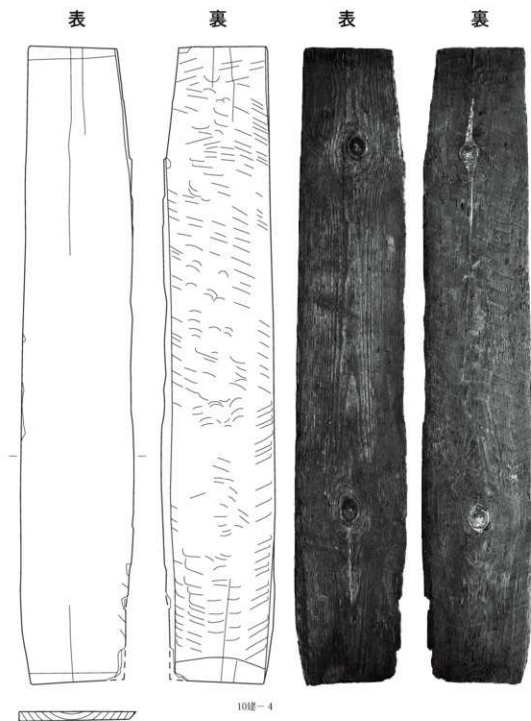


10建-3 (1/6)



0 1:6 12cm

0 1:10 25cm



第327图 IV区10号建物出土遗物4



天



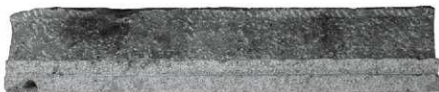
天

10建-5 (1/6)

裏



右



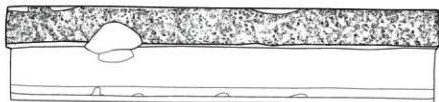
表



左



裏



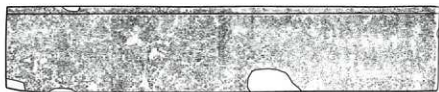
右



表



左



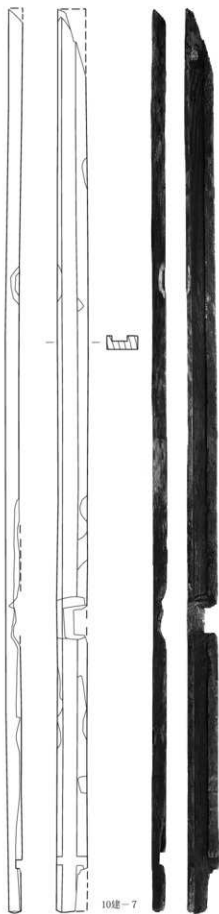
10建-6 (1/10)

第328图 IV区10号建物出土遗物 5·6

0 1:6 12cm

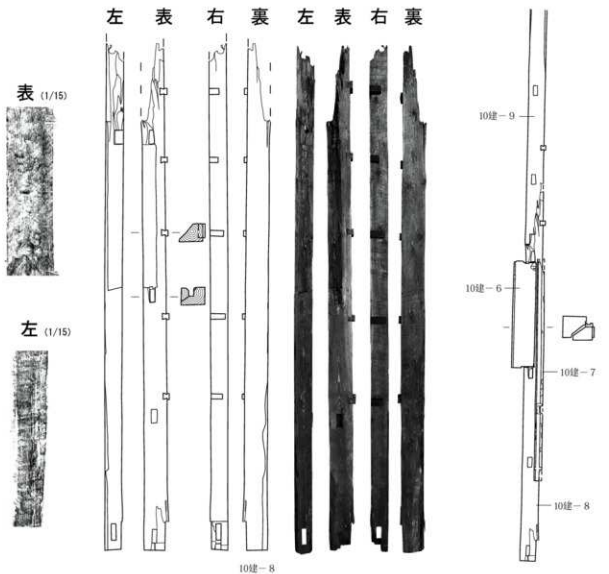
0 1:10 25cm

左 表 左 表



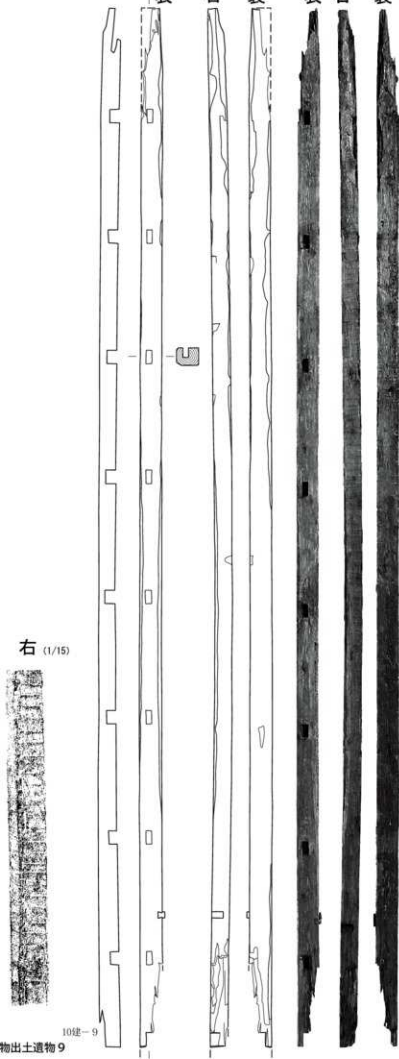
第329图 IV区10号建物出土遗物7

0 1:10 25cm
469

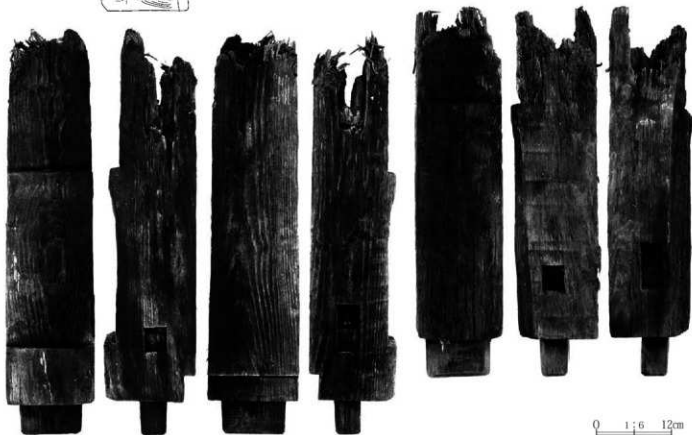
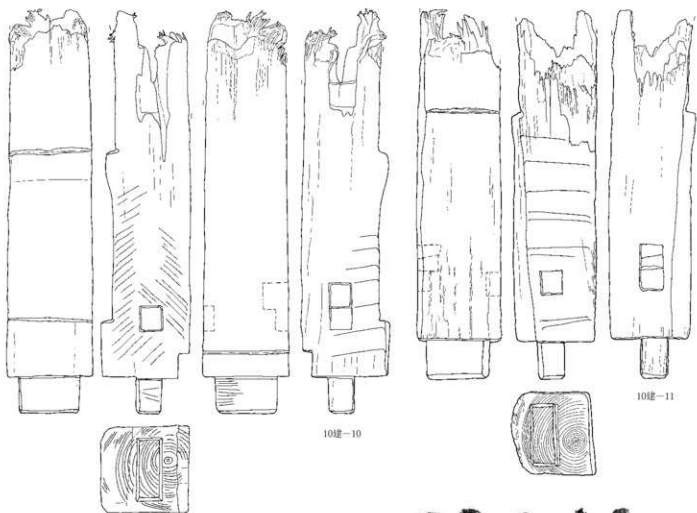


第330图 IV区10号建物出土遗物8

表 右 裏 表 右 裏



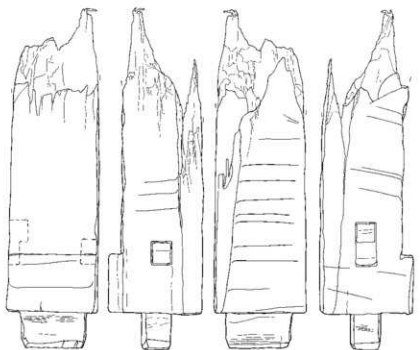
第331图 IV区10号建物出土遗物9



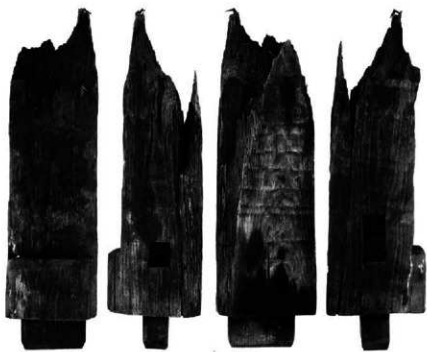
472

第332图 IV区10号建物出土遗物10·11

0 1:6 12cm

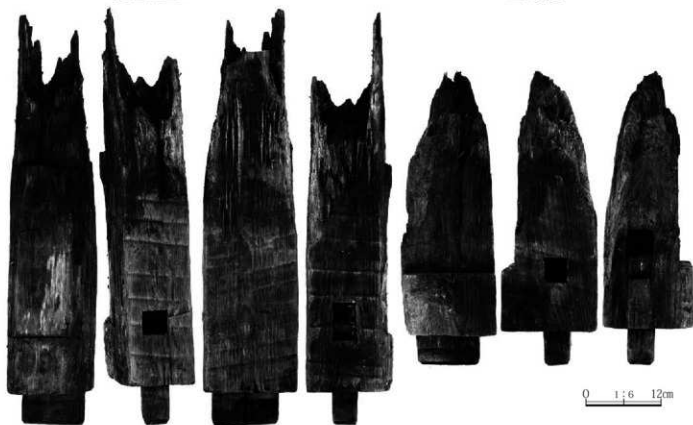
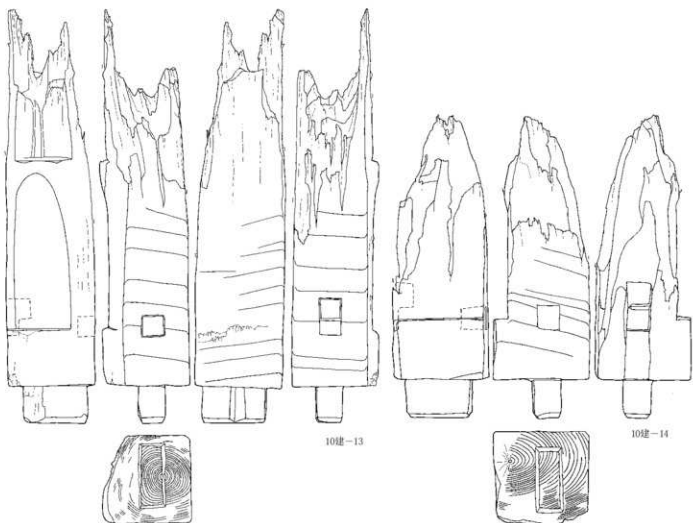


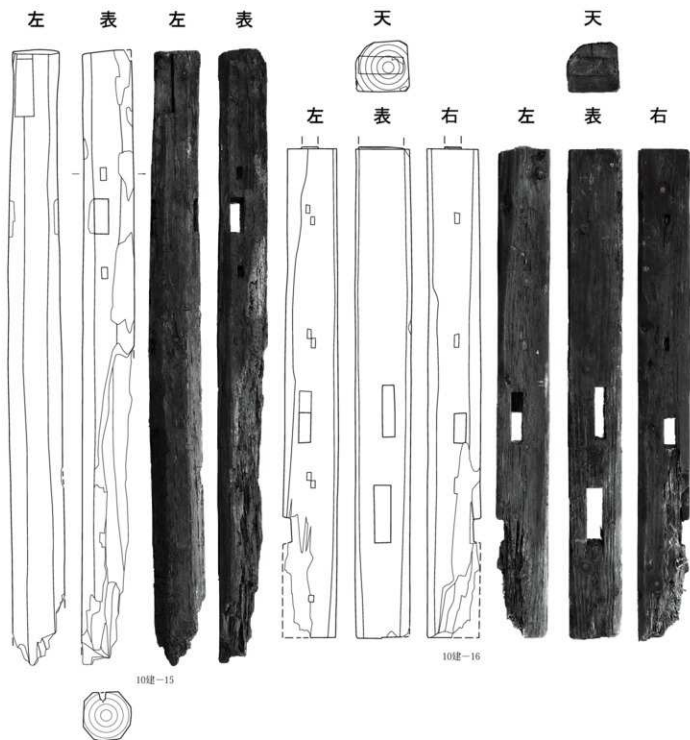
10建-12



0 1:6 12cm

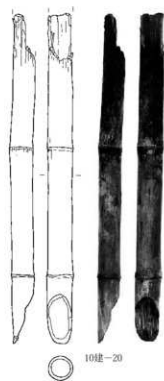
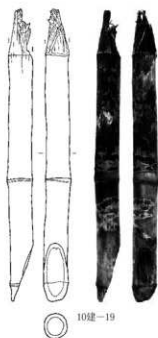
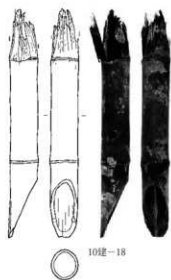
第333图 IV区10号建物出土遗物12





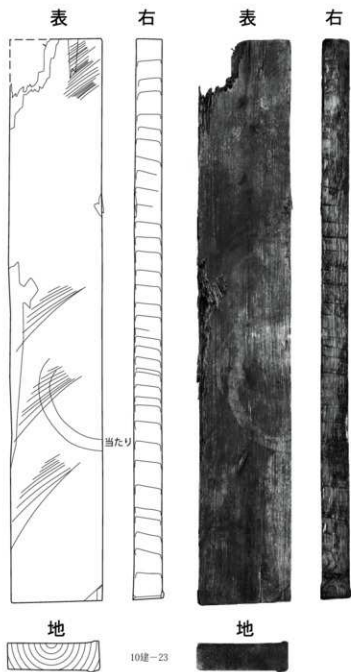
第335图 IV区10号建物出土遗物15·16

0 1:10 25cm



0 1:6 12cm

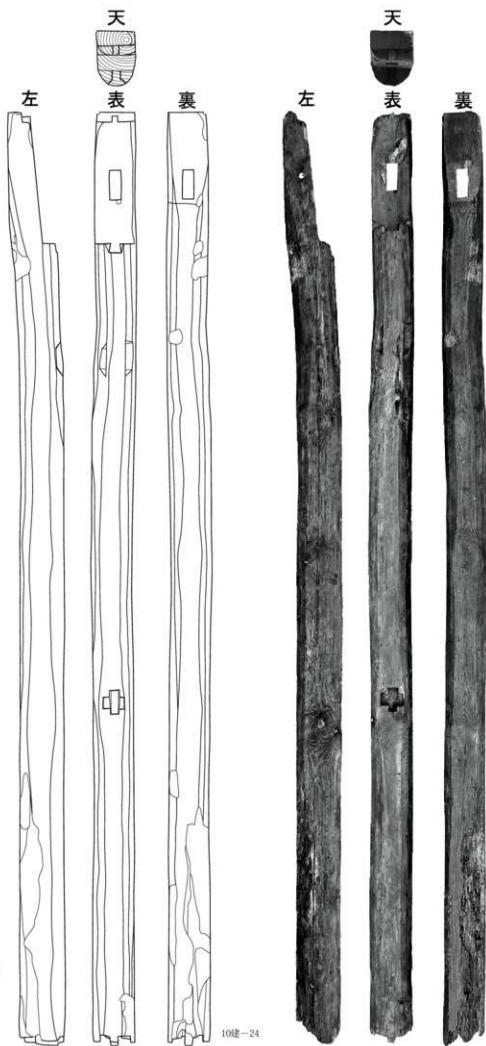
第336图 IV区10号建物出土遺物17~22



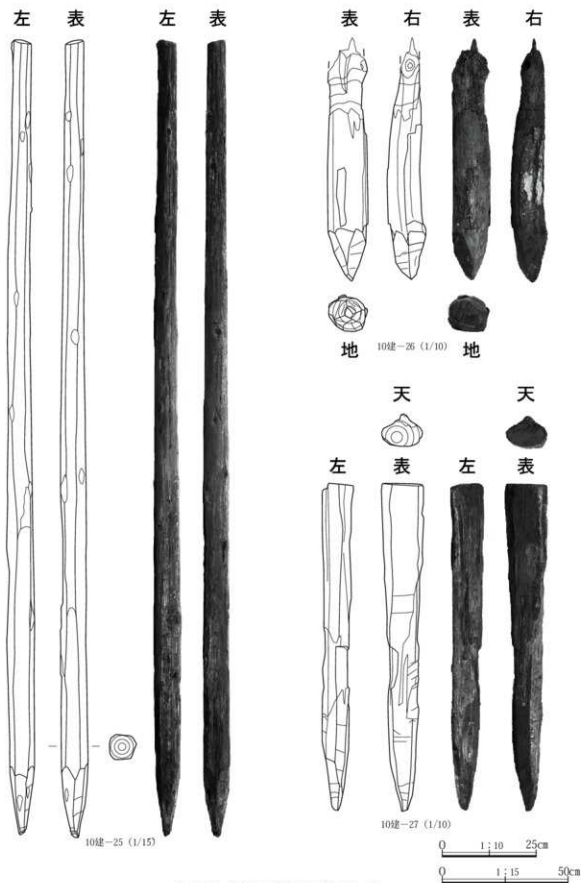
第337図 IV区10号建物出土遺物23



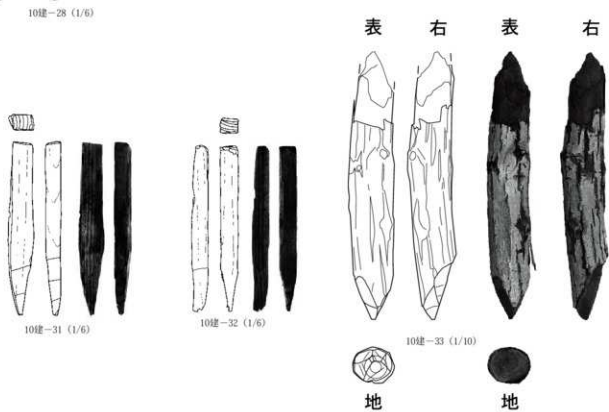
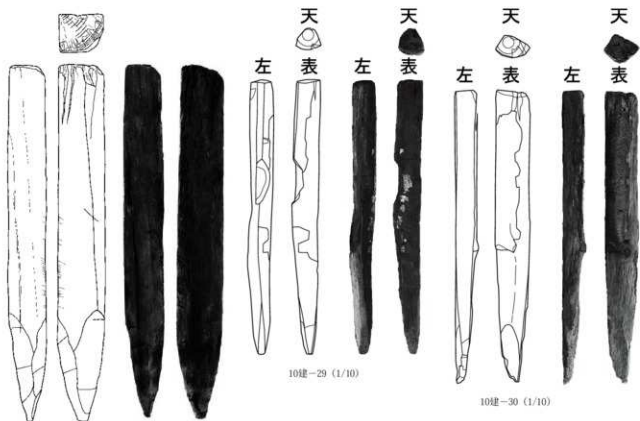
478



第338图 IV区10号建物出土遺物24



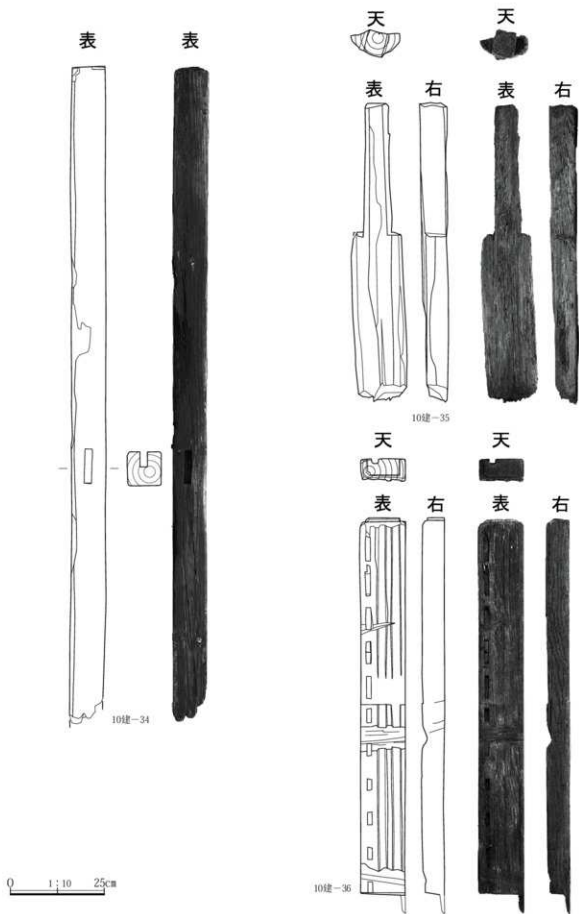
第339图 IV区10号建物出土遺物25~27



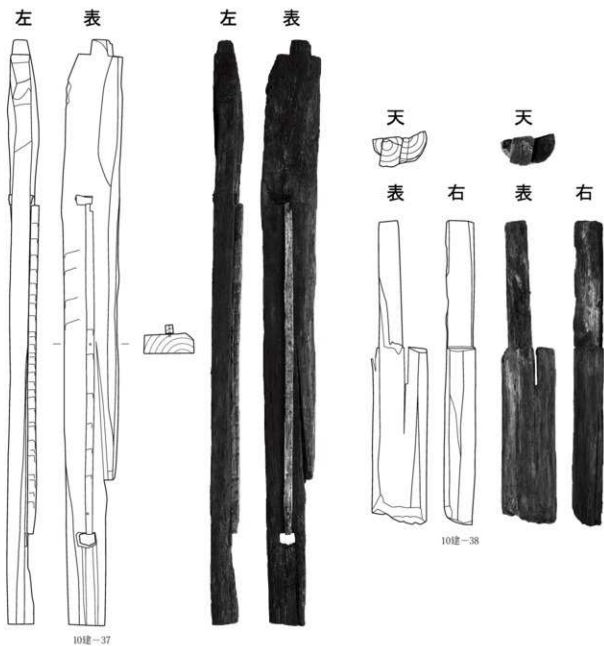
0 1:6 12cm

0 1:10 25cm

第340图 IV区10号建物出土遗物28~33

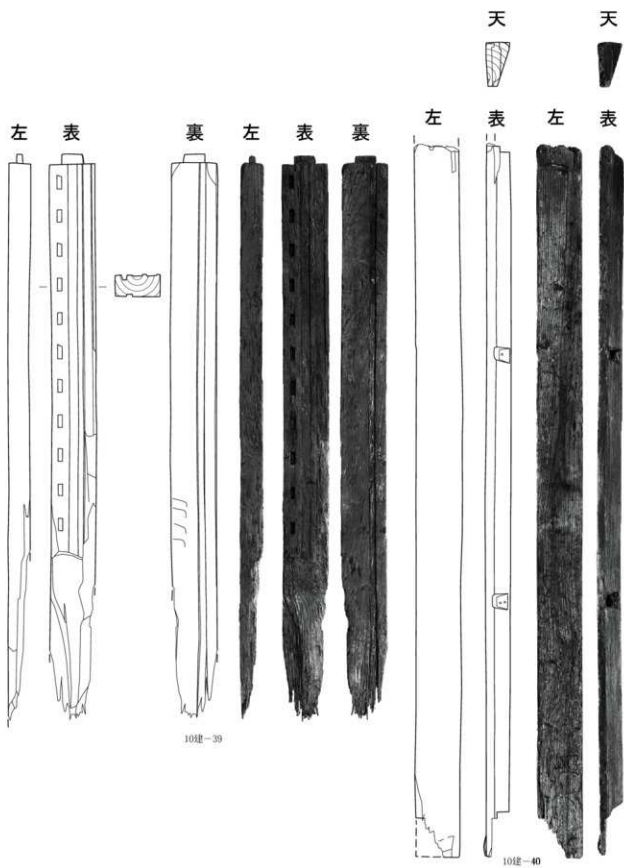


第341图 IV区10号建物出土遗物34~36



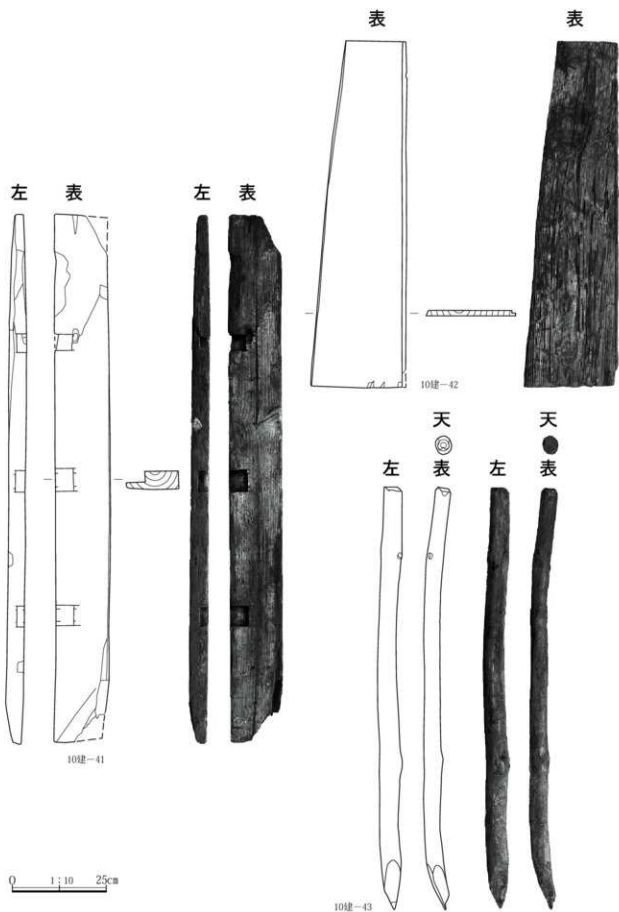
0 1:10 25cm

第342图 IV区10号建物出土遗物37·38



第343图 IV区10号建物出土遗物39·40

0 1:10 25cm



第344图 IV区10号建物出土遗物41~43